

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	10210
科目	1021 歴史学	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		

授業概要	歴史に苦手意識がある人に対しても、一般教養の試験に必要という人、また、教養を深めたいという人にとっても、理解しやすい講義となっている。日本の歴史を振り返る取り組みを通じて「歴史は繰り返すこと」を学ぶ。そのことを通じて、その繰り返しは人生の中にも現る。歴史を学ぶことで人生の「なぜ？」をなくすことを目標とする。加えて歴史的な知識がコミュニケーションの道具として役立てられるようにする事も目標とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		△	○	△				
到達目標	1. 歴史について興味を持つことができる。 2. 歴史上の出来事について「なぜ」という疑問を持つことができる。 3. 歴史上の出来事から学んだことを自分の生き方に活かすことができる。 4. 将来社会人になった時に歴史から学んだ知識を活用することができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
読むだけですっきりわかる日本史	後藤武士	宝島社文庫	524	9784796663991	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	課題やテストで、講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。注意の対象となる受講態度は減点の対象となることがある。必ず課題を提出すること。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する (基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	なし
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと (第 2 回～ 15 回 /0.75 時間程度) 2. 課題に取り組む (第 2 回～ 15 回 /1.3 時間程度) 3. 毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする (第 2 回～ 15 回 /0.5 時間程度) 4. 第 16 回定期試験「毎回の小テスト」を参考に 15 回分の講義を振り返る (第 1 回～ 15 回 /2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス ー自分の好きな時代とその理由ー (グループワーク) 第 2 回 (講義) 旧石器から古墳時代 (グループワーク) 第 3 回 (講義) 江戸時代と明治維新 (グループワーク) 第 4 回 (講義) なるほど 飛鳥時代から天武王朝時代 (グループワーク) 第 5 回 (講義) あおによし 奈良時代 (グループワーク) 第 6 回 (講義) 千年の都 平安時代 (グループワーク) 第 7 回 (講義) 武士の生き方 鎌倉時代 (グループワーク) 第 8 回 (講義) 南北朝 室町時代 (グループワーク) 第 9 回 (講義) 幸せを求めて 戦国時代 (グループワーク) 第 10 回 (講義) 平和をもとめて 江戸時代 (グループワーク) 第 11 回 (講義) 農業中心の国づくり 江戸時代 (グループワーク) 第 12 回 (講義) 近代の夜明け 明治時代 (グループワーク) 第 13 回 (講義) 挫折と頂点 大正、昭和時代 (グループワーク) 第 14 回 (講義) 歴史を振り返る (グループワーク) 第 15 回 (講義) 日本のこれから (グループワーク) ※進捗状況により内容を変更する場合があります。 ※ディスカッションを毎回行い理解を深めます。 ※授業内で実施した小テストはなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。
--------------	---

ナンバリング	PEFL2013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	11220
科目	1122 憲法	授業種別	週間授業
科目責任者	青嶋 敏	単位数	2 単位
担当教員	青嶋 敏		

授業概要	日本国憲法は個人の尊重(尊厳)を実現するための人権保障の体系であり、それゆえ日本国憲法は自由の基礎法、制限規範性、最高法規性という三つの特質をもっている。そこで、この授業では、まず立憲主義と国民主権の原理について学修したのち、基本的人権に関する規定内容、統治機構に関する規定内容および憲法保障に関する規定内容について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		○				
到達目標	この授業では、「憲法」が幼稚園教諭免許取得のための必修科目であることや公務員試験の受験を目指す受講者の存在を考慮し、日本国憲法の基本的仕組みについて通説・判例を中心として講義する。その到達目標は以下の通りである。 1. 近代憲法と立憲主義との関係を説明することができる。 2. 基本的人権に関する規定の概要を説明することができる。 3. 統治機構と憲法保障に関する規定の概要を説明することができる。 4. 人権保障が目的であり、統治機構と憲法保障はこの目的実現のための手段であることを説明することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
伊藤真の憲法入門 講義再現版 第7版	伊藤 真	日本評論社	本体 1800 円＋税	9784535526983	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	上記の教科書の記述内容に基づく講義メモや参考資料をあらかじめ随時配付する。
------------------------------	---------------------------------------

成績評価	1. 授業の到達目標をどの程度達成できているかを、ウェブ上で出題する提出課題(第2回～第15回)および学期末に行う筆記試験で総合評価する。 2. 劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
ウェブ上で出題する提出課題	60%	毎回の授業内容を的確に理解できているかを評価する。
学期末に行う筆記試験	40%	講義内容全体の理解度と到達目標の達成度を評価する。

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前学修(各2時間程度/15回) ・教科書の指定箇所をあらかじめ熟読しておくこと。 ・随時配布するプリント(講義メモ、参考資料)をあらかじめ熟読しておくこと。 2. 事後学修(各2時間程度/15回) ・教科書、配布プリント(講義メモ、参考資料)、授業中の説明および各自のノートに基づき、講義内容を整理し復習しておくこと。 ・ウェブ上で出題する提出課題に取り組み、提出すること。

授業の実施方法と授業計画	【授業の実施方法】 1. 下記の【授業計画】に示したテーマについて、教科書・講義メモ・参考資料に基づき、パワーポイントのスライドを利用して講義する。 2. 毎回「質問書」を講義開始時に配付し、講義終了後に回収する。受講者全員で共有すべき質問については、次回の講義の際に紹介し回答する。 3. 講義室内での着席については、学籍番号順の座席指定制とローテーション制を採用する。 4. 上記の「質問書」によって出欠の確認を行う。 【授業計画】 第1回(講義) 憲法とは何か 第2回(講義) 憲法の特質 第3回(講義) 立憲主義と現代国家 第4回(講義) 国民主権の原理 第5回(講義) 基本的人権の原理1(人権宣言の歴史、人権の観念) 第6回(講義) 基本的人権の原理2(人権の内容、人権の主体) 第7回(講義) 基本的人権の限界 第8回(講義) 包括的基本権と法の下での平等 第9回(講義) 精神的自由権 第10回(講義) 経済的自由権と人身の自由 第11回(講義) 受益権、参政権、社会権 第12回(講義) 権力分立と統治機構1(国会、内閣) 第13回(講義) 権力分立と統治機構2(裁判所、地方自治) 第14回(講義) 憲法保障(違憲審査制) 第15回(講義) 平和主義の原理 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ★提出課題については、提出期限後に解答を配付し所要のコメントを行なう。
--------------	--

ナンバリング	PEFL1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	12520		
科目	1252 数学基礎			授業種別	週間授業		
科目責任者	木下 勝義			単位数	2 単位		
担当教員	木下 勝義						
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算とその有用性を確認し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高めていく。また、一般常識としての基礎的な数学の知識を再確認し、応用問題に対応できる能力の向上を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	△	△					
到達目標	1. 基本的な概念や原理・法則に基づいて解を導くことができる。 2. 数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。 3. 身近な課題に対し数学的なアプローチができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	1 時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また、各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。 この他に、課題や練習問題など、適宜配布する。
------------------------------	---

成績評価	評価は定期試験(筆記試験)と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。定期試験について詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。
小テスト	30%	各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。
課題提出	20%	プリントや課題などへの取組状況と提出状況で評価する。

受講条件	受講条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前学修として問題冊子の関連部分を予習してくること。(第 2~ 第 15 回 /1 時間程度) 2. 事後学修として授業で得た学びを整理し確実なものとしておくこと。(第 1~ 第 14 回 /1 時間程度) 3. 毎時間、授業の前半では計算演習プリントを配布し演習を行う。その内容の小テストを次の授業で実施することから、小テストに向けた準備をしてくること。(第 3~ 第 15 回 /0.5 時間程度) 4. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次の授業までに調べて提出すること。(第 2~ 第 14 回 /0.5 時間程度) 5. これまで取り組んだ小テストや問題冊子などを整理し、定期試験範囲の復習を行うこと。(第 14~ 第 15 回 /2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) ガイダンス 到達度確認テスト 基礎的な四則演算 第 2 回 (講義・演習) 公約数 倍数 第 3 回 (講義・演習) 整数と分数 文字と式 式の値 第 4 回 (講義・演習) 比例 反比例 第 5 回 (講義・演習) 1 次方程式 2 次方程式 第 6 回 (講義・演習) 無理数・指数の計算 第 7 回 (講義・演習) 数列・n 進法 第 8 回 (講義・演習) 文章題 1 (濃度) 第 9 回 (講義・演習) 文章題 2 (速度) 第 10 回 (講義・演習) 文章題 3 (売買他) 第 11 回 (講義・演習) 文章題 4 (仕事・年齢他) 第 12 回 (講義・演習) 文章題 5 (植木算) 第 13 回 (講義・演習) 文章題 6 (論理) 第 14 回 (講義・演習) 文章題 7 (場合の数・順列・組み合わせ) 第 15 回 (講義・演習) 文章題 8 (確率) ※第 8 回~第 15 回、文章題の応用として、グループワークで調べ、解答について発表する問題も提示する。 ※第 8 回~第 15 回の文章題の授業においても必要な計算問題について説明し、演習を行う。 ※ただし受講学生の進捗状況に応じて内容は変更することもある。 ※小テスト、課題の返却時にコメントすることでフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	PEFL1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	12521		
科目	1252 数学基礎			授業種別	週間授業		
科目責任者	木下 勝義			単位数	2 単位		
担当教員	木下 勝義						
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算とその有用性を確認し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高めていく。また、一般常識としての基礎的な数学の知識を再確認し、応用問題に対応できる能力の向上を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	△	△					
到達目標	1. 基本的な概念や原理・法則に基づいて解を導くことができる。 2. 数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。 3. 身近な課題に対し数学的なアプローチができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	1 時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また、各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。 この他に、課題や練習問題など、適宜配布する。
------------------------------	---

成績評価	評価は定期試験(筆記試験)と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。定期試験について詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。
小テスト	30%	各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。
課題提出	20%	プリントや課題などへの取組状況と提出状況で評価する。

受講条件	受講条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前学修として問題冊子の関連部分を予習してくること。(第 2~ 第 15 回 /1 時間程度) 2. 事後学修として授業で得た学びを整理し確実なものとしておくこと。(第 1~ 第 14 回 /1 時間程度) 3. 毎時間、授業の前半では計算演習プリントを配布し演習を行う。その内容の小テストを次の授業で実施することから、小テストに向けた準備をしてくること。(第 3~ 第 15 回 /0.5 時間程度) 4. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次の授業までに調べて提出すること。(第 2~ 第 14 回 /0.5 時間程度) 5. これまで取り組んだ小テストや問題冊子などを整理し、定期試験範囲の復習を行うこと。(第 14~ 第 15 回 /2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) ガイダンス 到達度確認テスト 基礎的な四則演算 第 2 回 (講義・演習) 公約数 倍数 第 3 回 (講義・演習) 整数と分数 文字と式 式の値 第 4 回 (講義・演習) 比例 反比例 第 5 回 (講義・演習) 1 次方程式 2 次方程式 第 6 回 (講義・演習) 無理数・指数の計算 第 7 回 (講義・演習) 数列・n 進法 第 8 回 (講義・演習) 文章題 1 (濃度) 第 9 回 (講義・演習) 文章題 2 (速度) 第 10 回 (講義・演習) 文章題 3 (売買他) 第 11 回 (講義・演習) 文章題 4 (仕事・年齢他) 第 12 回 (講義・演習) 文章題 5 (植木算) 第 13 回 (講義・演習) 文章題 6 (論理) 第 14 回 (講義・演習) 文章題 7 (場合の数・順列・組み合わせ) 第 15 回 (講義・演習) 文章題 8 (確率) ※第 8 回~第 15 回、文章題の応用として、グループワークで調べ、解答について発表する問題も提示する。 ※第 8 回~第 15 回の文章題の授業においても必要な計算問題について説明し、演習を行う。 ※ただし受講学生の進捗状況に応じて内容は変更することもある。 ※小テスト、課題の返却時にコメントすることでフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	PEFL1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	12460			
科目	1246 総合講座			授業種別	週間授業			
科目責任者	伊藤 圭一			単位数	2 単位			
担当教員	伊藤 圭一							
授業概要	「人として、社会人として」社会に巣立つにふさわしい社会人基礎力を修得し、社会情勢を見る眼を養うことを主眼とする。授業では、一般常識として必要な知識を学ぶと同時に、ニュースを的確に把握できるようにする。更に、一般常識から発展して、公務員試験につながる知識を得ることも目標とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	○				
到達目標	1. 世の中で起きている出来事から必要な情報を正しく理解し、活用できる。 2. 社会人として必要な知識を身に付け、活用できる。 3. 一般常識を十分に理解し活用することができる。 4. 身につけた知識を社会人として活かすことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ススイわかる保育士採用 教養試験問題集 2026 年度版	保育士採用試験情報研究会	TAC 出版	1,870	3 月刊行のため未定	3 月刊行のため価格は 2025 年版のもの
2026 年度版ニュース検定公式テキスト問題集「時事力」基礎編	日本ニュース時事能力検定協会	毎日新聞出版社	1,540	9784620907697	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	課題やテストを通じて講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。なお注意の対象となる受講態度は減点となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容の評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(第 2～15 回 /0.5 時間程度) 2. 課題に取り組む(第 2 回～ 15 回 /1.5 時間程度) ※ Googleclassroom を利用する 3. 前回の講義のポイントを復習する(第 2 回～ 15 回 /0.5 時間程度) 4. 第 16 回定期試験「毎回の復習テスト」のために、15 回分の講義を振り返る(第 1 回～ 15 回 / 合計 25 時間程度：一回分を 1 時間 40 分程度を目安に)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス(ディスカッション) 第2回 (講義) 時事の解説①(憲法と政治) (ディスカッション) 社会人基礎力①(憲法を知る・推理する力を身につける) 第3回 (講義) 時事の解説②(選挙と国会を知る・推理する技術を身につける) 社会人基礎力②(経済の仕組みを知る・推理する力を応用する) 第4回 (講義) 時事の解説③(近隣の国々) (ディスカッション) 社会人基礎力③(国際問題について理解する・図形に対する推理力を身につける) 第5回 (講義) 時事の解説④(地方自治) (ディスカッション) 社会人基礎力④(地方自治の仕組みについて理解する・数から推理する基礎を学ぶ) 第6回 (講義) 時事の解説⑤(日本経済) (ディスカッション) 社会人基礎力⑤(世界の思想について知る・数から推理する力を身につける) 第7回 (講義) 時事の解説⑥(産業と貿易) (ディスカッション) 社会人基礎力⑥(日本の歴史について理解する・数から推理する技術を身につける) 第8回 (講義) 時事の解説⑦(エネルギー問題) (ディスカッション) 社会人基礎力⑦(世界の気候について理解する・資料を見て分析する基礎を身につける) 第9回 (講義) 時事の解説⑧(少子高齢化) (ディスカッション) 社会人基礎力⑧(世界の産業について理解する・資料を見て分析する力を高める) 第10回 (講義) 時事の解説⑨(社会保障の現状) (ディスカッション) 社会人基礎力⑨(社会保障制度の基礎について理解する・資料の種類別の特徴を知る) 第11回 (講義) 時事の解説⑩(社会保障の未来) (ディスカッション) 社会人基礎力⑩(社会保障制度の問題点について理解する・資料について理解を深める) 第12回 (講義) 時事の解説⑪(働く環境) (ディスカッション) 社会人基礎力⑪(文学芸術についての基礎を学ぶ・立体図形について学ぶ) 第13回 (講義) 時事の解説⑫(震災からの復興) (ディスカッション) 社会人基礎力⑫(地学など自然科学についての基礎を学ぶ・軌跡について学ぶ) 第14回 (講義) 時事の解説⑬(差別のない社会) (ディスカッション) 社会人基礎力⑬(現代社会についての問題点について学ぶ・展開図について学ぶ) 第15回 (講義) これまでの知識のまとめ(ディスカッション) ※前回の講義の内容理解度チェックについては「クリッカー」を使い回答をしていただく。 ※なお、履修している学生の習熟度により、シラバスの内容が変更となる場合がある。 ※授業内で実施した小テストはなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※ Googleclassroom を使用して資料を提供しや Google フォームで課題を提供する。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがある。
--------------	--

ナンバリング	PEFL2014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	10420			
科目	1042 表現学			授業種別	週間授業			
科目責任者	朝元 尊			単位数	1 単位			
担当教員	朝元 尊							
授業概要	子どもの表現や活動意欲を引き出すためには、保育者自身の表現力や子どもとの関わり方が大切である。この授業では、日本の伝統楽器である和太鼓について、その歴史や扱い方を始め、保育現場で活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、日本人としてのリズム、間合いを意識した遊びや表現方法の理解を深め、リズムで表現し、リズムで他者と繋がることの保育的な意義を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	△				
到達目標	保育に関する専門的な知識や技能の1つとして和太鼓を通じたあそびや表現方法を習得する。また、音を通して他者とのコミュニケーションをとり、協働して表現できることを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 日本の伝統文化、表現方法を理解し、協働しながら実践することができる。 2. 日本の伝統文化と保育の繋がりを理解し、説明できる。 3. 保育者としての自覚を持ち、自らの課題に保育の表現技術として実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの未来を拓く 保育内容「表現」	花輪 充	青踏社	税込 2,090 円	978-4-902636-72-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を配布する。
------------------------------	------------

成績評価	授業の到達目標をどの程度達成できているかを評価する。また、責任感を待って意欲的に取り組む姿勢や協働する力なども評価の対象とするので、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	50%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
小テスト	20%	授業内容の理解度を確認する
発表	30%	授業内容を応用・実践しているかを確認する

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業までに、前授業の復習・確認を行うこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～14回/1時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習の内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス・太鼓の準備・設営についての説明 第2回 (実技) 太鼓の起源(世界の歴史から)・太鼓の扱い方 第3回 (実技) 太鼓の歴史(日本・文化から)・打ち方の基礎①(所作・基礎打ち) 第4回 (実技) 太鼓の特徴と種類について・打ち方の基礎②(音の強弱) 第5回 (実技) ばちの素材と使い方・作り方について・打ち方の基礎③(音を繋げる) 第6回 (実技) 日本各地の演奏スタイルと技術・伝統芸能に触れる 第7回 (実技) 幼児と太鼓(保育や行事での実践事例)・コール&レスポンス(即興演奏) 第8回 (実技) 高齢者及び障がい者と太鼓(福祉施設の実践事例)・音の創作(グループワーク) 第9回 (実技) 太鼓と表現①(低音、中音、高音のアンサンブル) 第10回 (実技) 太鼓と表現②(言葉と太鼓・言葉のリズムの創作) 第11回 (実技) 太鼓と表現③(数字と太鼓・数字のリズムの創作) 第12回 (実技) 太鼓と表現④(自身の特徴を把握する) 第13回 (実技) 太鼓と表現⑤(自身の表現力・集団の表現力を高める) 第14回 (実技) 小発表会(リハーサル)と振り返り 第15回 (実技) 発表会(全クラス合同)・まとめ ※ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※各回の最初に前回の内容に関する実技及び小テストを行い、自己課題に対する反復練習及び解説を行う。 ※授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。
--------------	---

ナンバリング	PEFL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	10421			
科目	1042 表現学			授業種別	週間授業			
科目責任者	朝元 尊			単位数	1 単位			
担当教員	朝元 尊							
授業概要	子どもの表現や活動意欲を引き出すためには、保育者自身の表現力や子どもとの関わり方が大切である。この授業では、日本の伝統楽器である和太鼓について、その歴史や扱い方を始め、保育現場で活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、日本人としてのリズム、間合いを意識した遊びや表現方法の理解を深め、リズムで表現し、リズムで他者と繋がることの保育的な意義を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	△				
到達目標	保育に関する専門的な知識や技能の1つとして和太鼓を通じたあそびや表現方法を習得する。また、音を通して他者とのコミュニケーションをとり、協働して表現できることを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 日本の伝統文化、表現方法を理解し、協働しながら実践することができる。 2. 日本の伝統文化と保育の繋がりを理解し、説明できる。 3. 保育者としての自覚を持ち、自らの課題に保育の表現技術として実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの未来を拓く 保育内容「表現」	花輪 充	青踏社	税 込 2,090 円	978-4-902636-72-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を配布する。
------------------------------	------------

成績評価	授業の到達目標をどの程度達成できているかを評価する。また、責任感を待って意欲的に取り組む姿勢や協働する力なども評価の対象とするので、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	50%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
小テスト	20%	授業内容の理解度を確認する
発表	30%	授業内容を応用・実践しているかを確認する

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業までに、前授業の復習・確認を行うこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～14回/1時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習の内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス・太鼓の準備・設営についての説明 第2回 (実技) 太鼓の起源(世界の歴史から)・太鼓の扱い方 第3回 (実技) 太鼓の歴史(日本・文化から)・打ち方の基礎①(所作・基礎打ち) 第4回 (実技) 太鼓の特徴と種類について・打ち方の基礎②(音の強弱) 第5回 (実技) ばちの素材と使い方・作り方について・打ち方の基礎③(音を繋げる) 第6回 (実技) 日本各地の演奏スタイルと技術・伝統芸能に触れる 第7回 (実技) 幼児と太鼓(保育や行事での実践事例)・コール&レスポンス(即興演奏) 第8回 (実技) 高齢者及び障がい者と太鼓(福祉施設の実践事例)・音の創作(グループワーク) 第9回 (実技) 太鼓と表現①(低音、中音、高音のアンサンブル) 第10回 (実技) 太鼓と表現②(言葉と太鼓・言葉のリズムの創作) 第11回 (実技) 太鼓と表現③(数字と太鼓・数字のリズムの創作) 第12回 (実技) 太鼓と表現④(自身の特徴を把握する) 第13回 (実技) 太鼓と表現⑤(自身の表現力・集団の表現力を高める) 第14回 (実技) 小発表会(リハーサル)と振り返り 第15回 (実技) 発表会(全クラス合同)・まとめ ※ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※各回の最初に前回の内容に関する実技及び小テストを行い、自己課題に対する反復練習及び解説を行う。 ※授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。
--------------	---

ナンバリング	PEFL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	12710				
科目	1271 茶道Ⅰ	授業種別	週間授業				
科目責任者	伊藤 敦子	単位数	1 単位				
担当教員	伊藤 敦子						
授業概要	本授業では、茶道（本学は茶道南坊流）点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことを目的とする。茶道学習のはじめの段階として、まず点前を学び、次の段階では主人と客が相互にもてなすことを実践する。茶道具・掛物・季節の花などと接することで、日本の伝統文化についての基礎知識を獲得する。 ※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		△	○	○			
到達目標	1. 茶道を通して、礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことができる。 2. 茶道の基本を習得できる。 3. 茶道を通して、日本の伝統文化の基礎知識を獲得できる。						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	都度プリントを配布する。
------------------------------	--------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト 50%・確認小テスト 50%で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
実技テスト	50%	授業内容の理解度を確認する。
項目別実技確認	50%	授業の取り組み具合、項目ごとの理解度を確認する。

受講条件	受講条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	授業で学んだ内容について、毎回 1.5 時間程度の復習と次回授業前の 1.5 時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること(第2回～第15回)。

授業の実施方法と授業計画	※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。
	※毎時間、季節の室礼（しつらい）を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。
	※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝え、全体に対しても解説する。
	第1回（講義・実習）茶道（南坊流）について説明・お辞儀・挨拶・歩き方の学習 プリント配布（毎時）
	第2回（講義・実習）座り方・襖（障子）の開閉・床の間の拝見 帛紗さばき実習
	第3回（講義・実習）点前の基礎学習① 部分指導（茶器・茶杓・茶巾の扱い方）
	第4回（講義・実習）点前の基礎学習② 部分指導（茶筌通し・茶碗のふき方）
	 &（実技）実技確認小テスト① 帛紗さばきの確認
	第5回（講義・実習）盆点薄茶点前① 盆点前前半① 客に茶を出すまでの実習
	第6回（講義・実習）盆点薄茶点前② 盆点前前半② 菓子の取り方・茶の飲み方の実習
 &（実技）実技確認小テスト② 茶器・茶杓のあらため方確認	
第7回（講義・実習）盆点薄茶点前③ 盆点前前半③ 前半の総復習	
第8回（講義・実習）盆点薄茶点前④ 盆点前通し① 「盆点前」資料配布	
 &（実技）実技確認小テスト③ 茶筌とうじの方法確認	
第9回（講義・実習）盆点薄茶点前⑤ 盆点前通し② 点前の細部・注意事項の確認	
第10回（講義・実習）盆点薄茶点前⑥ 盆点前通し③ 主客の心得を理解する	
 &（実技）実技確認小テスト④ 茶碗の片付け方確認	
第11回（講義・実習）（風炉小板薄茶点前① 点前前半① 柄杓扱いの説明と実習	
第12回（講義・実習）風炉小板薄茶点前② 点前前半③ 水指の扱い方実習	
（実技）実技確認小テスト⑤ 柄杓の扱い方	
第13回（講義・実習）風炉小板薄茶点前③ 点前通し① 点前全体の流れを把握	
第14回（講義・実習）風炉小板薄茶点前④ 点前の細部・注意事項を確認	
第15回（講義・実習）実技テスト練習 盆点前後半の復習	
※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。	
状況によりオンラインを使用する場合がある。	

ナンバリング	PEFL1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	12810			
科目	1281 硬筆書道			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 陽子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 陽子							
授業概要	「文字は人を表す」という。文字には、性格・人柄や知性・気持ち表れるという意味である。「正しく丁寧な文字」「読みやすく整った文字」からは、誠意が伝わり、信頼感も生まれる。この講座では、文字の練習を効率的に行うことにより、手書き文字の質を高め、日々の生活や幼児教育・保育の現場で活かすことを目的に授業を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○			△				
到達目標	1. 正しいペンの持ち方、姿勢を身につける。 2. ひらがな、カタカナ、数字、アルファベットを正しく整えて書くことができる。 3. 漢字の楷書の基本を習得する。 4. 日誌、レポート、手紙などの実践に活用する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
短時間できれいになる大人の美文字レッスン帳 	中山佳子	大泉書店	900円 + 税	978-4-278-03240-6 	
脳に効く!美文字練習帳入門編	青山浩之	文響社	1550円 + 税	978-4-86651-928-9 	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	毎回の授業で補助的練習教材をプリントにて配布する。
------------------------------	---------------------------

成績評価	授業でテキストの指定範囲の練習を行うこと。 毎回の確認テストならびに課題プリントにより、習熟度を評価する。テキストの取り組みについても評価を行う。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト	50%	授業内で説明、練習したことが習得できているかを評価する。
課題プリント	40%	学んだことを活かして、課題に丁寧に取り組んでいるかを評価する。
テキスト	10%	テキストの実技課題を丁寧におこない、主体的に取り組んでいるかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	1. 前回の授業内容の確認テストを実施するので、復習し練習を行う。(第2回～14回 /1時間程度) 2. テキスト、実用的な書式の課題に取り組み提出する。(第1回～15回 /1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) ガイダンス 自己診断シートの作成。ひらがな単体練習① 第2回(講義・実技) 確認テスト①ひらがな単体練習② 課題プリント①提出 第3回(講義・実技) 確認テスト②ひらがな単体練習③ 課題プリント②提出 第4回(講義・実技) 確認テスト③ひらがな単体練習④ 課題プリント③提出 第5回(講義・演習) 確認テスト④ひらがな総復習 課題プリント④提出 第6回(講義・実技) 確認テスト⑤カタカナ単体練習① 課題プリント⑤提出 第7回(講義・実技) 確認テスト⑥カタカナ単体練習② 課題プリント⑥提出 第8回(講義・演習) 確認テスト⑦カタカナ総復習 課題プリント⑦提出 第9回(講義・実技) 確認テスト⑧漢字の基本点画の練習①課題プリント⑧提出 第10回(講義・実技) 確認テスト⑨漢字の基本点画の練習②課題プリント⑨提出 第11回(講義・実技) 確認テスト⑩漢字部首ごとの練習① 課題プリント⑩提出 第12回(講義・実技) 確認テスト⑪漢字部首ごとの練習② 課題プリント⑪提出 第13回(講義・演習) 確認テスト⑫漢字部首ごとの練習③ アルファベット、数字の練習 第14回(講義・演習) 確認テスト⑬ 漢字の熟語、漢字かな混じりの練習 自己診断シートにて上達を確認《テキスト提出》 第15回(講義・演習) 宛名書き、定番挨拶文の練習 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※確認テスト、課題プリント、テキストは評価を行うと同時に、必要に応じて添削を行い、返却の際にコメントをすることで、フィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	PEFL1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	12820			
科目	1282 フラワーアレンジメント			授業種別	週間授業			
科目責任者	高橋 希			単位数	1 単位			
担当教員	高橋 希							
授業概要		現代の住空間、保育環境を意識しながら、四季を楽しむ自然の草花を愛でる伝統文化を理解する。また、花や道具を扱う基礎的な技術を実践的に学ぶ。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		○	○	○	◎			
到達目標		1. 植物に関する基本的な知識について説明でき、道具を適切に扱うことができる。 2. 命あるものを慈しむ心や美しさを感じる感性、豊かな想像力を身につけ表現できる。 3. 自然、植物と親しむことの保育的意義を理解し、実践できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合は、適宜プリント等を配布する。
------------------------------	----------------------

成績評価	課題レポートは各講義の終了時に提出するもので、その出来具合や提出状況等により評価する。 小テストは筆記にて授業理解度を測る。 実技は授業時間内に作品を制作し、作品レポートと共に提出し評価・アドバイスを受けた後、各自持ち帰る。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	40%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。
小テスト	20%	筆記試験にて授業の理解度を確認する。
実技	40%	課題への取り組み方と作品の成果を評価する。

受講条件	受講条件はありません
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容の復習(第1回～15回/1時間程度) 2. 実技の事前準備をする(第3回・第6回・第9回・第12回・第15回前の2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 基礎知識1(花の名前、分類) 第2回 (講義) 季節の花1(ガーベラ・桜) 第3回 (実技) アレンジメント(道具の扱い方、花の挿し方) 第4回 (講義) 基礎知識2(花の水揚げ、管理方法) 第5回 (講義) 季節の花2(カーネーション、菖蒲) 第6回 (実技) ブーケ(花の色合せ、保水・ラッピングの仕方) 第7回 (講義) 基礎知識3(花の安全教育) 第8回 (講義) 季節の花3(バラ、紫陽花) ※小テスト予定 第9回 (実技) アレンジメント(花器と花の組合せ) 第10回 (講義) 基礎知識4(日本の行事と花の関係) 第11回 (講義) 季節の花4(ユリ・菊) 第12回 (実技) コサージュ(ワイヤリングテクニック) 第13回 (講義) 花育1(対象、活動方法) 第14回 (講義) 花育2(企画・計画・運営) 第15回 (実技) 花育3(自由制作) ※実技は制作過程において机間巡視を行い、完成時にコメントすることによってフィードバックする。 ※生鮮の植物を取り扱うため、天候・気象条件等により授業内容が前後する場合がある。 ※受講生の習熟度によっては授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEFL1009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	12830			
科目	1283 ボランティア演習			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	1 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれに関連した NPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				
到達目標	1. わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2. 自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3. 人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4. 対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に付け、実践することができる 5. 組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新・学生のためのボランティア論	赤澤清孝・川中大輔・野尻紀恵（編著）	社会福祉社人大阪ボランティア協会	1,760 円（税込）	978-4-87308-074-1	上記以外は、適宜配布・案内する。
適宜、配布・紹介する。					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題（学外における実習（ボランティア活動）の書類提出、レポート課題含む）で評価。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50%	内容の適切性、分量、期限順守
学外実践活動レポート（事前・事後）	50%	活動の事実、内容の適切性、分量、期限順守

受講条件	なし
事前・事後学修（内容・時間）	1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する（第 1～2 回、第 15 回、各 1 時間程度） 2. 講義によっては、事前課題・事後課題（個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など）を行う（第 3～10 回、13 回、各 1 時間程度） 3. ボランティア先について、調べ、連絡する（指示された日時までに 4 時間程度） 4. 学外でボランティア活動を行う（指示された日時までに、合計 3 時間以上） 5. ボランティア活動についてまとめ、次の目標を定める（指示された日時までに、6 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）人間としての社会生活とボランティア活動（ボランティアをする側とされる側、当事者性とは） 第 2 回（講義）ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義 第 3 回（演習・実技）分野別ボランティア活動（手話、防災、学習支援）（学内講師） 第 4 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（地域福祉・ボランティアコーディネート・青少年育成）（外部講師） 第 5 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（フードバンク、こども食堂）（外部講師） 第 6 回（講義・演習・実技）分野別ボランティア活動（レクリエーション）（外部講師） 第 7 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（医療的ケア・介護分野）（外部講師） 第 8 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（子育て支援、子育て支援）（外部講師） 第 9 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（災害・自然保護・環境・まちづくり）（外部講師） 第 10 回（講義・演習）明るい社会づくり実践体験作文の案内（外部講師）、ボランティア実践活動の意義と計画・実際について 第 11 回（実習）ボランティア実践活動 第 12 回（実習）ボランティア実践活動 第 13 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（障害児向けイベント、ホスピタルクラウン等）（外部講師・映像） 第 14 回（講義）近年の日本におけるボランティア活動・NPO 活動、地域活動の変遷と課題 第 15 回（演習）今後のボランティア活動と NPO の活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFL1010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	12840			
科目	1284 手話入門			授業種別	週間授業			
科目責任者	平松 靖一郎			単位数	1 単位			
担当教員	平松 靖一郎、佐藤 亜子							
授業概要	この授業では、一般社団法人全日本ろうあ連盟発行「はじめて出会う手話」(2018 年発行)を使用し、ろう者が普段使っている自然な手話を学習する。単語にこだわるのではなく、会話の中から学べるよう授業を進めていく。授業を通して、手話の基礎的な技能を習得し、自己表現や対話ができるようになることを目指す。そのため、授業ではまず、「聴覚障がい」についての理解を深め、聴覚障がい者の日常生活における課題や対応方法、コミュニケーション方法を学ぶ。また、日本における手話の歴史や特徴を理解したうえで、手話習得に必要な「観る力」や「表す力」等の基礎表現能力を習得する。さらに、簡単な手話表現の基礎技術を習得し、習得した手話語彙や表現技術を使って会話ができるようになるために、習熟度を高めていく。 ※この授業科目は当該授業内容に関する手話通訳の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義等を行う科目である。平松靖一郎：手話通訳士、愛知県登録手話通訳者、豊橋市登録手話通訳者、豊川市登録手話通訳者、防災士、防災ボランティアコーディネーター							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP 4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				
到達目標	手話言語は、手の形、位置、動きに加えて表情や強弱などで表し、「目」で見えて理解することばです。ろう者と手話言語で日常会話ができるようになることを目標とする。 ①相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができる。 ②耳の仕組みや聴覚障がいの原因を理解するとともに、聴覚障がい者のコミュニケーション方法を理解し、実践できる。 ③聴覚障がい者の日常生活における課題とその対応方法を理解し、説明できる。 目標を達成することで、聴覚障がい者福祉の向上に積極的に貢献できるようになることを期待する。							

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
DVDで楽しく学べるはじめて出会う手話 これ は便利!役に立つ!	『入門対応テキスト』編集 委員会／編集	全日本聾啞連盟	1800	9784904639184		
手話奉仕員養成テキスト「手話で学ぼう手話で話 そう」(全面改訂版)		全国手話研修セン ター	3,300 円	978-4-902158-56-4		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考文献 全日本ろうあ連盟 HP URL https://www.jfd.or.jp/ 手話言語研究所 HP URL https://www.newsigns.jp/
------------------------------	---

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されているかを、定期試験と課題によって総合的に評価する。定期試験は、「日常会話を行うのに必要な手話語彙及び手話表現技術が身についているか。」「聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等について理解できているか。」という観点を中心に評価する。なお、劣悪な学習態度は、減点の対象とする場合がある。劣悪な学習態度とは、コミュニケーションをとろうとしない態度や手話表現実技の際に、手話表現を積極的に行わない態度をさす。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	手話言語による簡単な日常会話ができる手話表現技術及び聴覚障がいの基礎知識の習熟度。
課題レポート	20%	聴覚障がい者福祉制度に関する理解度。

受講条件	履修条件なし
事前・事後学修 (内容・時間)	事前・事後学習 1. 毎授業前に指定箇所の教科書等に目を通しておくこと。(第 1 ～ 15 回／0.5 時間程度) 2. 授業内で講義した内容について適宜調べておくこと。(第 1 ～ 10 回／1 時間程度) 3. 第 16 回定期試験に向けて、授業内で配布した資料の復習を行うこと。(第 11 ～ 15 回／5 時間) 4. 毎授業後に授業で学んだ範囲の付属 DVD で手話の実技練習をしておくこと。(第 1 ～ 10 回／1 時間程度) 5. 毎授業後に授業で紹介した動画サイトの手話の実技練習をしておくこと。(第 11 階～ 15 回／1 時間程度))

授業の実施方法と授業計画	第1回(シーン1) あいさつ実技 :「あいさつ」に関する手話 目で見ることばを使ってみよう(参考書第 1 講座) 講義：ろう文化 / ろう者に呼びかけるときの方法 第2回(シーン2) 自己紹介実技 :「自己紹介」に関する手話 名前を紹介しましょう(参考書第 2 講座) 好きなことについて話しましょう(参考書第 6 講座) 講義：名前の由来 第3回(シーン3) 家族実技 :「家族」に関する手話 家族を紹介しましょう(参考書第 4 講座) 講義：「聴覚障がい」とは 第4回(シーン4) 趣味実技 :「趣味」に関する手話 スポーツや趣味について話しましょう(参考書第 12 講座) 講義：テレビや映画の字幕、手話放送について 第5回(シーン5) 料理・買い物実技 :「料理・買い物」に関する手話 数を使って話しましょう(参考書第 3 講座) 冷蔵庫を買いに行きましょう(参考書第 13 講座) 講義：日常生活の不便 / 補装具など &nbsp; 第6回(シーン6) 病院実技 :病院に関する手話 病気やけがについて話しましょう(参考書第 16 講座) 講義：手話通訳派遣制度について / 「電話リレーサービス」と「遠隔手話通訳」について 第7回(シーン7) 交通実技 :「交通」に関する手話 交通方法について話しましょう(参考書第 5 講座) 家の近くのことを話しましょう(参考書第 14 講座) 講義：手話施策推進法 / 「手話マーク」「筆談マーク」について 第8回(シーン8) 学校実技 :「学校」に関する手話 学校のことを話しましょう(参考書第 18 講座) 講義：ろう学校の歴史 / 聞こえない人の子育て について 第9回(シーン9) 仕事実技 :「仕事」に関する手話 仕事を紹介しましょう(参考書第 7 講座) 講義：合理的配慮について 第10回(シーン10) 天気・自然実技 :「天気・自然」に関する手話 講義：災害が起こったら(聴覚障害者の災害対策) 第11回(シーン11) 1日のこと・1週間のこと 実技 :「1日のこと」や「1週間のこと」に関する手話 1日のことを話しましょう(参考書第 8 講座) 1週間のことを話しましょう(参考書第 11 講座) 第12回(シーン12) 1か月のこと・1年のこと実技 :「1か月のこと」や「1年のこと」に関する手話 1年の思い出を話しましょう(参考書第 20 講座) 第13回(シーン13) イベントのこと実技 :「イベント」の計画を立てましょ う イベントの計画を立てましょ(参考書第 17 講座) 第14回(シーン14) 旅行実技 :「旅行」に行きましょ う 旅行に行きましょ(参考書第 15 講座) 第15回(まとめ) 日常会話実技 :シーン1 ～ 14 までのまとめ まとめ 2 自己紹介(参考書第 10 講座) 今までに学んだことを活かして発表したり、ろう者と会話したりましょう。 第16回 定期試験 授業の第1回から第15回までのまとめとして、筆記試験と実技試験を実施する。 ※試験や課題については、授業時間内で総評を提示するとともに必要に応じて質問や疑問に回答し、フィードバックを行う。 ※学修効果を高めるため、適宜、ビデオ教材を使用する。 ※授業の進行状況及び受講生の理解度によっては、講義計画の変更又は追加補講を実施することがある。 その場合は、その都度案内する。
ナンバリング	CPDM2020

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	12850			
科目	1285 防災安全講座			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位			
担当教員	岡本 雅子、平松 靖一郎、武田 康代							
授業概要	昨今の豪雨災害の激甚化・頻発化は、大学周辺のエリアでも大きな被害をもたらしている。また南海トラフ地震の発生も懸念されている現在、緊急時に自分自身や家族の命を守り、就職先である園・施設・病院・行政機関・企業で役立つ知識・技術を身につけることは、地域防災の貢献につながると考える。授業では、防災の知識を身につけると同時に、実際の災害時にすべきこと、できることを実践的に学ぶ。また、日常生活を送る中で、防災や減災について考える契機とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎	◎				
到達目標	1. 災害等の緊急事態を想定することができ、社会人としての対応を理解し、説明できる 2. 自分の命を守り、周りの人々、地域に貢献できる方法を理解し、実践できる 3. 他者との協働を通して、自助・共助の重要性を理解し、説明できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やレポート、確認テスト、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解して、能動的に取り組むことができたか。他者との協働ができたか。
リアクションペーパー	30%	講義内容を理解し、正しい日本語表現で丁寧に記述できたか。
確認テスト	10%	指定された内容の理解度の確認。
課題レポート	20%	講義内容を適切に理解し、具体的でわかりやすく記述できたか。

受講条件	なし。
事前・事後学修(内容・時間)	1. 災害、安全に関する新聞記事を読む(第2回～8回／1時間程度) 2. 授業内で提示された防災関連動画を視聴する(第1回～8回／1時間程度) 3. 国・県の関連機関の統計に目を通しておく(第2回～8回／1時間程度) 4. 被災時の行動計画を立て、自身の防災対策についてまとめる(第1回～8回／1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) 防災クッキング(災害時に役立つ食のスキル) 第2回(講義・演習) 災害発生の仕組みと災害への備え(ハザードマップを利用したワーク) 第3回(講義・演習) 災害リスクと警戒レベル(マイタイムラインの作成) 第4回(講義) 防災講話(地域防災の「自助」「共助」「公助」)(関係機関との連携) 第5回(講義・演習) クロスロード(神戸市職員が経験した困難な状況判断のカードゲーム) 第6回(講義・演習) 身近なモノを利用した防災グッズの作成 第7回(講義・演習) 身近なモノを利用したシェルターの作成 第8回(講義・演習) HUG(静岡県が開発した避難所運営の図上訓練) ※確認テスト・リアクションペーパーについては、返却時に、必要に応じてコメントを記載することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFL2017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	12870
科目	1287 パフォーミング・アーツ	授業種別	週間授業
科目責任者	宮城嶋 遥加	単位数	1 単位
担当教員	宮城嶋 遥加		

授業概要	他の専門分野を学ぶ学生との交流を通した学びや、新しい時代に適応した学びを通して、地域の未来を創造する新しい時代の担い手を育成することを目指す、地域未来創造プログラムの科目。身体と言葉を多角的に用いて、コミュニケーション能力の向上や即興力の向上を目指すシアターゲームを行なう。また、劇場への見学やパフォーミングアーツ作品の鑑賞を通して、異なる価値観を受容し、対話を可能にしていくための感性を身につける。授業の集大成としてミニパフォーマンスを創作し、発表を行う。主体的に授業に参加する意欲のある者の受講を求める。							
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性								
到達目標	1. 自分を見つめ、相対化できるようになる。 2. 自分の意見を適切な形で表出する力を身につける。 3. 多様な感性をもった人と関わることで、社会人として必要な教養を身につける 4. アクティブラーニングやグループワークなどを実践することで互いの表現を高め合い、他者と協働することへの経験を高める。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	・適宜、資料を配布する ・Classroom などオンラインのミーティングツールの使用ができる ICT 機器 (PC、タブレット、スマートフォンなど) を用意すること
------------------------------	--

成績評価	課題提出、授業での取り組みを総合的に評価して判断する	
評価項目	割合	評価基準
課題提出(コメントペーパー)	60%	活動の振り返りを行う、記述内容から学びを自身の中で定着化できたか確認する。
各ワークへの取り組み	20%	授業で行うワークに対して主体的な取り組みができたかを評価する。
ミニパフォーマンスへの取り組み	20%	ミニパフォーマンスの創作、発表の段階でグループ活動に貢献し、主体的な取り組みができたかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回 2 時間程度) 毎回の授業計画にそって復習をすること。各授業で学んだ内容が実社会にどのように生かせるか日頃から考え、行動すること。 ICT を活用した授業実施の場合も、予習・復習は対面での実施時と可能な限り同内容とする。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・実技) ガイダンス・自己紹介① 第 2 回 (実技) 自己紹介② 第 3 回 (実技) 2 人組のワーク 第 4 回 (実習) 劇場見学 第 5 回 (演習) 劇場見学の振り返り 第 6 回 (実技) シアターゲーム①ビジネス編 第 7 回 (実技) シアターゲーム②教育現場編 第 8 回 (実技) シアターゲーム③コミュニケーション編 第 9 回 (実技) シアターゲーム④総合 第 10 回 (講義) パフォーミングアーツ作品の鑑賞① 第 11 回 (講義) パフォーミングアーツ作品の鑑賞② 第 12 回 (演習・実技) パフォーミングアーツ作品鑑賞の振り返り 第 13 回 (実技) ミニパフォーマンスの創作① 第 14 回 (実技) ミニパフォーマンスの創作② 第 15 回 (実技) ミニパフォーマンスの発表 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※対面での実施を原則とするが、講師及び受講生の状況に応じて ICT (Classroom などオンラインのミーティングツール) を活用した同時双方向型の授業に変更する可能性がある。その場合は講師から事前に告知をする。 ※第 4 回の「劇場見学」については受講生でスケジュールを合わせ、授業時間外での実施とする。人数によっては 2 グループに分かれての実施等も検討する。 ※課題や取り組みについては、授業内で都度コメントする。また必要に応じて Classroom でコメントすることでフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	12860
科目	1286 データサイエンス入門	授業種別	週間授業
科目責任者	今井 正文	単位数	2 単位
担当教員	今井 正文		

授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroom を活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどは Classroom および双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○					
到達目標	・データ・AI によって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理 / データサイエンス / AI」が、今後の社会における「読み / 書き / そろばん」であることを理解できる ・データ・AI 活用領域の広がり理解し、データ・AI を活用する価値を説明できる ・今の AI で出来ること、出来ないことを理解できる ・AI を活用した新しいビジネス / サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AI が日常生活や社会 / 組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる						

テキスト（教科書）						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
教養としてのデータサイエンス 改訂第 2 版	北川源四郎／ 竹村彰通・編 内田誠一／川 崎能典／孝忠 大輔／佐久間 淳／椎名洋／ 中川裕志／樋 口知之／丸山 宏・著	講談社サイエンティ フィック	1,980 円	978-4-06-537939- 4		

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	小テストおよび課題提出（60％：各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40％） 定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40％	前回までの講義内容についての理解度を確認する。
定期試験	60％	筆記試験にて講義内容についての理解度を確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 3 時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（0.5 時間程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（1 時間程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（1.5 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 章 [導入] 社会におけるデータ・AI 利活用 第 01 回（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化 第 02 回（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ 第 03 回（講義・演習）1.3 データと AI の活用領域 第 04 回（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術 第 05 回（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術その 2 第 06 回（講義・演習）1.5 データ・AI 活用の現場 第 07 回（講義・演習）1.6 データ・AI 利活用の最新動向 第 2 章 [基礎] データリテラシー 第 08 回（講義・演習）2.1 データを読む 第 09 回（講義・演習）2.1 データを読むその 2（Excel 実習） 第 10 回（講義・演習）2.2 データを説明する 第 11 回（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSE データ実習） 第 12 回（講義・演習）2.3 データを扱うその 2（SSDSE データ実習） 第 3 章 [心得] データ・AI 利活用における留意事項 第 13 回（講義・演習）3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 第 14 回（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項 第 15 回（講義）まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroom および双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。
--------------	--

ナンバリング	PEFL2018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	26320		
科目	2632 体育講義			授業種別	週間授業		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子						
授業概要	人間の身体構造、生理的機能や現代的課題を踏まえ、「健康」についての理解を深める。また授業を通して、自分自身の健康維持・増進、ライフプランについても考える契機とする。さらに、身近な危険や緊急時の対処法を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	△	○			
到達目標	1. 人間の身体の仕組みを理解し、説明できる。 2. 自分自身と子どもの健康管理・維持増進の重要性を理解し、説明できる。 3. 緊急時や災害時の対応を理解し、説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを提出物、小テスト、定期試験により、総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出状況、達成度	30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。
小テスト	20%	指定された範囲の理解度、努力の確認。
定期試験	50%	筆記試験で、科目全体の理解度を確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. プリントの復習・確認をする。(第1回～15回／1時間程度) 2. 小テスト範囲を復習する。(第3回～12回／1時間程度) 3. 定期試験範囲を復習する。(第14回～15回／2.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンスー健康とはー 第2回(講義) 喫煙 第3回(講義・演習) 飲酒(アルコールパッチテスト) 第4回(講義) 身近な感染症と予防 第5回(講義・演習) 体格・体格指数(BMI、体脂肪測定) 第6回(講義・演習) ライフプランと健康教育(看護学科との連携) 第7回(講義) 身体の仕組み(骨) 第8回(講義) 身体の仕組み(筋肉) 第9回(講義・演習) 肢体不自由 第10回(講義・演習) 視覚の特性とユニバーサルデザイン(経営学科との連携) 第11回(講義) 免疫とアレルギー 第12回(講義・演習) 薬物乱用 第13回(講義・演習) けがの予防と応急処置(グループワーク) 第14回(講義・演習) 救急救命、応急手当(消防庁WEB検定) 第15回(講義・演習) 事故、災害時の対応 ※プリント、小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じ、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PECL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	26321		
科目	2632 体育講義			授業種別	週間授業		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子						
授業概要	人間の身体構造、生理的機能や現代的課題を踏まえ、「健康」についての理解を深める。また授業を通して、自分自身の健康維持・増進、ライフプランについても考える契機とする。さらに、身近な危険や緊急時の対処法を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	△	○			
到達目標	1. 人間の身体の仕組みを理解し、説明できる。 2. 自分自身と子どもの健康管理・維持増進の重要性を理解し、説明できる。 3. 緊急時や災害時の対応を理解し、説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを提出物、小テスト、定期試験により、総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出状況、達成度	30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。
小テスト	20%	指定された範囲の理解度、努力の確認。
定期試験	50%	筆記試験で、科目全体の理解度を確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. プリントの復習・確認をする。(第1回～15回／1時間程度) 2. 小テスト範囲を復習する。(第3回～12回／1時間程度) 3. 定期試験範囲を復習する。(第14回～15回／2.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンスー健康とはー 第2回(講義) 喫煙 第3回(講義・演習) 飲酒(アルコールパッチテスト) 第4回(講義) 身近な感染症と予防 第5回(講義・演習) 体格・体格指数(BMI、体脂肪測定) 第6回(講義・演習) ライフプランと健康教育(看護学科との連携) 第7回(講義) 身体の仕組み(骨) 第8回(講義) 身体の仕組み(筋肉) 第9回(講義・演習) 肢体不自由 第10回(講義・演習) 視覚の特性とユニバーサルデザイン(経営学科との連携) 第11回(講義) 免疫とアレルギー 第12回(講義・演習) 薬物乱用 第13回(講義・演習) けがの予防と応急処置(グループワーク) 第14回(講義・演習) 救急救命、応急手当(消防庁WEB検定) 第15回(講義・演習) 事故、災害時の対応 ※プリント、小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じ、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PECL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	26520			
科目	2652 体育実技			授業種別	週間授業			
科目責任者	白柳 佳子			単位数	1 単位			
担当教員	白柳 佳子							
授業概要	日常生活において必要な運動量を確保するとともに、豊かな身体表現力を身につけるための基礎的な技術を習得する。また、グループ活動を通して、他者と一緒に身体を動かすことによる楽しさを体験し、その必要性への理解を深める。さらに、授業を通して子どもの表現に対する理解も深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 身体を動かすことの楽しさを理解し、実践できる。 2. 身体的活動を通して、仲間と協働できる。 3. 子どもの表現を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
からだからはじまる保育のアート	西洋子 本山 益子 岡本 雅子著	市村出版		978 - 4-902109-48-1	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたか、実技試験、発表、課題により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	40%	体の特性を理解し、自分の体で表現する努力ができていますか。
作品発表とそれに向けての取り組み	30%	役割を理解し、能動的に活動できたか。完成度の高い作品作りと高めるための努力ができたか。
振り返りシート等課題の提出状況	20%	客観的に自己評価、他者評価ができ、自ら課題解決に取り組むことができたか。
課題レポート	10%	適切な内容・記述ができていますか。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業終了時に連絡する次週の授業内容に応じてテキストの該当箇所を読む(第1~15回 /1 時間程度) 2. 実技課題(個人・グループ)の復習をする(第1~15回 /1 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義・演習) ガイダンス(基礎運動について) 第2回 (講義) 身体活動と表現、ダンスの歴史について 第3回 (実技・演習) 基礎運動とリトミック、ポーズの工夫(個～グループワーク) 第4回 (実技・演習) ダンス① 基本ステップと動き方の工夫(上半身の動きの工夫) 第5回 (実技・演習) ダンス② 上半身の動きの発表(個とグループ) 第6回 (実技・演習) ダンス③ 基本ステップと動き方の工夫(腰～足の動き) 第7回 (実技・演習) ダンス④ 下半身(腰～足)の動きの発表(個人とグループ) 第8回 (実技・演習) ダンス⑤ 結合ステップと移動の動き(個～グループワーク) 創作と練習 第9回 (実技・演習) ダンス⑥ 結合ステップ発表と模倣～即興への発展運動と工夫 第10回 (実技・演習) ダンス⑦ 声や言葉を使った動き方の工夫(グループワーク) 第11回 (実技・演習) ダンス⑧ 体全体を使った動き方の工夫(グループワーク) 第12回 (実技・演習) ダンス⑨ 音楽と空間の使い方(グループワーク) 第13回 (実技・演習) ダンス⑩ 課題曲による作品創り(アクティブラーニング要素を含む) 第14回 (実技・演習) ダンス⑪ 課題曲による作品創り(アクティブラーニング要素を含む) 第15回 (実技・演習) 作品発表と鑑賞、自己評価 ※授業まとめ時、活動中、創作過程や発表時に、コメントすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により内容を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	26521			
科目	2652 体育実技			授業種別	週間授業			
科目責任者	白柳 佳子			単位数	1 単位			
担当教員	白柳 佳子							
授業概要	日常生活において必要な運動量を確保するとともに、豊かな身体表現力を身につけるための基礎的な技術を習得する。また、グループ活動を通して、他者と一緒に身体を動かすことによる楽しさを体験し、その必要性への理解を深める。さらに、授業を通して子どもの表現に対する理解も深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 身体を動かすことの楽しさを理解し、実践できる。 2. 身体的活動を通して、仲間と協働できる。 3. 子どもの表現を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
からだからはじまる保育のアート	西洋子 本山 益子 岡本 雅子著	市村出版		978 - 4-902109-48-1	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたか、実技試験、発表、課題により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	40%	体の特性を理解し、自分の体で表現する努力ができていますか。
作品発表とそれに向けての取り組み	30%	役割を理解し、能動的に活動できたか。完成度の高い作品作りと高めるための努力ができたか。
振り返りシート等課題の提出状況	20%	客観的に自己評価、他者評価ができ、自ら課題解決に取り組むことができたか。
課題レポート	10%	適切な内容・記述ができていますか。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業終了時に連絡する次週の授業内容に応じてテキストの該当箇所を読む(第 1~15 回 /1 時間程度) 2. 実技課題(個人・グループ)の復習をする(第 1~15 回 /1 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) ガイダンス(基礎運動について) 第 2 回 (講義) 身体活動と表現 ダンスの歴史 第 3 回 (実技・演習) 基礎運動とリトミック、ポーズの工夫(個～グループワーク) 第 4 回 (実技・演習) ダンス① 基本ステップと動き方の工夫(上半身の動きの工夫) 第 5 回 (実技・演習) ダンス② 上半身の動きの発表(個人とグループ) 第 6 回 (実技・演習) ダンス③ 基本ステップと動き方の工夫(腰～足) 第 7 回 (実技・演習) ダンス④ 下半身(腰～足)の動きの発表(個人とグループ) 第 8 回 (実技・演習) ダンス⑤ 結合ステップと移動の動き(個人～グループワーク) 創作と練習 第 9 回 (実技・演習) ダンス⑥ 結合ステップ発表と模倣～即興への発展運動の工夫 第 10 回 (実技・演習) ダンス⑦ 声や言葉を使った動き方の工夫(グループワーク) 第 11 回 (実技・演習) ダンス⑧ 体全体を使った動き方の工夫(グループワーク) 第 12 回 (実技・演習) ダンス⑨ 音楽と空間の使い方(グループワーク) 第 13 回 (実技・演習) ダンス⑩ 課題曲による作品創り アクティブラーニング要素を含む 第 14 回 (実技・演習) ダンス⑪ 課題曲による作品創り アクティブラーニング要素を含む 第 15 回 (実技・演習) 作品発表と鑑賞、自己評価 ※授業まとめ時、活動中、創作過程や発表時に、コメントすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により内容を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	20101
科目	2010 英語	授業種別	週間授業
科目責任者	船井 純平	単位数	2 単位
担当教員	船井 純平		

授業概要	幼児教育の現場で必要と思われるコミュニケーションの道具としての英語の習得を目的として、日常生活や幼児教育に関わる英単語や表現を学ぶ。また、言語は意志を伝えるための道具であると同時に、様々な文化を理解する手がかりともなる。この授業では、英語の歌や動画の視聴を通して日本文化とは異なる文化の一面についての理解も深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				
到達目標	英語は小学校で学ぶようになり、その導入として幼稚園・保育園・認定子ども園で学ぶ機会も増えている。その際、積極的に英語の環境に関われるように、保育の現場で用いられる英語に慣れることが目標である。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切に、他者を思いやり受容できる」の土台を形成するものとして、以下の内容を授業の到達目標とする。 1. 日常生活や幼児教育に関わる平易な英文を理解できる。 2. 日常生活や幼児教育に関わる英単語や英語の表現を使用できる。 3. 調べて覚えた英語の手遊びを教えることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	原則として毎回出席すること。課題の作成が 20%、英語の手遊び歌の発表が 20%、定期試験の点数を 60% として、総合的に評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。※英語の手遊び歌の発表は、「調べた英語の手遊び歌を教えることができるかどうか、歌や動きのテンポが適当で真似しやすいか、声の大きさが適当で聞き取りやすいか、歌詞の発音は適切か」によって判定する。	
評価項目	割合	評価基準
課題の作成	20%	制作物から理解度・達成度を評価する。
英語の手遊び歌の発表	20%	上記「成績評価」内の観点に基づいて判定する。
定期試験	60%	筆記試験により理解度を評価する。

受講条件	(卒・幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業で指示される英単語・表現、歌に関する作業(第 2 回～14 回 / 1 時間程度) 2. 前回分の英単語・表現等の確認をすること(第 2 回～14 回 / 1 時間程度) 3. 試験のために、授業での配布プリントの復習を行うこと(第 2 回～14 回 / 2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 (講義、演習) 単語・表現 “園の人々・家族・おもちゃ” 英語童謡 “Itzy Bitzy Spider” リスニング 第3回 (講義、演習) 単語・表現 “健康、会話文” situation comedy “Full House” リスニング 第4回 (講義、演習) 単語・表現 “植物、会話文” 英語童謡 “Baby shark” リスニング 第5回 (講義、演習) 単語・表現 “喧嘩、食事” 歌 “What do you mean?”, “Call me maybe” リスニング 第6回 (講義、演習) 手遊び歌について調べる (グループワーク) 第7回 (講義、演習) 手遊び歌の発表準備 (グループワーク) 第8回 (実技) 手遊び歌発表 第9回 (講義、演習) 単語・表現 “衣類、持ち物” 歌 “Ponyo on the Cliff by the Sea” リスニング 第10回 (講義、演習) 単語表現 “会話文” 映画リスニング 第11回 (講義、演習、実技) 単語・表現 “生き物” 歌 “My neighbor Totoro” リスニング 第12回 (講義、演習) 製作物のための英語表現を学ぶ “食べ物、動物、年間行事” 第13回 (演習、実技) 製作 (グループワーク) 第14回 (演習、実技) 製作 (グループワーク) 第15回 期末まとめ(単語・表現・歌・映画) ※発表についてはその都度コメントをし、フィードバックをする ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	PEFL1011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	20120			
科目	2012 ポルトガル語			授業種別	週間授業			
科目責任者	田口 マユリ			単位数	2 単位			
担当教員	田口 マユリ							
授業概要	ポルトガル語の初歩的なレベルを習得することを目標とする。具体的には、日常生活や仕事、旅行先で必要な会話を学ぶことで、ポルトガル語に関する基礎知識や文法、聞き取る力の修得を目指す。 日本には、そして大学近郊には、多くのブラジル人が生活している。今後、友人を増やしたい、将来仕事に役立てたい、ブラジルやポルトガル語に興味があるという人にとって、有益な授業内容である。受講生のペース、レベルの合わせて進度を調整するので、安心して授業に臨んでもらいたい。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				
到達目標	1. ポルトガル語の基本的な発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と自己表現ができる 2. 特定の状況におけるポルトガル語が理解できる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業内でプリントを配布する。
------------------------------	----------------

成績評価	期末筆記試験、授業課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	80%	筆記試験にて講義内容についての理解度を評価する。
授業課題への取り組み方・達成度	20%	課された練習問題に適切に解答できるかを評価する。

受講条件	この講義は基礎知識の修得が目的のため、第1回目の講義にてレベルを図る小テストを実施する。その結果により、一定のレベル以上の語学力を有する学生は、履修が許可されない場合がある。
事前・事後学修(内容・時間)	以下の事前・事後学習は、毎回行うこと。 1. 毎回の授業の復習を行う。(1時間程度) 2. 配布されたプリントなどの予習を行う。(1時間程度) 3. 毎回行う確認テストに向けて、前回の授業内容の確認を行う。(1時間程度) 4. ポルトガル語での自己紹介や挨拶、簡単な会話ができるように、ポルトガル文化に関する書物等に目を通す。(1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス、ブラジルはどんな国? 第2回(講義) ポルトガル語の文字と発音 第3回(講義) 人称代名詞・冠詞 第4回(講義) ser 動詞の活用と用法 第5回(講義・演習) 指示詞、所有詞 第6回(講義) 復習 ・ 会話練習 第7回(講義) 数詞および複数形の作り方 第8回(講義・演習) 週・月・曜日 第9回(講義・演習) 時間の表現 ・ 色 第10回(講義・演習) 形容詞 第11回(講義) estar 動詞・poder 動詞 第12回(講義・演習) 規則動詞 ・ 不規則動詞 第13回(講義) まとめ ・ 復習 第14回(演習) ブラジルを知ろう!・会話をしましょう 第15回(演習) 振り返り・復習 第16回 試験 ＊質問や疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ＊期末筆記試験を行います。 ＊受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	PEFL2016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	31010			
科目	3101 保育者論			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要	本授業では、保育者の専門性について、保育者の制度的・社会的な位置づけや、保育の各場面での保育者の援助のあり方を学ぶ。保育者の専門性についての理解を通じて、保育者としての意識を涵養するとともに、自身の保育者像を形成することを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	保育者の役割を制度的・実践的側面から捉え、保育職の社会における意義や位置づけを確認することを通して、保育者としての責務を説明できる。保育者の専門性を理解し、自らの資質向上のための課題を言語化できる。チームとしての保育者同士の協働並びに保護者や地域、各種機関との連携の重要性を説明できる。現在の保育を取り巻く状況に即して、自身の保育者像について説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育者論	汐見 稔幸	ミネルヴァ書房	2000	9784623084340	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	中坪史典編著	ミネルヴァ書房	本体 2,800 円＋税	9784623076857	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート・小テスト	30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
期末試験	70%	筆記試験にて理解度と記述内容の妥当性を評価する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	授業内容の復習を行うこと(第1～14回／1時間程度) 授業前の予習(教科書の該当箇所を読む)をすること(第2～14回／1時間程度) 保育・保育者に関連する政策動向や社会の出来事などについて新聞や他のメディアを通じて情報を収集すること(第1～15回／1時間程度) 定期試験のための復習を行うこと(第14～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) オリエンテーション／「先生」とは？ 第2回(講義) 保育者の制度的位置づけ 第3回(講義) 幼稚園教諭・保育士の仕事とその一日 第4回(講義) 子どもの内面や発達を理解する 第5回(講義) 子どもの生活を支える 第6回(講義) 子どもの遊びを援助する 第7回(講義) 保育における個と集団と「居場所」 第8回(講義) 家庭や地域との連携・支援 第9回(講義) 「先生」という仕事の歴史的展開と日本の特徴 第10回(講義・演習) 保育者の連携・協働―課題解決の手法 第11回(講義) 多様な子どもと保育実践 第12回(講義) いじめに向き合う 第13回(講義) 保育者が行う教材研究 第14回(講義) 成長する保育者と同僚性 第15回(講義) まとめ ※課題(小テストや小レポート等)については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	31011
科目	3101 保育者論	授業種別	週間授業
科目責任者	大矢 龍弥	単位数	2 単位
担当教員	大矢 龍弥		
授業概要	本授業では、保育者の専門性について、保育者の制度的・社会的な位置づけや、保育の各場面での保育者の援助のあり方を学ぶ。保育者の専門性についての理解を通じて、保育者としての意識を涵養するとともに、自身の保育者像を形成することを目指す。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	保育者の役割を制度的・実践的側面から捉え、保育職の社会における意義や位置づけを確認することを通して、保育者としての責務を説明できる。保育者の専門性を理解し、自らの資質向上のための課題を言語化できる。チームとしての保育者同士の協働並びに保護者や地域、各種機関との連携の重要性を説明できる。現在の保育を取り巻く状況に即して、自身の保育者像について説明できる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育者論	汐見 稔幸	ミネルヴァ書房	2000	9784623084340	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	中坪史典編著	ミネルヴァ書房	本体 2,800 円＋税	9784623076857	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート・小テスト	30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
期末試験	70%	筆記試験にて理解度と記述内容の妥当性を評価する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	授業内容の復習を行うこと(第1～14回／1時間程度) 授業前の予習(教科書の該当箇所を読む)をすること(第2～14回／1時間程度) 保育・保育者に関連する政策動向や社会の出来事などについて新聞や他のメディアを通じて情報を収集すること(第1～15回／1時間程度) 定期試験のための復習を行うこと(第14～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) オリエンテーション／「先生」とは？ 第2回(講義) 保育者の制度的位置づけ 第3回(講義) 幼稚園教諭・保育士の仕事とその一日 第4回(講義) 子どもの内面や発達を理解する 第5回(講義) 子どもの生活を支える 第6回(講義) 子どもの遊びを援助する 第7回(講義) 保育における個と集団と「居場所」 第8回(講義) 家庭や地域との連携・支援 第9回(講義) 「先生」という仕事の歴史的展開と日本の特徴 第10回(講義・演習) 保育者の連携・協働―課題解決の手法 第11回(講義) 多様な子どもと保育実践 第12回(講義) いじめに向き合う 第13回(講義) 保育者が行う教材研究 第14回(講義) 成長する保育者と同僚性 第15回(講義) まとめ ※課題(小テストや小レポート等)については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	311A0			
科目	311A 社会福祉			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	2 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	社会福祉の意義と目的、利用者ニーズ、社会福祉制度と、その中の保育の位置づけについて学ぶ。特に、社会の課題と社会福祉制度の現状と課題について理解し、相談援助やソーシャルワークを含め、保育の専門職として職務に必要な社会福祉の知識と姿勢を修得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	△	○				
到達目標	1. 社会福祉の意義と目的、社会福祉制度と社会福祉の歩みについて説明できる。 2. 専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる。 3. 専門職として必要な福祉の基本的な知識の活用ができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題(レポート等)	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等。
定期試験	50%	筆記試験にて授業内容や知識の理解度を確認。

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。(合計 8 時間程度) 2. 授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。(合計 8 時間程度) 3. 定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。(合計 6 時間程度) 4. 社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を払い、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようしておくこと。(合計 6 時間程度) 5. 授業後の感想文・レポート作成(合計 6 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 社会福祉の理念と概念…基本的人権、社会福祉と保育と養護 (講義) 現代社会と社会福祉(1) … 少子高齢化・家庭や地域社会の変容 第2回(講義) 現代社会と社会福祉(2) … 障害者差別・虐待、高齢者虐待、児童虐待、ライフスタイルの変化、貧困と格差問題 第3回(講義) 社会福祉の基盤と体系 … 法律の体系と援助(相談援助・ソーシャルワーク・介護等)の体系 第4回(講義) 子どもの貧困等の影響と背景…引きこもり、不登校、いじめ、ヤングケアラー等 (講義) 子ども・家庭の福祉(1) … 子ども・子育て支援に関する法律 第5回(講義) 子ども・家庭の福祉(2) … 地域子育て支援や各種手当制度、児童福祉施設・事業と援助の実践、家庭と保護者の支援 第6回(講義・演習) 障害児・者の福祉(1) … 「しょうがい」の概念と捉え方、障害の具体例と障害児者福祉の法体系 第7回(講義・演習) 障害児・者の福祉(2) … 障害福祉・保健医療サービス・年金、障害者の権利擁護、障害児者の援助の実践 第8回(講義) 高齢者の福祉(1) … 高齢者の理解(概念と病理と保健)、介護保険法および老人福祉法、その他の制度 第9回(講義) 高齢者の福祉(2) … 高齢者保健医療福祉サービスと年金、高齢者の介護と権利擁護の実践 第10回(講義・演習) 低所得者福祉 … 生活保護制度、生活困窮者自立支援法と援助の実践 第11回(講義) 地域福祉 … 地域福祉の実践と街づくり、相談援助体制、地域包括ケア、ソーシャルインクルージョン等の具現化、コミュニティソーシャルワーク、アウトリーチ、ダイバーシティ等 第12回(講義) 司法福祉等 … 更生保護制度、累犯障害者支援、社会復帰支援、若者支援等 第13回(講義・演習) 地域社会と社会福祉「子育て支援と若者支援」 第14回(講義) その他の社会保障と社会福祉 … 年金保険と医療保険、雇用保険、労災保険等 利用者保護に関する仕組み … 第三者評価、苦情解決等 第15回(講義・演習) 社会福祉の担い手とその条件(現場に求められる人材像) 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 授業予定については、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	PEBM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31020			
科目	3102 子ども家庭福祉			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 順子			単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	子どもと家族を取り巻く社会の現状を知り、子どもの育ちと子育てを支える子ども家庭福祉の理念や法制度の理解、歴史的変遷、そして現代の子ども家庭福祉の意義について体系的に学ぶことを目的とする。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○				
到達目標	1. 子ども家庭福祉の基本的理念を理解できる。 2. 児童の人権並びに児童家庭福祉制度と法体系について知ることができる。 3. 子ども家庭福祉の歴史的変遷から現代の福祉について考えることができる。 4. 子ども家庭福祉の今日的課題について理解することができる。 5. 子ども・家庭への支援について総合的に理解することができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	授業内で適宜資料を配布する。
------------------------------	----------------

成績評価	授業内で適宜、課題等の提出を求める。授業内テストを実施し、評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
まとめ等を含む課題提出	65%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
授業内テスト	35%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回、子どもの発達支援、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。（合計 15 時間程度） 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。（合計 15 時間程度） 3. 授業で提示された課題の作成（自己学習を含む）（合計 15 時間程度） 4. 授業のまとめレポートの作成（合計 6 時間程度） 5. 授業内テストに向けて、授業内容を確認する（合計 9 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 子ども家庭福祉について 第 2 回 児童家庭福祉の歴史的展開 第 3 回 子どもの発達とその支援（乳児） 第 4 回 子どもの発達とその支援（幼児） 第 5 回 現代社会の子どもと家族の現状 第 6 回 子ども家庭福祉の実施主体 第 7 回 子ども家庭福祉の制度 第 8 回 子ども家庭福祉の法体系 第 9 回 子どもと家庭の貧困と支援 第 10 回 児童虐待の要因と家庭への支援 第 11 回 障害をもつ子どもへの支援 第 12 回 外国籍の子どもへの支援 第 13 回 子ども家庭福祉機関、施設における専門職の役割 第 14 回 子ども家庭福祉機関との連携 第 15 回 子どもと家庭の福祉のまとめとテスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 課題については、授業内あるいは classroom を通して返却時にフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	PEBM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31420			
科目	3142 保育原理			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要		保育に関する基本的な原理として、「保育所保育指針」等の内容を理解するとともに、保育の歴史や思想を学修する。また、保育実践の様々な場面から保育における「子ども理解」の意義について学ぶ。これらの学びを通して、現代の社会における保育の意義や課題を考えられるようにする。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎		○			
到達目標		保育実践のための基本原理を理解し、説明できる。日本の保育制度を説明できる。多様化する保育ニーズを説明できる。現代の保育を取り巻く課題を理解し、自身の保育観について考察できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育原理	汐見 稔幸	ミネルヴァ書房	2000	9784623084333	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで、評価する。なお、授業態度が不良な場合には、減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
コメントシート	10%	学習内容に即した内容・記述になっているのかを評価する
小テスト	20%	学習内容の理解度を確認する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容の復習を行うこと(第1～14回:1時間程度) 2. 講義前の予習(教科書の該当箇所を読む)をすること(第2～14回:1時間程度) 3. 小テストの復習をすること(第2回～第14回:0.5時間程度) 4. 第16回定期試験 試験範囲の総合的復習を行うこと(第14～15回/2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 「保育」とは何か 第2回(講義) 子どもの最善の利益と権利保障 第3回(講義) 保育における「子ども理解」 第4回(講義) 保育の内容 第5回(講義) 保育の方法 第6回(講義) 保育の計画と評価 第7回(講義) 保育者の専門性と資質向上 第8回(講義) 健康・安全と保育 第9回(講義) 学校や地域との連携の中で行う保育 第10回(講義) 西洋の保育の歴史と思想1(オーエン、フレーベル) 第11回(講義) 西洋の保育の歴史と思想2(モンテッソーリ、マラグッツィ) 第12回(講義) 日本の保育の歴史と思想 第13回(講義) 保育における子育て支援と子育て観 第14回(講義) 多様な子どもの理解と保育 第15回(講義) まとめ ※コメントシート等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	PEAM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31421			
科目	3142 保育原理			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要		保育に関する基本的な原理として、「保育所保育指針」等の内容を理解するとともに、保育の歴史や思想を学修する。また、保育実践の様々な場面から保育における「子ども理解」の意義について学ぶ。これらの学びを通して、現代の社会における保育の意義や課題を考えられるようにする。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎		○			
到達目標		保育実践のための基本原理を理解し、説明できる。日本の保育制度を説明できる。多様化する保育ニーズを説明できる。現代の保育を取り巻く課題を理解し、自身の保育観について考察できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育原理	汐見 稔幸	ミネルヴァ書房	2000	9784623084333	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで、評価する。なお、授業態度が不良な場合には、減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
コメントシート	10%	学習内容に即した内容・記述になっているのかを評価する
小テスト	20%	学習内容の理解度を確認する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容の復習を行うこと(第1～14回:1時間程度) 2. 講義前の予習(教科書の該当箇所を読む)をすること(第2～14回:1時間程度) 3. 小テストの復習をすること(第2回～第14回:0.5時間程度) 4. 第16回定期試験 試験範囲の総合的復習を行うこと(第14～15回/2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 「保育」とは何か 第2回(講義) 子どもの最善の利益と権利保障 第3回(講義) 保育における「子ども理解」 第4回(講義) 保育の内容 第5回(講義) 保育の方法 第6回(講義) 保育の計画と評価 第7回(講義) 保育者の専門性と資質向上 第8回(講義) 健康・安全と保育 第9回(講義) 学校や地域との連携の中で行う保育 第10回(講義) 西洋の保育の歴史と思想1(オーエン、フレーベル) 第11回(講義) 西洋の保育の歴史と思想2(モンテッソーリ、マラグッツィ) 第12回(講義) 日本の保育の歴史と思想 第13回(講義) 保育における子育て支援と子育て観 第14回(講義) 多様な子どもの理解と保育 第15回(講義) まとめ ※コメントシート等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	PEAM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	31030			
科目	3103 社会的養護Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	2 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	子ども家庭福祉について「社会的養護・養育」という機能に着目して理解することを目的とする。特に、社会的養護・養育の体系、それを提供するサービスの概略、援助者の倫理等について教授する。また、現場の児童福祉施設における保育者の役割について具体的に学び、専門職としての知識の修得を目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		○				
到達目標	1. 現代社会における社会的養護・養育の意義と歴史の変遷を理解し説明できる。 2. 社会的養護・養育と児童福祉の関連性についての知識を身につける。 3. 社会的養護・養育の制度や実施体系を理解し説明できる。 4. 社会的養護・養育における子どもの人権擁護を理解し、自立支援に役立てることができる。 5. 社会的養護・養育の現状と課題を理解し、対応できる力を身につける。 6. 上記の学びを踏まえ、施設実習に向けての心構えや留意点を習得する。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府／文部科学省／厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814246	
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814222	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題（レポート等）	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等。
定期試験	50%	筆記試験にて授業内容や知識の理解度を確認。

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。（合計 15 時間程度） 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。（合計 15 時間程度） 3. 課題レポートの作成（図書館等での自己学習を含む）（合計 15 時間程度） 4. 授業のまとめレポートの作成（合計 6 時間程度） 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する（合計 9 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 第1回（講義）社会的養護の基礎と概念（社会と人間の理解） 第2回（講義）社会的養護の理念と歴史の変遷 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護 第3回（講義）児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第4回（講義）児童の権利擁護・倫理と社会的養護 3. 社会的養護の制度と実施体系 第5回（講義）社会的養護の制度と法体系 第6回（講義）社会的養護の仕組みと実施体系 第7回（講義）家庭養護と家庭的養護（里親制度について） 第8回（講義・演習）児童虐待とトラウマの理解 4. 施設養護の体系 第9回（講義）施設養護の基本原則 第10 回（講義・演習）施設養護の実際―入所児支援、日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援、アフターケア等 第11 回（講義・演習）施設養護とソーシャルワーク 5. 社会的養護の現状と課題 第12 回（講義）施設等の運営管理 第13 回（講義）社会的養育ビジョンの方向性について 第14 回（講義）被措置児童等の虐待防止 第15 回（講義・演習）児童福祉施設における実習の心構え 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEBM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31040			
科目	3104 社会的養護Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	1 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、実践に求められる『生活』の理解、子どもへの関わり方、援助の実際を学ぶ。養護の対象の子どもを理解し、子どもの成長発達を保障し、その困難を共に乗り越え、支えるための援助をするために必要な知識や技能を修得し、子ども観や養護観を養う。さらに演習などを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営やソーシャルワークのための技術、態度を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解し、具体的に説明できる。 2. 施設養護、家庭的養護、家庭養護の実際について理解し、具体的に説明できる。 3. 個別指導計画、自立支援計画等の計画、実践、評価について理解し、作成することができる。 4. 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について学習し、具体的に説明できる。 5. 上記を踏まえ、施設実習に向けて、具体的な心構え、援助の留意点を習得する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円(税込)	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府／文部科学省／厚生労働省	フレーベル館	164 円(税込)	978-4577814246	
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館	164 円(税込)	978-4577814222	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題(レポート等)	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等
定期試験	50%	筆記試験にて授業や知識の理解度を確認

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 8 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。特に、各回講義に関係する「社会的養護Ⅰ」の内容を予習し、理解しておくこと。(合計 8 時間程度) 3. 課題レポートの作成。(図書館等での自己学習、視聴覚教材による事例演習を含む)(合計 8 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成。(合計 4 時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する。(合計 4 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	- 第 1 回 (講義) オリエンテーション、社会的養護施設について - 第 2 回 (講義) 社会的養護の基本理念 - 第 3 回 (講義) 施設養護と家庭養護 - 第 4 回 (講義) 施設養護の現状と課題 - 第 5 回 (講義・演習) 被虐待児への支援など援助の実際 - 第 6 回 (講義) 児童養護施設等で多く見られる愛着障害と発達障害と情緒障害の関係 - 第 7 回 (講義) 重い障害がある子どもへの社会的養護 - 第 8 回 (講義) 施設における人権擁護 - 第 9 回 (講義) 社会的養護の専門職・専門職としての倫理・チームワーク - 第 10 回 (講義) 施設養護におけるケースワーク・グループワーク - 第 11 回 (講義・演習) 施設養護における治療的支援 - 第 12 回 (講義・演習) 施設退所支援と自立支援 - 第 13 回 (講義) 被措置児童等の世代間連鎖の防止 - 第 14 回 (講義・演習) 自立支援計画等記録の作成 - 第 15 回 (講義) 社会的養護と地域の子育て支援 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEBM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31041			
科目	3104 社会的養護Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	1 単位			
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、実践に求められる『生活』の理解、子どもへの関わり方、援助の実際を学ぶ。養護の対象の子どもを理解し、子どもの成長発達を保障し、その困難を共に乗り越え、支えるための援助をするために必要な知識や技能を修得し、子ども観や養護観を養う。さらに演習などを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営やソーシャルワークのための技術、態度を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解し、具体的に説明できる。 2. 施設養護、家庭的養護、家庭養護の実際について理解し、具体的に説明できる。 3. 個別指導計画、自立支援計画等の計画、実践、評価について理解し、作成することができる。 4. 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について学習し、具体的に説明できる。 5. 上記を踏まえ、施設実習に向けて、具体的な心構え、援助の留意点を習得する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円 (税込)	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府／文部科学省／厚生労働省	フレーベル館	164 円 (税込)	978-4577814246	
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館	164 円 (税込)	978-4577814222	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題（レポート等）	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等
定期試験	50%	筆記試験にて授業や知識の理解度を確認

受講条件	(保) 必修	
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 8 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。特に、各回講義に関係する「社会的養護Ⅰ」の内容を予習し、理解しておくこと。(合計 8 時間程度) 3. 課題レポートの作成。(図書館等での自己学習、視聴覚教材による事例演習を含む)(合計 8 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成。(合計 4 時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する。(合計 4 時間程度)	

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）オリエンテーション、社会的養護施設について 第 2 回（講義）社会的養護の基本理念 第 3 回（講義）施設養護と家庭養護 第 4 回（講義）施設養護の現状と課題 第 5 回（講義・演習）被虐待児への支援など援助の実際 第 6 回（講義）児童養護施設等で多く見られる愛着障害と発達障害と情緒障害の関係 第 7 回（講義）重い障害がある子どもへの社会的養護 第 8 回（講義）施設における人権擁護 第 9 回（講義）社会的養護の専門職・専門職としての倫理・チームワーク 第 10 回（講義）施設養護におけるケースワーク・グループワーク 第 11 回（講義・演習）施設養護における治療的支援 第 12 回（講義・演習）施設退所支援と自立支援 第 13 回（講義）被措置児童等の世代間連鎖の防止 第 14 回（講義・演習）自立支援計画等記録の作成 第 15 回（講義）社会的養護と地域の子育て支援 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。	
--------------	--	--

ナンバリング	PEBM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	31810			
科目	3181 教育原理			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要	教育に関する基礎的な理論として制度、思想、歴史を学ぶ。また、「子ども」という存在について理論的・実践的に学ぶ。これらの学習を通して、現代社会における教育の役割や課題を理解し、今後の教育のあり方を考えることを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	1. 教育の意義及び目的について理解し、説明できる。 2. 教育の思想と歴史的変遷、制度について理解し、説明できる。 3. 「子ども」とは何かについて、理論的・実践的に理解し、考察できる。 4. 教育の社会的役割と現代的課題を理解し、考察できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
教育原理	児童育成協会 監修	中央法規出版	2000	9784805857823	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、受講態度が不良の場合には減点することがある。	
評価項目	割合	評価基準
コメントシート	10%	学習内容に即した内容・記述になっているのかを評価する
小テスト	20%	学習内容の理解度を確認する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容を復習しておくこと(第2～14回／1時間程度) 2. 毎授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと(第2回～14回／1時間程度) 3. 毎回行う小テストに関して必ず復習をしておくこと(第2回～14回／0.5時間程度) 4. 第16回定期試験 試験範囲の総合的復習を行うこと(第14回～15回／2時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 教育とは何か 第2回(講義) 教育の意義と目的 第3回(講義) 乳幼児期の教育の特性 第4回(講義) 「子ども」とは何か 第5回(講義) 「子ども」の歴史の変遷と現在 第6回(講義) 「子どもの貧困」と教育 第7回(講義) 教育の制度・法律・行政 第8回(講義) 教育実践の基礎 第9回(講義) 諸外国の教育思想 第10回(講義) 日本の教育思想 第11回(講義) 教育の歴史—学校の誕生 第12回(講義) 諸外国の教育制度と実践 第13回(講義) 教育と福祉 第14回(講義) 生涯学習社会における教育 第15回(講義) まとめ 改めて教育とは何か ※コメントシート等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	PEAM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	31811			
科目	3181 教育原理			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要	教育に関する基礎的な理論として制度、思想、歴史を学ぶ。また、「子ども」という存在について理論的・実践的に学ぶ。これらの学習を通して、現代社会における教育の役割や課題を理解し、今後の教育のあり方を考えることを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	1	◎		○				
到達目標	1. 教育の意義及び目的について理解し、説明できる。 2. 教育の思想と歴史の変遷、制度について理解し、説明できる。 3. 「子ども」とは何かについて、理論的・実践的に理解し、考察できる。 4. 教育の社会的役割と現代的課題を理解し、考察できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
教育原理	児童育成協会 監修	中央法規出版	2000	9784805857823	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、受講態度が不良の場合には減点することがある。	
評価項目	割合	評価基準
コメントシート	10%	学習内容に即した内容・記述になっているのかを評価する
小テスト	20%	学習内容の理解度を確認する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容を復習しておくこと(第2～14回／1時間程度) 2. 毎授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと(第2回～14回／1時間程度) 3. 毎回行う小テストに関して必ず復習をしておくこと(第2回～14回／0.5時間程度) 4. 第16回定期試験 試験範囲の総合的復習を行うこと(第14回～15回／2時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 教育とは何か 第2回(講義) 教育の意義と目的 第3回(講義) 乳幼児期の教育の特性 第4回(講義) 「子ども」とは何か 第5回(講義) 「子ども」の歴史の変遷と現在 第6回(講義) 「子どもの貧困」と教育 第7回(講義) 教育の制度・法律・行政 第8回(講義) 教育実践の基礎 第9回(講義) 諸外国の教育思想 第10回(講義) 日本の教育思想 第11回(講義) 教育の歴史—学校の誕生 第12回(講義) 諸外国の教育制度と実践 第13回(講義) 教育と福祉 第14回(講義) 生涯学習社会における教育 第15回(講義) まとめ 改めて教育とは何か ※コメントシート等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	--

ナンバリング	PEAM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	32120
科目	3212 子どもの心理学	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤 知佳子		
授業概要	保育実践に必要な心理学の知識を習得する。基本的な子どもの発達過程を学ぶとともに、子どもの発達に必要な社会的・物理的環境、初期経験の重要性、生涯発達などについて学ぶ。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○
到達目標	1. 子どもの認知・感情・社会性の発達の概略を理解している。 2. 子どもの発達とその支援を生涯発達の視点から考えられる。 3. 上記の基礎的な理解を具体的な保育実践と関連づけることができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートあるいは小テスト	30%	講義内容の理解度あるいは課題への取り組みを評価する。
定期試験	70%	筆記試験によって、最終的な講義内容の理解度を評価する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(第1~15回/2時間) 2. 授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(第1~15回/2時間) 3. 学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。(第15回)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) なぜ発達を学ぶのか 第2回 (講義) 発達にかかわる要因 第3回 (講義) 運動の発達 第4回 (講義) 知覚の発達 第5回 (講義・演習) 認知の発達 (Think-Pair-Share) 第6回 (講義・演習) 感情の発達 (Think-Pair-Share) 第7回 (講義) ことばの発達 第8回 (講義) 人のかかわりと発達: 愛着と基本的信頼感の獲得 (Think-Pair-Share) 第9回 (講義・演習) 友達関係と遊びの発達 (Think-Pair-Share) 第10回 (講義・演習) 記憶の発達 (Think-Pair-Share) 第11回 (講義・演習) 学びのしくみ (Think-Pair-Share) 第12回 (講義・演習) やる気と環境 (Think-Pair-Share) 第13回 (講義) 発達段階と発達課題 第14回 (講義) 乳幼児期以降の発達 第15回 (講義・演習) 発達援助と評価 (Think-Pair-Share) ※ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ※各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PECM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	31050
科目	3105 子ども家庭支援の心理学	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤 知佳子		
授業概要	子育て家庭への支援に関して総合的な力を養うために、生涯発達に関する心理学の基礎知識をふまえて、家族・家庭の意義・機能について理解し、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題について視野に入れつつ、配慮・対応を要する子どもの精神保健とその課題について学ぶ。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎ ○
到達目標	1. 生涯発達と初期経験の重要性について説明できる。 2. 子どもの精神保健に関わる問題について列挙できる。 3. 家庭の意義と機能や子育て家庭を取り巻く社会状況について説明できる。		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートあるいは小テスト	30%	講義内容の理解度あるいは課題への取り組みを評価する。

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(第 1~15 回 /2 時間) 2. 授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(第 1~15 回 /2 時間) 3. 学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。(第 15 回)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス：子育て家庭支援とは 第 2 回 (講義) 乳幼児期の発達 第 3 回 (講義) 児童期の発達 第 4 回 (講義) 青年期・成人期・高齢期の発達 第 5 回 (講義) 家族・家庭の意義と機能 第 6 回 (講義) 親子関係・家族関係の理解 第 7 回 (講義・演習) 子育てを取り巻く社会的状況 (Think-Pair-Share) 第 8 回 (講義・演習) ライフコースと仕事・子育て (Think-Pair-Share) 第 9 回 (講義・演習) 多様な家族の現状 (Think-Pair-Share) 第 10 回 (講義) 配慮を要する家庭①：保護者の疾患や障害 第 11 回 (講義) 配慮を要する家庭②：虐待 第 12 回 (講義) 子どものストレス 第 13 回 (講義・演習) 睡眠、食事、排泄に関わる症状 (Think-Pair-Share) 第 14 回 (講義) 子どもに見られるその他の症状 第 15 回 (講義) 発達障害 ※ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ※各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PECM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	31060					
科目	3106 子どもの理解と援助	授業種別	週間授業					
科目責任者	齋藤 善郎	単位数	1 単位					
担当教員	齋藤 善郎							
授業概要	子どもの発達についての理解を深め、保育実践の中でどのように生かしていくかを学ぶ。また、保育場面の具体的な事例をもとに、そこでの子どもの育ちの姿や子どもの心理について学び、保育での対応の仕方について考える。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎				
到達目標	1. 子どもの発達について理解し、説明できる。 2. 実際の保育場面で出会うであろう子どもの姿を理解し、説明できる。 3. 子どもの心理を踏まえて対応する力が育ち、保育で実践できる。 4. 最近の保育観を理解し、保育で役立つ知識を得、実践できる。 5. 最近の子どもの心身の発達の実情を知り、その原因に対応する力を養い保育で実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。 ①小テスト 70% ②課題レポート 30%	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	70%	講義内容の理解度を確認する。
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容、記述になっているか。

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	・次回の授業内容を伝えるので、幼児の発達の姿を「保育実習」「教育実習」の経験から、具体的なイメージをもち、授業に出席できるように予習すること。(第2回～15回/1時間程度) ・毎回小テストを実施し、次回の授業時に返却する。返却されたテストを用いて、復習をすること。(第1回～14回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 発達の概要と保育の方法 第2回 (講義) 最近の保育観 第3回 (講義) 子どもの発達と心の育ち 第4回 (講義) 子どもの発達(身体活動の発達・情緒の発達) 第5回 (講義) 子どもの発達(思考の発達) 第6回 (講義) 子どもの発達(人間関係の発達) 第7回 (講義) 子どもの発達(社会性の発達) 第8回 (講義) 子どもの発達(言葉の発達) 第9回 (講義) 子どもの行動と心理(3才児の姿と保育) 第10回 (講義) 子どもの行動と心理(内発的動機づけとモチベーション) 第11回 (講義) 子どもを見る目と教育評価 第12回 (講義) 発達の連続性と個人差 第13回 (講義) 保育カンファレンス(子どもの心理を考える) 第14回 (講義) 保育カンファレンス(子どもの言葉から考える) 第15回 (講義) 最近の子どもの気になる姿とその原因 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※授業ごとに配布するプリントに授業で学んだことを記載すること。毎回、小テストを実施し、採点をして次回授業で返却する。授業の理解が十分でなかった内容については再度授業で取り上げ理解を深める。返却された小テストと記載したプリントを用いて復習することを求める。
--------------	---

ナンバリング	PECM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	31070			
科目	3107 子どもの保健Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 佐和子			単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 佐和子							
授業概要	子どもの生命の保持、健康の増進を図ることの意味を認識させ、教育実践・保育実践における保健活動の重要性についての認識を深められる内容とする。また、総論的な視点から、子どもの発育・発達について解説し、疾病の予防および適切な対応について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	1. 一人ひとりの子どもの成長発達をふまへ「健康」「保健」の意義について学び、説明することができる。 2. 子どもの標準的な発育・発達について理解したうえで、具体的な尺度を用いて説明することができる。 3. 疾病の予防について理解し、疾病の適切な対処方法がわかる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9784577814482	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで総合評価する。 なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する。
演習レポート	30%	課題に対して適切な内容になっているか。指定した形式で作成されているか。
定期試験	60%	講義内容の理解度を確認する。

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に講義テーマに該当する教科書の内容を読んでおくこと(第2～15回/2時間程度) 2. 授業後、小テストの振り返り、講義内容を再確認すること(第1～14回/2時間程度) 3. 演習レポートを作成すること(2時間程度) 4. 定期試験に向けて小テストを確認し、試験範囲の復習を行うこと(第15回/2時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 保育における保健の意義と目的 第2回(講義) 子どもの健康概念と指標 第3回(講義) 発育発達の基本原則 第4回(講義) 身体発育と運動機能の発達 第5回(講義) 精神機能の発達と生理機能の発達 第6回(講義) 子どもの発育発達と健康診断 第7回(講義・演習) 子どもの健康状態の把握 プレゼン準備(グループワーク) 第8回(講義) 体調のよくない子どもへの対応(発熱、下痢、便秘、嘔吐) 第9回(講義) 子どものかかりやすい感染症 第10回(講義) 感染症の予防と対応 第11回(講義) その他の子どもの病気 第12回(講義) アレルギー性疾患の特徴と対応 第13回(演習) 子どもの保健のまとめ(プレゼンテーション①) 第14回(演習) 子どもの保健のまとめ(プレゼンテーション②) 第15回(講義) 保育における保健、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度により受講計画を変更することもある。 ※演習内容に関する課題レポートは確認後速やかに返却し、講義内で学びや気づきを共有する。 ※小テストは採点后速やかに返却し、講義内で解説を行う。
--------------	--

ナンバリング	PECM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31080		
科目	3108 子どもの健康と安全			授業種別	週間授業		
科目責任者	鈴木 佐和子			単位数	1 単位		
担当教員	鈴木 佐和子						
授業概要	「子どもの保健」で習得した知識を演習等でより具体的に学び、保育者として実践的な技術を身につける。健康状態・異常の早期発見・疾病の予防・看護・応急処置・安全管理について学ぶ。演習では、グループで各自が実践し、観察者、チェック者など役割分担し準備や片付けを行う。演習内容は、養護技術と応急処置に重点を置く。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○			
到達目標	1. 子どもの成長発達に見合った養護技術を身につけ、発達援助が模倣的にできる。 2. 子どもの疾病及び、予防、事故への適切な対応ができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9784577814482	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで総合評価する。 なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する。
演習レポート	30%	課題に対して適切な内容になっているか。指定した形式で作成されているか。
定期試験	60%	講義内容の理解度を確認する。

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に講義テーマに該当する教科書の内容を読んでおくこと(第1～15回 /0.5時間程度) 2. 授業後、小テストの振り返り、講義内容を再確認すること(第1～15回 /1時間程度) 3. 演習レポートを作成すること(2時間程度) 4. 定期試験に向けて小テストを確認し、試験範囲の復習を行うこと(3時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) オリエンテーション 第2回 (講義) 子どもの健康観察と健康管理(健康状態を把握するポイント) 第3回 (演習) 子どもの健康観察と健康管理(バイタルサイン測定・健康診断)(実技) 第4回 (講義・演習) 子どもの発育・発達の観察と評価(体重・身長・頭囲・胸囲など)(実技) 第5回 (講義) 子どもの発育・発達の観察と評価(発育の評価) 第6回 (講義・グループワーク) 子どもに多いけがと対応・プレゼン準備 第7回 (講義) 子どもの体調不良などへの対応(冷罨法・嘔吐時の対応など) 第8回 (講義・演習) 保育における応急処置(誤飲・止血法・熱傷・心肺蘇生法など)(実技) 第9回 (講義) 子どもの生活習慣への援助と教育(抱っこ・おんぶ・おむつ交換) 第10回 (講義・演習) 子どもの養護と教育(調乳・授乳・離乳食)(実技) 第11回 (講義・演習) 子どもの養護と教育(手洗い・うがい・歯磨き・爪切りなど)(実技) 第12回 (講義・演習) 子どもの養護と教育(沐浴・衣服)(実技) 第13回 (講義・プレゼンテーション①) 感染症、保育環境と安全対策 第14回 (講義・プレゼンテーション②) 感染症、保育環境と安全対策 第15回 (講義) 地域との連携・子どもたちのためにできること・まとめ ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※演習内容に関する課題レポートは確認後速やかに返却し、講義内で学びや気づきを共有する。 ※小テストは採点后速やかに返却し、講義内で解説を行う。
--------------	--

ナンバリング	PECM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	32160			
科目	3216 子どもの食と栄養			授業種別	週間授業			
科目責任者	武田 康代			単位数	2 単位			
担当教員	武田 康代							
授業概要	保育の現場で活かせる、子どもの発育・発達と食生活についての関連を知り、基本的知識（栄養、栄養素バランス）を修得する。健康な生活の基本としての食生活の意義や、食育のための環境について明らかにする。調乳実習、離乳食実習、食物アレルギー代替食実習を通して、『子どもの食と栄養』を支援する保育者の役割について知り、説明できるようになることを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	1. 子どもたちの健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する内容を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3. 保育所における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について工夫することができる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状課題について説明できる。 5. 特別な配慮を要する子ども（食物アレルギーに対応した食事を含む）の食と栄養について工夫することができる。							

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの食物アレルギーあしんBOOK	今井孝成 近藤康人 高松伸枝	女子栄養大学出版部	1,800 円 (税別)	978-4-7895-5138-0	
新食物アレルギーの基礎と対応	伊藤浩明	株式会社みらい	3,000 円 (税別)	978-4-86015-449-3	
新基本保育シリーズ 12 子どもの食と栄養	堤ちはる 藤澤由美子	中央法規出版株式会 社	2,000 円 (税別)	987-4-8058-5792-2	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。調理実習は、レシピに沿って他者とコミュニケーションをとることができ、協働できること。劣悪な受講態度は、減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
食育演習ノート	40%	講義内容の理解度を確認する
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する（基礎問題 70% 応用問題 30%）

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	初回ガイダンスに、「食育演習ノート」秋学期ガイダンスに「調理演習ノート」を配付する。 1. 各自「食」に対する問題意識を持ち、予めテキストを熟読して内容を把握し、食育演習ノートの設問に記入すること。(第 2~30 回 /0.5 時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについて、各章の演習課題を作成すること。(第 2~30 回 /0.5 時間程度) 3. 子どもたちの食生活や食の安全性について常に関心をもち整理・復習すること。 (第 2~30 回 /0.5 時間程度) 4. テキストの各章にある「食の支援を保育現場から」を読み感想を記入すること。 (第 2 ～ 30 回 / のうち 12 章分 0.2 時間程度) 5. 「弁当の日」、「20 分で朝ごはん」家庭での調理体験を実施する。当日、自宅で調理しワークシートを制作し、PDCA サイクルに基づきレポートにまとめる (3 時間× 2) 6. 小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと (第 29 ～ 30/3 時間× 2)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義 第 2 回 (講義) 子どもの発育・発達と食育の重要性 第 3 回 (講義) 栄養に関する基本的知識 栄養とは何か 第 4 回 (講義) 栄養に関する基本的知識 栄養素の消化・吸収 第 5 回 (講義) 栄養に関する基本的知識 栄養素の種類とはたらき 第 6 回 (講義) 栄養に関する制度 食事バランスガイド 食品表示の見方 第 7 回 (講義) 妊娠期と授乳期の食生活 第 8 回 (講義) 食物アレルギーのある子どもへの対応 第 9 回 (講義) 子どもの発育・発達と食生活 授乳・離乳の意義 第10回 (演習) 調理実習 実習室の使い方 簡単なおやつ作り 第11回 (講義) 乳児期の食生活 安全な調乳 冷凍母乳への理解 第12回 (演習) 調理実習 調乳実習 冷凍母乳への理解 第13回 (講義) 乳児期の食生活 離乳食の進め方のめやす 第14回 (演習) 調理実習 離乳初期 離乳中期 ベビーフード 液体ミルクへの理解 第15回 (講義) 春学期のまとめと小テスト DVD 視聴 第16回 (講義) 咀嚼機能の発達の目安 誤嚥と窒息事故 食物アレルギー 第17回 (演習) 調理実習 離乳後期 離乳完了期 第18回 (講義) 幼児期の発育・発達と食生活 味覚のしつけは乳幼児期から 第19回 (講義) 間食 (おやつ) の意義と与え方 誤嚥と窒息事故 第20回 (演習) 調理実習 食育プログラム 五感でクッキング 誤嚥と窒息事故 第21回 (演習) 食育の基本と内容 食育だよりの作成 食物アレルギー 第22回 (演習) 調理実習 食物アレルギー代替食 米粉のお好み焼き 第23回 (講義) 食育の基本と内容 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第24回 (演習) 調理実習 緊急時対応食 カレーライス バッククッキング 第25回 (講義) 子どもの発育・発達と食生活 生涯発達と食生活 第26回 (演習) 調理実習 5 歳児のお弁当作り 『まごわやさしい』 日本型食生活のすすめ 第27回 (演習) 食育プログラム 市販のお菓子と栄養成分 食物アレルギー表示の理解 第28回 (演習) 環境整備 嚥下調整食 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第29回 (演習) 食育の基本と内容 展開方法 PDCA サイクルの理解 (20 分で朝ごはん) Plan 第30回 (講義) 子どもの食と栄養まとめ 日本の伝統的な和食文化の保護・伝承 ※ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもある。 ※小テストについては、授業内で返却し解説を行う。 ※課題 (テストや食育演習ノート等) については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	PECM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	32161			
科目	3216 子どもの食と栄養			授業種別	週間授業			
科目責任者	武田 康代			単位数	2 単位			
担当教員	武田 康代							
授業概要	保育の現場で活かせる、子どもの発育・発達と食生活についての関連を知り、基本的知識（栄養、栄養素バランス）を修得する。健康な生活の基本としての食生活の意義や、食育のための環境について明らかにする。調乳実習、離乳食実習、食物アレルギー代替食実習を通して、『子どもの食と栄養』を支援する保育者の役割について知り、説明できるようになることを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	1. 子どもたちの健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する内容を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3. 保育所における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について工夫することができる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状課題について説明できる。 5. 特別な配慮を要する子ども（食物アレルギーに対応した食事を含む）の食と栄養について工夫することができる。							

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの食物アレルギーあんしんBOOK	今井孝成 近藤康人 高松伸枝	女子栄養大学出版部	1,800 円 （税別）	978-4-7895-5138-0	
新食物アレルギーの基礎と対応	伊藤浩明	株式会社みらい	3,000 円 （税別）	978-4-86015-449-3	
新基本保育シリーズ 12 子どもの食と栄養	堤ちはる 藤澤由美子	中央法規出版株式会 社	2,000 円 （税別）	987-4-8058-5792-2	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。調理実習は、レシピに沿って他者とコミュニケーションをとることができ、協働できること。劣悪な受講態度は、減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
食育演習ノート	40%	講義内容の理解度を確認する
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する（基礎問題 70% 応用問題 30%）

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	初回ガイダンスに、「食育演習ノート」秋学期ガイダンスに「調理演習ノート」を配付する。 1. 各自「食」に対する問題意識を持ち、予めテキストを熟読して内容を把握し、食育演習ノートの設問に記入すること。（第 2～30 回 /0.5 時間程度） 2. 毎授業後に授業で得た学びについて、各章の演習課題を作成すること。（第 2～30 回 /0.5 時間程度） 3. 子どもたちの食生活や食の安全性について常に関心をもち整理・復習すること。（第 2～30 回 /0.5 時間程度） 4. テキストの各章にある「食の支援を保育現場から」を読み感想を記入すること。（第 2 ～ 30 回 / のうち 12 章分 0.2 時間程度） 5. 「弁当の日」、「20 分で朝ごはん」家庭での調理体験を実施する。当日、自宅で調理しワークシートを制作し、PDCA サイクルに基づきレポートにまとめる（3 時間×2） 6. 小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと（第 29 ～ 30/3 時間×2）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義 第 2 回（講義）子どもの発育・発達と食育の重要性 第 3 回（講義）栄養に関する基本的知識 栄養とは何か 第 4 回（講義）栄養に関する基本的知識 栄養素の消化・吸収 第 5 回（講義）栄養に関する基本的知識 栄養素の種類とはたらき 第 6 回（講義）栄養に関する制度 食事バランスガイド 食品表示の見方 第 7 回（講義）妊娠期と授乳期の食生活 第 8 回（講義）食物アレルギーのある子どもへの対応 第 9 回（講義）子どもの発育・発達と食生活 授乳・離乳の意義 第10回（演習）調理実習 実習室の使い方 簡単なおやつ作り 第11回（講義）乳児期の食生活 安全な調乳 冷凍母乳への理解 第12回（演習）調理実習 調乳実習 冷凍母乳への理解 第13回（講義）乳児期の食生活 離乳食の進め方のめやす 第14回（演習）調理実習 離乳初期 離乳中期 ベビーフード 液体ミルクへの理解 第15回（講義）春学期のまとめと小テスト DVD 視聴 第16回（講義）咀嚼機能の発達の目安 誤嚥と窒息事故 食物アレルギー 第17回（演習）調理実習 離乳後期 離乳完了期 第18回（講義）幼児期の発育・発達と食生活 味覚のしつけは乳幼児期から 第19回（講義）間食（おやつ）の意義と与え方 誤嚥と窒息事故 第20回（演習）調理実習 食育プログラム 五感でクッキング 誤嚥と窒息事故 第21回（演習）食育の基本と内容 食育だよりの作成 食物アレルギー 第22回（演習）調理実習 食物アレルギー代替食 米粉のお好み焼き 第23回（講義）食育の基本と内容 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第24回（演習）調理実習 緊急時対応食 カレーライス バッククッキング 第25回（講義）子どもの発育・発達と食生活 生涯発達と食生活 第26回（演習）調理実習 5 歳児のお弁当作り 『まごわやさしい』 日本型食生活のすすめ 第27回（演習）食育プログラム 市販のお菓子と栄養成分 食物アレルギー表示の理解 第28回（演習）環境整備 嚥下調整食 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第29回（演習）食育の基本と内容 展開方法 PDCA サイクルの理解（20 分で朝ごはん）Plan 第30回（講義）子どもの食と栄養まとめ 日本の伝統的な和食文化の保護・伝承 ※ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもある。 ※小テストについては、授業内で返却し解説を行う。 ※課題（テストや食育演習ノート等）については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	PECM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	31090					
科目	3109 子ども家庭支援論	授業種別	週間授業					
科目責任者	中島 美奈子	単位数	2 単位					
担当教員	中島 美奈子							
授業概要	現代の社会では、様々な環境におかれた子育て家庭へのきめ細やかな支援が大変重要となっている。本授業では、保護者や子どもに対する支援のあり方について理解を深めるとともに、様々な制度に基づき子育て支援を実践している保育現場の取り組みの現状、専門機関との連携について学ぶ。また、保育者として実際に様々な相談の内容や支援方法について触れ、家庭支援に必要な知識と実践技術を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育教諭の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○				
到達目標	1. 家庭の意義及び子育て家庭を取り巻く社会的状況についての基礎的なことを修得する 2. 家庭支援に係る専門機関について把握し、連携のための保育者としての姿勢を身につける 3. 家庭支援の多様性と支援の実践について理解を深め、地域家庭親子ひろばにて実際に交流を図る							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針 幼保連携型教育保育要領					
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	40%	課題に対して適切な内容・記述となっているかを評価する
課題作品	15%	課題に対して適切な作品となっているかを評価する
小テスト	15%	講義内容の理解度を確認する
定期試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと (第2～11 回／0.5 時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること (第2～11 回／1 時間程度) 3. 授業内に指示する内容に沿って作品制作をして授業に活かすこと (第10～12 回／1 時間程度) 4. 定期試験に向けて試験範囲の復習を行うこと (第14～15 回／2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 現代の子育て家庭の状況と子育て支援が求められる社会的背景 第2回 (講義) 子育て支援の制度的基盤 第3回 (講義) 子育て支援において保育所・認定こども園などが果たす役割 第4回 (講義) 子育て支援の基本的価値・倫理 (子どもの最善の利益の尊重・秘密保持等) 第5回 (講義) 保育者に求められる基本的姿勢 (受容的関わり・自己決定の尊重等) 第6回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の基本的技術 第7回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の実践①日常会話・文書 第8回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の実践②環境・行事など 第9回 (講義) 育てにくさや障害を持つ子どもの子育てを支援する保育者の姿勢 第10回 (講義) 特別なニーズを持つ家族と支援のあり方 第11回 (講義) 地域の子育て家庭への支援の視点と保育者の役割 第12回 (演習) 保育所における子育て支援活動の見学① (フィールドワーク) 親子ひろばの実践に向けての保育者の姿勢及び事例 第13回 (演習) 保育所における子育て支援活動の見学② (フィールドワーク) 親子ひろばの見学及び参加実践 第14回 (講義) 園内・園外との連携と子育て支援に関する社会資源 第15回 (講義) 保育者の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 ※課題レポート及びテスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを行い、必要に応じて個別にコメントを記入したレポート用紙を返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEBM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	31100			
科目	3110 カリキュラム論			授業種別	週間授業			
科目責任者	大矢 龍弥			単位数	2 単位			
担当教員	大矢 龍弥							
授業概要	本授業では、カリキュラム・マネジメントをキーワードに保育の計画と評価の意義について理論的・実践的に学ぶ。とりわけ、子ども理解に基づいた教育課程・全体的な計画・指導計画を作成する方法の体得を目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	保育の計画とカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、計画・実践・評価・改善の循環サイクルを自ら実践できる。保育の計画の体系を把握し、各種の計画間の関係を理解し、説明できる。子どもの発達段階や成長過程、興味関心等に基づいて、実際の保育の計画を立案できる。様々な種類のカリキュラムの存在に関心を持ち、国内外の多様な保育実践から学ぶことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
教育課程・保育計画総論	戸田 雅美	建帛社	1900	9784767951355	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館		9.78458E+12	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館		9.78458E+12	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館		9.78458E+12	
保育の計画と評価	名須川 知子	ミネルヴァ書房	2500	9784623079650	
教育課程論・教育評価論	広岡 義之	ミネルヴァ書房	2500	9784623092864	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内の課題	70%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
レポート	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	授業内容を復習すること(第1～14回／1時間程度) テキストや参考資料の指定箇所を読んで予習すること(第2～15回／1時間程度) 既修内容をもとに指導計画案を構想すること(第8～12回／2時間程度) 課題レポート作成のための総合的な復習をすること(第14～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) オリエンテーション／カリキュラムとは何か 第2回(講義) 教育・保育における計画と評価 第3回(講義) 保育実践とカリキュラム・マネジメント 第4回(講義・演習) 教育課程と全体的な計画の基礎 第5回(演習) 全体的な計画の実践と作成 第6回(講義) 学力とカリキュラム 第7回(講義) 子ども理解に基づくカリキュラム 第8回(講義・演習) 指導計画の基礎—長期・短期の指導計画 第9回(演習) 指導計画の実践と作成 1(乳児(0・1歳児)の指導計画立案) 第10回(演習) 指導計画の実践と作成 2(乳児と3歳未満児の指導計画立案) 第11回(演習) 指導計画の実践と作成 3(幼児の指導計画立案) 第12回(演習) 指導計画の実践と作成 4(小学校との接続期の指導計画立案) 第13回(講義) 教育・保育の記録と省察 第14回(講義) 教育・保育の評価と改善 第15回 まとめ ※課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	32810					
科目	3281 障害児心理学	授業種別	週間授業					
科目責任者	池田 信子	単位数	2 単位					
担当教員	池田 信子							
授業概要	共生社会について考えを深めるために、自身の障害観や偏見や差別への気づき、必要な合理的配慮について学ぶ。脳の発達や発達の客観的な測定手法について理解する。また、各障害の心理について、特性の理解とともに疑似体験を通してより深く学ぶ。また、精神疾患の基礎的な知識を身に付ける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎				
到達目標	1. 自分自身の障害者観に気づき、差別が生じる背景について説明できる。 2. 共生社会を構築するための自分の役割について考えを述べることができる。 3. 各障害児の特性を理解し、支援の手立てを工夫することができる。 4. 当事者だけではなく、家族を含めた総合的な支援ができるようになる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
こどもまんなか福祉論	新沼英明	中央法規	2,200 円	9784824300188	
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円 (税込)	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府 / 文部科学省 / 厚生労働省	フレーベル館	164 円 (税込)	978-4577814246	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』文部科学省、フレーベル館、164 円(税込)、978-4577814222 も参考とする場合がある。 上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
-------------------------------	---

成績評価	授業内で行った課題への取組状況や内容、授業終了時の総括レポートで総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート	30%	講義内容の理解度を確認し、評価する。
課題レポート	40%	課題に基づきレポートを作成し、内容を評価する。
授業への参加態度 (リアクションペーパー)	30%	毎授業の習熟度を評価する。内容と量で判断する。

受講条件	特別支援教育・保育Iを履修済みであることが望ましい。
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業後に復習をし、疑問点などについて調べる (毎回 90 分程度) 2. 最終課題への取り組み (4 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス・障害理解について 第 2 回 (演習) 共生社会の実現とは (1) 障害観について (ディスカッション) 第 3 回 (演習) 共生社会の実現とは (2) 障害者差別 (ディスカッション) 第 4 回 (演習) 共生社会の実現とは (3) 障害当事者からのメッセージ (グループワーク) 第 5 回 (講義) 発達と障害 (1) 発達検査・知能検査の理解 (グループワーク) 第 6 回 (講義) 発達と障害 (2) 脳の構造と発達 第 7 回 (演習) 視覚障害・聴覚障害の疑似体験に基づく理解と支援 (グループワーク) 第 8 回 (演習) 知的障害のある子どもの理解と支援 (グループワーク) 第 9 回 (演習) 医療的ケア児の理解と支援 (グループワーク) 第 10 回 (演習) 読み書き障害の疑似体験に基づく理解と支援 (グループワーク) 第 11 回 (演習) 発達障害のある子どもの理解と支援 I (グループワーク) 第 12 回 (演習) 発達障害のある子どもの理解と支援 II (グループワーク) 第 13 回 (講義) 精神障害の理解と支援「統合失調症、パーソナリティ障害について」 第 14 回 (講義) 障害児者の家族支援とは 第 15 回 (演習) まとめ (ディスカッション) ※提出課題は添削して返却するか、授業内でフィードバックを行う ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEBM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	31120					
科目	3112 幼児理解と教育相談	授業種別	週間授業					
科目責任者	齋藤 善郎	単位数	2 単位					
担当教員	齋藤 善郎							
授業概要	幼児の生活や遊びの実態に即して、発達過程で生じるつまづきの要因を把握するための原理や対応方法を学ぶ。また、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識や方法を身につける。さらに、子育て環境の多様化や少子化の流れの中、不安感や負担感を持つ保護者への対応について、事例を通して理解を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
到達目標	1. 幼児理解の知識を身につけ、考え方や態度を理解できる。 2. 教育相談に関わる心理学的理論・概念を理解できる。 3. 子育て環境の背景を知り、保護者の心情に寄り添った援助方法を理解できる。 4. カウンセリング的援助の仕方を理解できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。 ①小テスト 70% ②課題レポート 30%	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	70%	講義内容の理解度を確認する。
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容、記述になっているか。

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	今回の授業内容を伝え、次回までに調べたり考えてほしい事柄についてアナウンスするので、あらかじめその事柄を学んで授業に臨むこと。(第1回～15回/2時間程度) 毎回小テストを実施し、次の授業時に返却する。返却されたテストを用いて、復習をすること。(第1回～15回/2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 子どもの発達の姿(乳児期を中心に) 第2回 (講義) 子どもの発達の姿(幼児期を中心に) 第3回 (講義) 幼児期に育てたい発達課題 第4回 (講義) 保育者の役割 第5回 (講義) カウンセリング・マインド 第6回 (講義) 心に刷り込まれる乳幼児期の体験 第7回 (講義) 気になる行動への対応と理解 第8回 (講義) 教育相談と保護者理解 第9回 (講義) 子育て環境の変化と子育て 第10回 (講義) 育児不安と子育て 第11回 (講義) 親の養育態度と子ども 第12回 (講義) 教育相談の理論と方法(傾聴) 第13回 (講義) 教育相談の理論と方法(共感的理解) 第14回 (講義) 保護者対応の方法と子育て支援 第15回 (講義) 園内体制の整備と専門機関との連携 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 ※授業ごとに配布するプリントに授業で学んだことを記載すること。毎回、小テストを実施し、採点をして次回授業で返却する。授業の理解が十分でなかった内容については再度授業で取り上げ理解を深める。返却された小テストと記載したプリントを用いて復習することを求める。
--------------	---

ナンバリング	PEBM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	34020		
科目	3402 子どもと生活			授業種別	集中講義		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子						
授業概要	ネイチャーゲームの実践を通して、まず自分自身の「自然への気づき」を育む。そして自然や環境への理解を深め、子どもたちの自然体験、社会体験を豊かにすることのできる知識と技術の習得を目標とする。また、ネイチャーゲームリーダー資格の取得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1. 五感を使って身近な自然に親しみ、協働や共有ができる。 2. 子どもを取り巻く環境を理解し、説明できる。 3. 安全で豊かな自然体験の為に必要な指導・援助を理解し、実践できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講座説明会(日時決定次第提示)の際に指示する。
------------------------------	-------------------------

成績評価	検定に合格し、ネイチャーゲームリーダー資格を取得した学生に対して単位を認定する。授業への取り組み方、模擬指導、提出課題を総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業や課題への取り組み方	40%	内容を理解して能動的に取り組み、協働できたか。
模擬指導	20%	ポイントの理解、教材・指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。
検定試験	20%	リーダー資格の合格基準を満たしているのか、理解度の確認。
課題、チェックシート等の提出状況	20%	適切な内容で、丁寧に記述されているか。

受講条件	集中講義。別途費用が必要(詳細は講座説明会にて説明する)
事前・事後学修(内容・時間)	事前: 1. 「幼稚園教育要領」の領域「環境」を熟読する。(2 時間程度) 2. 自然環境に関する情報を、本、資料から収集する。(10 時間程度) 3. 指導計画を立て、準備をする。(2 時間程度) 事後: 1. 実践したアクティビティについて、自分で実践できるようにまとめる。(6 時間程度) 2. その他のアクティビティについて、テキスト(理論編)を読んで理解する。(10 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義) シェアリングネイチャーの理念 第 2 回(講義) 自然の理解①(理論) 第 3 回(演習) 自然の理解②(アクティビティ)(グループワーク) 第 4 回(講義・演習) 対象となる参加者を知る 第 5 回(講義) 人と自然、社会、文化のかかわり①(理論) 第 6 回(演習) 人と自然、社会、文化のかかわり②(アクティビティ)(グループワーク) 第 7 回(講義) 自然体験活動の基礎技術①(理論) 第 8 回(演習) 自然体験活動の基礎技術②(アクティビティ)(グループワーク) 第 9 回(講義) 自然体験活動の指導法①(理論) 第 10 回(演習) 自然体験活動の指導法②(模擬指導) 第 11 回(講義・演習) フローラーニングとプログラムの作り方 第 12 回(講義・演習) 検定(指導実践を含む)と振り返り(公社シェアリングネイチャー協会講師) 第 13 回(講義) 安全対策について①(理論) 第 14 回(演習) 安全対策について②(アクティビティ)(グループワーク) 第 15 回(演習) アクティビティの模擬指導(グループワーク) ※一つひとつのプログラムの終了後に、全体の振り返りを行い、コメントすることでフィードバックする。 ※天候や受講生の習熟度によって、授業計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	34120
科目	3412 保育内容総論	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木 順子	単位数	1 単位
担当教員	鈴木 順子		

授業概要	保育の内容の 5 領域と養護の内容について理解する。その前提として子どもの発達を基礎として学ぶ。また子どもを取り巻く環境や社会の諸問題等、保育に関連する事柄について学び保育内容の理解を深める。※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	1. 保育の目標と内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき学び、領域間相互の関係及び養護と教育の関係を理解し、保育内容の全体構造について説明できる。 2. 子どもの発達過程や個々の特性を踏まえた保育内容を計画できる。 3. 教育・保育における環境づくりの重要性を理解し、環境を活用し、環境に配慮した保育を構想できる。 4. 社会の動向や保育ニーズの変化に伴い、変容し多様化する保育内容について関心をもつことができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内で適宜、課題等の提出を求める。授業内テストを実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	65%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
テスト	35%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎回、子どもや保育に関連する報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 15 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計 15 時間程度) 3. 授業で提示された課題の作成(自己学習を含む)(合計 15 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計 6 時間程度) 5. 授業内テストに向けて、授業内容を確認する(合計 9 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) ガイダンス、保育内容総論とは何か。 第 2 回 (講義) 幼稚園・保育所の成立 第 3 回 (講義) 保育内容の歴史的変遷 第 4 回 (講義) 日本における子育てをめぐる現状と課題 第 5 回 (講義) 子どもの生活と遊び 第 6 回 (講義) 年齢ごとの発達 (1) 0 ～ 2 歳 第 7 回 (講義) 年齢ごとの発達 (2) 3 ～ 6 歳 第 8 回 (講義・演習) 保育内容における養護：保育の 1 日を通して 第 9 回 (講義) 保育内容における 5 領域 第 10 回 (講義) 環境を通して行う保育 第 11 回 (講義・演習) 保育内容のねらい及び内容 :3 歳未満児 第 12 回 (講義・演習) 保育内容のねらい及び内容 :3 歳以上児 第 13 回 (講義) 家庭・地域との連携・協働：保育の多様な展開 第 14 回 (講義) 指導計画と評価 第 15 回 (講義) まとめとテスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 課題については、授業内あるいは classroom を通して返却時にフィードバックを行います。
--------------	--

ナンバリング	PEAM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	34121
科目	3412 保育内容総論	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木 順子	単位数	1 単位
担当教員	鈴木 順子		

授業概要	保育の内容の 5 領域と養護の内容について理解する。その前提として子どもの発達を基礎として学ぶ。また子どもを取り巻く環境や社会の諸問題等、保育に関連する事柄について学び保育内容の理解を深める。※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	1. 保育の目標と内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき学び、領域間相互の関係及び養護と教育の関係を理解し、保育内容の全体構造について説明できる。 2. 子どもの発達過程や個々の特性を踏まえた保育内容を計画できる。 3. 教育・保育における環境づくりの重要性を理解し、環境を活用し、環境に配慮した保育を構想できる。 4. 社会の動向や保育ニーズの変化に伴い、変容し多様化する保育内容について関心をもつことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業内で適宜、課題等の提出を求める。授業内テストを実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	65%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
テスト	35%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、子どもや保育に関連する報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 15 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計 15 時間程度) 3. 授業で提示された課題の作成(自己学習を含む)(合計 15 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計 6 時間程度) 5. 授業内テストに向けて、授業内容を確認する(合計 9 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義) ガイダンス、保育内容総論とは何か。 第 2 回(講義) 幼稚園・保育所の成立 第 3 回(講義) 保育内容の歴史的変遷 第 4 回(講義) 日本における子育てをめぐる現状と課題 第 5 回(講義) 子どもの生活と遊び 第 6 回(講義) 年齢ごとの発達(1) 0～2 歳 第 7 回(講義) 年齢ごとの発達(2) 3～6 歳 第 8 回(講義・演習) 保育内容における養護: 保育の 1 日を通して 第 9 回(講義) 保育内容における 5 領域 第 10 回(講義) 環境を通して行う保育 第 11 回(講義・演習) 保育内容のねらい及び内容: 3 歳未満児 第 12 回(講義・演習) 保育内容のねらい及び内容: 3 歳以上児 第 13 回(講義) 家庭・地域との連携・協働: 保育の多様な展開 第 14 回(講義) 指導計画と評価 第 15 回(講義) まとめとテスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 課題については、授業内あるいは classroom を通して返却時にフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34220			
科目	3422 保育内容・健康			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位			
担当教員	岡本 雅子							
授業概要	子どもの健やかな育ちを支える保育者の役割を理解した上で、子どもの発育・発達、学びの過程を学ぶ。また、領域「健康」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが経験して身に付けるべき内容への理解を深める。さらに、映像資料や事例・演習課題を通して、保育者の視点に立って指導・援助を考える。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	△				
到達目標	1. 子どもの健康・発育発達を踏まえ、年齢や心情に応じた関わりを説明できる。 2. 領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点を説明できる。 3. 子どもを取り巻く環境の変化や課題を踏まえた保育方法や保育者の役割を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」 第2版	池田裕恵	杏林書院	2000	9784764411890	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標が、どの程度達成されたかを、提出物・小テスト・定期試験で総合的に評価をする。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出状況、達成度	30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。
小テスト	20%	指定した範囲の理解度、努力の確認。
定期試験	50%	筆記試験で、科目全体の理解度を確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストを読む。(第2回～15回／0.5時間程度) 2. プリントの復習・確認をする。(第2回～15回／0.5時間程度) 3. 小テスト範囲を復習する。(第3回～第8回／1時間程度) 4. 定期試験範囲を復習する。(第11回～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)「健康」の定義と現代の子どもの姿 第2回(講義・演習)領域「健康」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 第3回(講義)情緒の発達と人とのかかわり 第4回(講義)身体諸機能の発達 第5回(講義・演習)運動機能の発達 第6回(講義・演習)運動発達課題 第7回(講義・演習)あそびとは、幼児が感じる楽しさとは 第8回(講義・演習)あそびの環境とあそびの意義 第9回(講義・演習)健康な生活リズムと基本的生活習慣(睡眠)(グループワークと発表) 第10回(講義・演習)基本的生活習慣(食事)と食育(グループワークと発表) 第11回(講義・演習)基本的生活習慣と子どもに説明する工夫(排泄・衣服の着脱・清潔)(グループワークと発表) 第12回(講義)健康診断と感染症の予防 第13回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防①(危険予知トレーニング) 第14回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防②(チャイルドビジョン体験) 第15回(講義・演習)災害対策と避難訓練(グループワーク) ※プリント・小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。また必要に応じてコメントすることで、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34221			
科目	3422 保育内容・健康			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位			
担当教員	岡本 雅子							
授業概要	子どもの健やかな育ちを支える保育者の役割を理解した上で、子どもの発育・発達、学びの過程を学ぶ。また、領域「健康」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが経験して身に付けるべき内容への理解を深める。さらに、映像資料や事例・演習課題を通して、保育者の視点に立って指導・援助を考える。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	△				
到達目標	1. 子どもの健康・発育発達を踏まえ、年齢や心情に応じた関わりを説明できる。 2. 領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点を説明できる。 3. 子どもを取り巻く環境の変化や課題を踏まえた保育方法や保育者の役割を理解し、説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」 第2版	池田裕恵	杏林書院	2000	9784764411890	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標が、どの程度達成されたかを、提出物・小テスト・定期試験で総合的に評価をする。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出状況、達成度	30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。
小テスト	20%	指定した範囲の理解度、努力の確認。
定期試験	50%	筆記試験で、科目全体の理解度を確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストを読む。(第2回～15回／0.5時間程度) 2. プリントの復習・確認をする。(第2回～15回／0.5時間程度) 3. 小テスト範囲を復習する。(第3回～第8回／1時間程度) 4. 定期試験範囲を復習する。(第11回～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)「健康」の定義と現代の子どもの姿 第2回(講義・演習)領域「健康」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 第3回(講義)情緒の発達と人とのかわり 第4回(講義)身体諸機能の発達 第5回(講義・演習)運動機能の発達 第6回(講義・演習)運動発達課題 第7回(講義・演習)あそびとは、幼児が感じる楽しさとは 第8回(講義・演習)あそびの環境とあそびの意義 第9回(講義・演習)健康な生活リズムと基本的生活習慣(睡眠)(グループワークと発表) 第10回(講義・演習)基本的生活習慣(食事)と食育(グループワークと発表) 第11回(講義・演習)基本的生活習慣と子どもに説明する工夫(排泄・衣服の着脱・清潔)(グループワークと発表) 第12回(講義)健康診断と感染症の予防 第13回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防①(危険予知トレーニング) 第14回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防②(チャイルドビジョン体験) 第15回(講義・演習)災害対策と避難訓練(グループワーク) ※プリント・小テストについては、次の授業内で質問への回答、返却をする。また必要に応じてコメントすることで、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	34320			
科目	3432 保育内容・人間関係			授業種別	週間授業			
科目責任者	山内 博子			単位数	1 単位			
担当教員	山内 博子							
授業概要	この授業では、領域「人間関係」とは何を目的とし、どのような内容を扱うべきかを考えていく。子どもが初めての集団生活を経験する保育所・幼稚園において、子どもの自主性と社会性の発達は、子どもの生活の展開そのものであり、また人格形成の根幹を成すものである。これらの発達を援助することの重要性をまず確認し、それを日々の保育として具体的に展開していく方法を実践的に学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき理解し、現代的な課題を踏まえながら子どもの中に育てるべきことがらを文章化することができる。 2. 子どもが自分自身を捉え、人との関わりを築いていくプロセスにおいて、基礎的な理論を踏まえ、子どもの発達過程や個々の特性に応じた指導方法を考案できる。その際に、情報機器やその他の教材の効果的な活用について理解し実践できる。 3. 集団生活の中で、子どもが自己を発揮しながら協同性を身に付けていくために相応しい具体的な活動や遊びなどを計画、実践し、さらに改善していくことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて、資料を配布する。
------------------------------	-----------------

成績評価	授業への参加度と授業中の課題(40%)、筆記試験(60%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内で提示する課題の出来と授業への参加度	40%	授業、課題への取り組み方、提出状況、課題の達成度。
筆記試験	60%	講義内容の理解度の確認。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料・課題とノートを整理し、読み返す。(第1~13回／1時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1~13回／1時間程度) 3. 保育実践のために必要な準備を行う。(第14~15回／0.5時間程度) 4. 定期試験のための復習を行う。(第14~15回／1.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 5領域における「人間関係」 第2回 (講義・演習) 子どもを取り巻く環境と人間関係 第3回 (講義・演習) 子どもの人間関係をめぐる現代的課題 第4回 (講義・演習) 領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い 第5回 (講義・演習) 育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に見る「人間関係」 第6回 (講義・演習) 保育所保育指針における「人間関係」 第7回 (講義・演習) 子どもの発達と人間関係 第8回 (講義・演習) 遊びの発達と人間関係 第9回 (講義・演習) 子どもの人間関係を育む教材の研究(グループワーク) 第10回 (講義・演習) 乳児期における人とのかかわり 第11回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(自我の発達) 第12回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(協同する経験を構想する) 第13回 (講義・演習) 集団づくりの手法(情報機器の活用を取り入れた長期的計画の作成)(ディスカッション) 第14回 (講義・演習) 保育を構想する(指導案の作成と協議)(グループワーク) 第15回 (実技) 実践から学ぶ(模擬保育と振り返り)(プレゼンテーション、ディスカッション) ※授業内で実施した課題やレポートについては、内容に応じて、授業内で正解を確認し、あるいは提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。 さらに、内容によっては、課題・レポート内容の発表を通じて、学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEAM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	34420		
科目	3442 保育内容・環境			授業種別	週間授業		
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位		
担当教員	加藤 克俊						
授業概要	領域「環境」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが保育者や周囲の様々な環境とどのように関わり、どのような育ちが見られるのか、教科書やプリントなどを基にそれぞれが考察しながら理解を深める。また、子どもの発達に即した環境構成や指導・援助を具体的に考えると同時に、演習を通して保育者がどのようにあるべきか、保育者としての視点や態度の習得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		△			
到達目標	1. 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。 2. 子どもの育ちと「環境」との関わり的重要性を理解し、保育者の視点で自ら関わり、身近なあらゆる環境を保育構想のヒントにすることができる。 3. 子どもの発達や体験に即した保育環境や保育を構想する力と、保育を改善する視点を身に付ける。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
環境指導法		中央社	1600	9784907270339	
認定給本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部 会認定給本士養成講座テキスト 作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	提出物(全て提出することが前提)の内容を80%、最終課題(レポート)を20%の割合で、総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	80%	毎回の提出物の期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度ををはかる。
最終課題	20%	期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度ををはかる。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2回～15回／0.1時間程度) 2. 授業内容について、事前に関連事項を調べて授業に参加すること。(第2回～15回／0.25時間程度) 3. 課題について、期日までに作成し関連事項を調べること。(第1回～15回／0.7時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 1-① 子どもと環境について学ぼう 第2回 (講義) 1-② 保育内容・領域「環境」について学ぼう 1-③ 保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう 第3回 (講義) 1-④ 保育の過程について学ぼう 第4回 (演習) 環境を活かしたあそびを考える 第5回 (講義) 指導案の作成Ⅰ 第6回 (演習) 2-① ものとかかわりの実践について学ぼう(ハッピーレストラン) 第7回 (演習) 2-② 自然とのかかわりの実践について学ぼう(葉っぱで遊んでみよう) 第8回 (演習) 【認定給本士養成講座該当科目】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 絵本をきっかけとした活動について(認定講座用課題有) 第9回 (演習) 【認定給本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術② 絵本をきっかけとした活動の実践(認定講座用課題有) 第10回 (演習) 2-③ 数量・図形とのかかわりの実践について学ぼう(体を測ろう 体で測ろう) 第11回 (演習) カプラであそぼう 第12回 (講義) 2-⑦ 行事とのかかわりの実践について学ぼう(地域のお祭りを調べよう) 第13回 (講義) 3-① 遊びを通じた総合的な指導の展開について学ぼう 3-② 小学校との連携・接続の実践について学ぼう 第14回 (演習) 「遊びをつくろう」 第15回 (講義) 最終課題 指導案の作成Ⅱ ※提出物返却時にコメントし、間違いの多い箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することがある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	34421				
科目	3442 保育内容・環境	授業種別	週間授業				
科目責任者	加藤 克俊	単位数	1 単位				
担当教員	加藤 克俊						
授業概要	領域「環境」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが保育者や周囲の様々な環境とどのように関わり、どのような育ちが見られるのか、教科書やプリントなどを基にそれぞれが考察しながら理解を深める。また、子どもの発達に即した環境構成や指導・援助を具体的に考えると同時に、演習を通して保育者がどのようにあるべきか、保育者としての視点や態度の習得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		△			
到達目標	1. 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。 2. 子どもの育ちと「環境」との関わり的重要性を理解し、保育者の視点で自ら関わり、身近なあらゆる環境を保育構想のヒントにすることができる。 3. 子どもの発達や体験に即した保育環境や保育を構想する力と、保育を改善する視点を身に付ける。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
環境指導法		中央社	1600	9784907270339	
認定給本土養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会 認定給本土養成講座テキスト作 成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
					適宜資料を用いる。
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	提出物(全て提出することが前提)の内容を80%、最終課題(レポート)を20%の割合で、総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	80%	毎回の提出物の期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。
最終課題	20%	期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2回～15回／0.1時間程度) 2. 授業内容について、事前に関連事項を調べて授業に参加すること。(第2回～15回／0.25時間程度) 3. 課題について、期日までに作成し関連事項を調べること。(第1回～15回／0.7時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 1-① 子どもと環境について学ぼう 第2回 (講義) 1-② 保育内容・領域「環境」について学ぼう 1-③ 保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう 第3回 (講義) 1-④ 保育の過程について学ぼう 第4回 (演習) 環境を活かしたあそびを考える 第5回 (講義) 指導案の作成Ⅰ 第6回 (演習) 2-① ものとかかわりの実践について学ぼう(ハッピーレストラン) 第7回 (演習) 2-② 自然とのかかわりの実践について学ぼう(葉っぱで遊んでみよう) 第8回 (演習) 【認定給本土養成講座該当科目】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 絵本をきっかけとした活動について(認定講座用課題有) 第9回 (演習) 【認定給本土養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術② 絵本をきっかけとした活動の実践(認定講座用課題有) 第10回 (演習) 2-③ 数量・図形とのかかわりの実践について学ぼう(体を測ろう 体で測ろう) 第11回 (演習) カプラであそぼう 第12回 (講義) 2-⑦ 行事とのかかわりの実践について学ぼう(地域のお祭りを調べよう) 第13回 (講義) 3-① 遊びを通した総合的な指導の展開について学ぼう 3-② 小学校との連携・接続の実践について学ぼう 第14回 (演習) 「遊びをつくろう」 第15回 (講義) 最終課題 指導案の作成Ⅱ ※提出物返却時にコメントし、間違いの多い箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することがある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34520			
科目	3452 保育内容・言葉			授業種別	週間授業			
科目責任者	青嶋 由美子			単位数	1 単位			
担当教員	青嶋 由美子							
授業概要	子どもが豊かな言葉の世界を構築するための保育者の役割を理解した上で、子どもの言葉の発達過程と言葉を育てるための援助方法を学ぶ。領域「言葉」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが友達や保育者と関わりながら身に付けるべき言葉への理解を深める。更に実践として絵本を中心に教材（児童文化財）研究とその使用・指導案の作成・模擬保育指導・視聴覚教材を用いての事例検討・発表と振り返り等を通し、保育者として必要な援助・技能を考え、具体的な言葉の指導方法について協議する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△				
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知り、その発達過程に応じた絵本を中心とする児童文化財に関する基礎的な知識を持つこと、子どもの年齢や発達に応じた言葉のやり取りの基本を身に付けることは、保育者になるために欠かせないステップである。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの言葉の発達段階に応じ、子どもの言葉を引き出していく関わりができる。 2. 領域「言葉」のねらい・内容・指導上の留意点を理解し、評価できる。 3. 子どもの言葉の発達に関わる環境の変化や課題を踏まえた保育方法（情報機器の活用を含む）、保育者の役割を知る。 4. 絵本を中心に児童文化財の役割を理解し、保育の中に活かせる。							

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	模擬指導や発表担当者の実践をどのように受け止めて評価出来たかを 10%、模擬指導や発表担当の際の出来具合と振り返りの内容を 40%、定期試験で測る理解度を 50%として総合評価とする。	
評価項目	割合	評価基準
模擬指導及び発表担当の受け止め	10%	どのような受け止め方をしたかを評価表を元に確認する。
発表担当（模擬指導担当・2分間スピーチ）	40%	題材の選択状況・発表の際の発声・聞き手への配慮・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。
定期試験	50%	筆記試験により理解度を確認する。

受講条件	（幼・保）必修	
事前・事後学修（内容・時間）	1. 担当日時を決め2分間スピーチを行うため、十分な時間をかけて準備する。スピーチの準備（1.5 時間程度） 2. 模擬授業担当時の指導案作成のための準備（4 時間程度） 3. 発表担当時の児童文化財の準備（1.5 時間程度） 4. 模擬指導及び発表の担当時の振り返り（0.8 時間程度） 5. 他の担当者実施回の振り返り（0.3 時間程度 8 回分） 6. 授業学習内容のまとめ（第1～ 15 回 0.8 時間程度 ×15 回） 7. 必要に応じて Classroom 上に確認テストの問題をアップするので、解答を準備すること（1 回につき 0.5 時間程度 ×7 回） 8. 定期試験のために、授業での配布プリント・確認テスト・テキストの復習を行うこと（4 時間程度）	

授業の実施方法と授業計画	第1回 （講義）「言葉」とは何か・現代の子どもの言葉の育ち 第2回 （講義、演習）領域「言葉」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「言葉による伝え合い」の姿（映像資料視聴と協議）（グループワークとディスカッション） 第3回 （講義、演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）（認定講座用課題有） 第4回 （講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（乳児・低年齢幼児対象）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第5回 （講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（3・4・5歳児）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第6回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本） 第7回 （講義、演習、実技）教材（言葉の「やりとり」を踏まえた遊び「ごっこ遊び」等）研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第8回 （講義、演習、実技）教材（言葉の「楽しさ」や「美しさ」に気付く遊び〈しりとり・オノマトペ・回文・詩等〉 研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第9回 （講義、演習）言葉の躰さに気付くために必要な知識（映像資料「子どもの発達と支援ことばの発達」を視聴しての事例検討）（ディスカッション） 第 10 回 （講義、演習、実技）教材（紙芝居、エプロン・シアター等のシアターもの）研究と指導案の作成（グループワークとプレゼンテーション） 第 11 回 （講義、演習、実技）紙芝居・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターを用いての模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第 12 回 （講義、演習、実技）想定される場面での言葉掛け（映像資料「ことばを育てる 語りかけ育児」の視聴と協議）（ディスカッションとプレゼンテーション） 第 13 回 （講義、演習、実技）遊びや生活の中での文字（文字指導や文字への興味を育てる遊び）の模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第 14 回 （講義、演習、実技）言語発達の遅れの現状と現場での配慮・対応（グループ研究と発表）（グループワークとプレゼンテーション） 第 15 回 （講義、演習、実技）多文化理解のための外国語表現（挨拶・オノマトペ等）（模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第 16 回 定期試験 ※スピーチと模擬指導については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにルーブリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEAM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34521		
科目	3452 保育内容・言葉			授業種別	週間授業		
科目責任者	青嶋 由美子			単位数	1 単位		
担当教員	青嶋 由美子						
授業概要	子どもが豊かな言葉の世界を構築するための保育者の役割を理解した上で、子どもの言葉の発達過程と言葉を育てるための援助方法を学ぶ。領域「言葉」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが友達や保育者と関わりながら身に付けるべき言葉への理解を深める。更に実践として絵本を中心に教材（児童文化財）研究とその使用・指導案の作成・模擬保育指導・視聴覚教材を用いての事例検討・発表と振り返り等を通し、保育者として必要な援助・技能を考え、具体的な言葉の指導方法について協議する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△			
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知り、その発達過程に応じた絵本を中心とする児童文化財に関する基礎的な知識を持つこと、子どもの年齢や発達に応じた言葉のやり取りの基本を身に付けることは、保育者になるために欠かせないステップである。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの言葉の発達段階に応じ、子どもの言葉を引き出していく関わりができる。 2. 領域「言葉」のねらい・内容・指導上の留意点を理解し、評価できる。 3. 子どもの言葉の発達に関わる環境の変化や課題を踏まえた保育方法（情報機器の活用を含む）、保育者の役割を知る。 4. 絵本を中心に児童文化財の役割を理解し、保育の中に活かせる。						

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	模擬指導や発表担当者の実践をどのように受け止めて評価出来たかを 10%、模擬指導や発表担当の際の出来具合と振り返りの内容を 40%、定期試験で測る理解度を 50%として総合評価とする。	
評価項目	割合	評価基準
模擬指導及び発表担当の受け止め	10%	どのような受け止め方をしたかを評価表を元に確認する。
発表担当（模擬指導担当・2分間スピーチ）	40%	題材の選択状況・発表の際の発声・聞き手への配慮・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。
定期試験	50%	筆記試験により理解度を確認する。

受講条件	（幼・保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 担当日時を決め2分間スピーチを行うため、十分な時間をかけて準備する。スピーチの準備（1.5 時間程度） 2. 模擬授業担当時の指導案作成のための準備（4 時間程度） 3. 発表担当時の児童文化財の準備（1.5 時間程度） 4. 模擬指導及び発表の担当時の振り返り（0.8 時間程度） 5. 他の担当者実施回の振り返り（0.3 時間程度 8 回分） 6. 授業学習内容のまとめ（第1～15 回 0.8 時間程度 ×15 回） 7. 必要に応じて Classroom 上に確認テストの問題をアップするので、解答を準備すること（1 回につき 0.5 時間程度 ×7 回） 8. 定期試験のために、授業での配布プリント・確認テスト・テキストの復習を行うこと（4 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回 （講義）「言葉」とは何か・現代の子どもの言葉の育ち 第2回 （講義、演習）領域「言葉」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「言葉による伝え合い」の姿（映像資料視聴と協議）（グループワークとディスカッション） 第3回 （講義、演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）（認定講座用課題有） 第4回 （講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（乳児・低年齢幼児対象）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第5回 （講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（3・4・5歳児）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第6回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本） 第7回 （講義、演習、実技）教材（言葉の「やりとり」を踏まえた遊び「ごっこ遊び」等）研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第8回 （講義、演習、実技）教材（言葉の「楽しさ」や「美しさ」に気付く遊び〈しりとり・オノマトペ・回文・詩等〉 研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第9回 （講義、演習）言葉の躰さに気付くために必要な知識（映像資料「子どもの発達と支援ことばの発達」を視聴しての事例検討）（ディスカッション） 第10 回 （講義、演習、実技）教材（紙芝居、エプロン・シアター等のシアターもの）研究と指導案の作成（グループワークとプレゼンテーション） 第11 回 （講義、演習、実技）紙芝居・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターを用いての模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第12 回 （講義、演習、実技）想定される場面での言葉掛け（映像資料「ことばを育てる 語りかけ育児」の視聴と協議）（ディスカッションとプレゼンテーション） 第13 回 （講義、演習、実技）遊びや生活の中での文字（文字指導や文字への興味を育てる遊び）の模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第14 回 （講義、演習、実技）言語発達の遅れの現状と現場での配慮・対応（グループ研究と発表）（グループワークとプレゼンテーション） 第15 回 （講義、演習、実技）多文化理解のための外国語表現（挨拶・オノマトペ等）（模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション） 第16 回 定期試験 ※スピーチと模擬指導については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにループリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEAM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34630			
科目	3463 保育内容・表現			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位			
担当教員	岡本 雅子、宮城嶋 遥加							
授業概要	子どもなりの表現をひきだし、豊かな感性や表現力を育てるためには、保育者自身の受容力・表現力が不可欠である。授業では指導実践、発表等を経験し、自らの表現力を養うとともに、子どもの表現の特徴に対する理解を深める。さらに、領域「表現」の位置づけや意味を踏まえ、子どもの表現をどのように捉え、どのように指導・援助すべきか、実践映像や事例検討を通して、具体的な子どもの姿や保育場面に応じた指導方法を協議する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△				
到達目標	1. 子どもの表現を受容し、表現で応答できる。 2. 領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、説明できる。 3. 子どもの表現をひきだす指導・援助を理解し、実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100	井戸和秀／編	チャイルド本社	1600	9784805481868	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、提出課題、小テストから総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験と振り返りシート	30%	ポイントを理解し実際に自分の身体で課題を達成できたか。適切に自己評価・他者評価できたか。
課題提出	30%	期日厳守。適切な内容で丁寧に記述されているか。ポイントを理解したことが動きで表現できているか。
模擬指導と振り返りシート	30%	ポイントを理解し、わかりやすく適切な内容で実践できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。
小テスト(筆記)	10%	領域「表現」に対する理解度の確認。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第1回～14回／0.5時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回～13回／0.5時間程度) 3. 実技課題の動画を作成する。(第2回～7回／1時間程度) 4. 小テスト範囲の復習をする。(第8回～第14回／0.5時間程度) 5. 模擬指導の準備、練習をする。(第6回～第12回／1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) 領域「表現」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、手遊び① 第2回(講義・演習・実技) 他者と関わる遊び、手遊び②(グループワーク) 第3回(講義・演習・実技) リズム遊び、手遊び③(グループワーク) 第4回(講義・演習・実技) 歌のある遊び、手遊び実技試験(グループワークと発表) 第5回(講義・演習・実技) モノと関わる遊び、手遊び④(グループワーク) 第6回(講義・実技) 模擬指導ガイダンス、手遊び⑤(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) 実践計画(選曲)、手遊び⑥(グループワーク) 第8回(講義・演習・実技) 実践計画(内容) 手遊び実技試験②(グループワークと発表) 第9回(演習・実技) 模擬指導(グループ1)と振り返り 第10回(演習・実技) 模擬指導(グループ2)と振り返り 第11回(演習・実技) 模擬指導(グループ3)と振り返り 第12回(演習・実技) 模擬指導(グループ4)と振り返り 第13回(講義・実技) まねっこ遊び①(身体の動き)、リズム課題実技試験 第14回(講義・実技) まねっこ遊び②(モノを介して)、領域「表現」小テスト 第15回(講義・演習) 様々な子どもの表現と子どもの身体表現 ※レポート課題については、必要に応じて Classroom でコメントすることでフィードバックを行う。また、模擬指導については、都度コメントすることでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期		授業コード	34631				
科目	3463 保育内容・表現		授業種別	週間授業				
科目責任者	岡本 雅子		単位数	1 単位				
担当教員	岡本 雅子、宮城嶋 遥加							
授業概要	子どもなりの表現をひきだし、豊かな感性や表現力を育てるためには、保育者自身の受容力・表現力が不可欠である。授業では指導実践、発表等を経験し、自らの表現力を養うとともに、子どもの表現の特徴に対する理解を深める。さらに、領域「表現」の位置づけや意味を踏まえ、子どもの表現をどのように捉え、どのように指導・援助すべきか、実践映像や事例検討を通して、具体的な子どもの姿や保育場面に応じた指導方法を協議する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△				
到達目標	1. 子どもの表現を受容し、表現で応答できる。 2. 領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、説明できる。 3. 子どもの表現をひきだす指導・援助を理解し、実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100	井戸和秀／編	チャイルド本社	1600	9784805481868	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、提出課題、小テストから総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験と振り返りシート	30%	ポイントを理解し実際に自分の身体で課題を達成できたか。適切に自己評価・他者評価できたか。
課題提出	30%	期日厳守。適切な内容で丁寧に記述されているか。ポイントを理解したことが動きで表現できているか。
模擬指導と振り返りシート	30%	ポイントを理解し、わかりやすく適切な内容で実践できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。
小テスト(筆記)	10%	領域「表現」に対する理解度の確認。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第1回～14回／0.5時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回～13回／0.5時間程度) 3. 実技課題の動画を作成する。(第2回～7回／1時間程度) 4. 小テスト範囲の復習をする。(第8回～第14回／0.5時間程度) 5. 模擬指導の準備、練習をする。(第6回～第12回／1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) 領域「表現」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、手遊び① 第2回(講義・演習・実技) 他者と関わる遊び、手遊び②(グループワーク) 第3回(講義・演習・実技) リズム遊び、手遊び③(グループワーク) 第4回(講義・演習・実技) 歌のある遊び、手遊び実技試験①(グループワークと発表) 第5回(講義・演習・実技) モノと関わる遊び、手遊び④(グループワーク) 第6回(講義・実技) 模擬指導ガイダンス、手遊び⑤(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) 実践計画(選曲)、手遊び⑥(グループワーク) 第8回(講義・演習・実技) 実践計画(内容) 手遊び実技試験②(グループワークと発表) 第9回(演習・実技) 模擬指導(グループ1)と振り返り 第10回(演習・実技) 模擬指導(グループ2)と振り返り 第11回(演習・実技) 模擬指導(グループ3)と振り返り 第12回(演習・実技) 模擬指導(グループ4)と振り返り 第13回(講義・実技) まねっこ遊び①(身体の動き)、リズム課題実技試験 第14回(講義・実技) まねっこ遊び②(モノを介して)、領域「表現」小テスト 第15回(講義・演習) 様々な子どもの表現と子どもの身体表現 ※レポート課題については、必要に応じて Classroom でコメントすることでフィードバックを行う。また、模擬指導については、都度コメントすることでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEAM1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期		授業コード	34710			
科目	3471 保育方法論		授業種別	週間授業			
科目責任者	山内 博子		単位数	2 単位			
担当教員	山内 博子						
授業概要	本授業では、保育を行う上での基本的事項、指導上の留意点を踏まえ、様々な保育方法があることを学ぶ。また、実際に教材研究や事例検討、指導案の作成を通して、保育者の仕事に対する理解、子どもの育ちを援助する保育の原点への理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	△			
到達目標	1. 保育職の意義を理解し、保育者としての使命感を高める。 2. 子どもの育ちを援助するための、多様な保育方法への理解を深める。 3. 保育に対する考えを深め、自分らしい保育をするための素地を培う。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて、資料を配布する。
------------------------------	-----------------

成績評価	授業や課題への取り組み方、課題(指導案、事例研究、ノートの作成)の達成度、筆記試験で、総合的に評価する。 なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業や課題への取り組み方	30%	学習、課題への取り組み方や提出状況。
課題(指導案・事例研究・ノートの作成)の達成度	40%	課題に対して適切な内容・記述であるかを確認する。
小テスト	30%	講義内容の理解度を確認する。

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/0.5時間程度) 3. 授業後に指示する課題について、期日までに作成すること(第2回～12回/1時間程度) 4. 定期試験に向けて、試験範囲の復讐を行うこと(第13回～15回/2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 保育の基本と保育方法 第2回(講義) 子ども理解とその方法 第3回(講義) 環境の構成と保育の展開①(環境としての保育者 事例から) 第4回(講義) 環境の構成と保育の展開②(遊びが充実する環境の構成 事例から) 第5回(講義) 遊びの指導 第6回(講義) 生活の指導 第7回(演習) 発達に応じた指導①(0歳児、1歳児の事例から)(グループワーク) 第8回(演習) 発達に応じた指導②(2歳児、3歳児の事例から)(グループワーク) 第9回(演習) 発達に応じた指導③(4歳児、5歳児の事例から)(グループワーク) 第10回(講義) 指導計画の作成の考え方 第11回(演習) 指導計画の作成と保育の事例検討(ねらい・内容) 第12回(演習) 指導計画の作成と保育の事例検討(環境構成・保育者の援助) 第13回(演習) 指導計画の作成と保育の事例検討(子ども理解と評価) 第14回(演習) 保育教材の研究 (グループワーク) 第15回(講義) まとめ(保育者に求められる専門性と家庭・地域・小学校との連携) ※プリント・課題については、授業内で返却、質問への回答をします。また、必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行います。 ※但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEAM2011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	34900
科目	3490 乳児保育Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	森下 みどり	単位数	2 単位
担当教員	森下 みどり		

授業概要	乳児は内面に育とうとする力を持って生まれるが、その成長には周囲の大人の創造的で応答的な関わりが必要である。この授業では、乳児期が人間形成の基礎を育む重要な時期であることを確認し、一人ひとりの健やかな育ちを保証するために、乳児期の発達や保育者の役割及び、乳児保育の意義、目的と役割を学ぶ。また、映像資料や事例を通して、乳児保育の内容や職員間の協働への理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○			
到達目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割等を説明できる。 2. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題を理解し、説明できる。 3. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を理解し、課題解決に向けた工夫ができる。 4. 3歳未満児の発育・発達について学び、自ら周りの環境に関わろうとする子どもへの応答的な関わりを理解し、実践できる。 5. 3歳未満児の生活と遊びにおける保育者の役割を理解し、保育計画を立案できる。 6. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や他の関係機関との連携を理解し、説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験及び小テスト、授業や課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。課題レポートは記述内容や提出状況により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する
授業や課題への取り組み方	20%	内容を理解して、グループワークや意見交換、課題に対して積極的に取り組むことが出来たかを確認する
課題レポート	20%	授業内で提示する課題に対して、適切な内容で記述されているかを確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所まで教科書を読んでおくこと。 ((第2回～15回／0.5時間程度)) 2. 毎授業後に、授業で得た学びについてレポートを作成すること。 (第1回～14回／1時間程度) 3. 赤ちゃん、子育てに関する話題や出来事について、新聞や雑誌等から情報収集すること。 (第2回～15回／0.5時間程度) 4. 定期試験に向けて、小テスト及び試験範囲の復習を行うこと。 (第14回～15回／2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 乳児保育の意義・目的と役割 (乳児保育の歴史・役割と機能) 第2回(講義) 乳児保育の意義・目的と役割 (乳児保育における養護及び教育) 第3回(講義) 乳児保育の意義・目的と役割 (子どもと保護者を取り巻く状況及び乳児保育の現状) 第4回(講義・演習) 乳児保育の実践 (保育所における乳児保育、及び保育者の役割) 〈デイリープログラム作成〉 第5回(講義) 乳児保育の実践 (乳児院・家庭的保育における乳児保育) 第6回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (環境を通して行う保育) 第7回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月未満) 第8回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月～1歳未満) 第9回(講義・演習) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月～1歳未満) 〈グループディスカッション〉 第10回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (1歳～1歳6未満) 第11回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (1歳7か月～2歳未満) 第12回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (2歳) 第13回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 第14回(講義) 乳児保育における計画・記録・評価 (作成の視点) 第15回(講義・演習) 乳児保育における連携・協働 (グループディスカッション) ※小テスト・プリント・課題については、授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある
--------------	---

ナンバリング	PECM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	34920
科目	3492 乳児保育Ⅱ (H28 入学生～)	授業種別	週間授業
科目責任者	森下 みどり	単位数	1 単位
担当教員	森下 みどり		

授業概要	「乳児保育Ⅰ」で学習したことを基礎として、乳児の生活や遊びの内容、環境構成、指導方法、保育の計画・記録・評価、そして個々の発達に合わせた受容的で応答的な関わりや養護の視点を踏まえた援助の仕方を学ぶ。また、保育ニーズの多様化に伴い、子どもの多様な人間関係と様々な生活を経験する場として、保育所が重要な役割を担っていることに対する理解を深める。さらに、家庭や地域、関係機関との連携、子育て支援、乳児を取り巻く環境の変化などの諸問題への対応、及び乳児保育における保育者が担う役割について、具体的な事例を通して検討する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○				
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達の特徴を理解し、基本的な援助や関わり方を具体的に説明できる。 2. 乳児の特性を踏まえて、乳児保育の計画を作成できる。 3. 乳児保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等の知識を修得し、説明できる。 4. 養護及び教育の一体性を踏まえ、個々の発達を促す生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、適切な対応ができる。 5. 乳児保育における配慮（健康・安全、情緒の安定、集団、環境）の実際について理解し、具体的に説明できる。 6. 乳児保育における保護者への支援や関係機関との連携について学び、保育者としての役割を自覚し、具体的に説明できる。							

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験及び小テスト、授業や課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。課題レポートは記述内容・提出状況により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する
授業や課題への取り組み方	20%	内容を理解して、グループワークや意見交換、課題に対して積極的に取り組むことが出来たかを確認する
課題レポート	20%	授業内で提示する課題に対して、適切な内容で記述されているかを確認する

受講条件	「乳児保育Ⅰ」（1年次秋学期履修）を履修済みであること。（保）必修	
事前・事後学修（内容・時間）	1. 「乳児保育Ⅰ」で学習した内容の復習。（第1回～2回／1時間程度） 2. 毎授業前に、指定箇所まで教科書を読んでおくこと。（第2回～15回／0.5時間程度） 3. 毎授業後に、授業で得た学びについてレポートを作成すること。（第1回～14回／0.5時間程度） 4. 地域における子育て支援等に積極的に出向き、自主実習をすること。（第5回～15回／1時間程度） 5. 定期試験に向けて、小テスト及び試験範囲の復習を行うこと。（第14回～15回／2時間程度）	

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス 乳児保育の重要性（養護と教育の一体性） 〈グループディスカッション〉 第2回（講義）身体機能の発達と保育（運動機能の発達） 第3回（講義）身体機能の発達と保育（手の発達と保育） 第4回（講義）身体機能の発達と保育（遊びと保育） 第5回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（食事） 第6回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（排泄・睡眠） 第7回（講義）基本的生活習慣の獲得と保育（着脱・清潔） 第8回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（健康・安全のための生活） 〈グループディスカッション・発表〉 第9回（講義・演習）対人関係の発達と保育（ことばの発達・人と関わる） 〈グループディスカッション・発表〉 第10回（講義・演習）対人関係の発達と保育（人的・物的環境と遊び）〈遊びの体験〉 第11回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】 絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い） 第12回（講義）乳児保育における計画の実際（保育所保育指針のポイント） 第13回（講義・演習）乳児保育における計画の実際（記録と自己評価） 第14回（講義）乳児の養育環境と乳児保育の課題（家庭・地域・その他の機関との連携・児童虐待問題） 第15回（講義・演習）多様化する保育ニーズと今日的課題（子育て支援・保護者対応） 〈グループディスカッション〉 ※小テスト・プリント・課題については、授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。	
--------------	---	--

ナンバリング	PECM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	34930
科目	3493 特別支援教育・保育Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	葛谷 潔昭	単位数	1 単位
担当教員	葛谷 潔昭、池田 信子		

授業概要	インクルーシブ教育・保育について、歴史的背景や理念、制度、実践についての理解を促す。発達障害や軽度知的障害を含めた障害全般について、発達や生活上の困難について理解するとともに、障害はないが母国語が日本語ではない家庭の子どもや保護者に対する支援、貧困の問題による子どもや保護者への影響と支援など、特別な支援を必要とする子どもたちへの理解と支援方法について学ぶ。個別の支援計画や個別指導計画についての作成意義と方法について学び、自立活動の内容について理解する。特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性について学ぶ。 講義以外に映像資料を用いて、障害の特徴について理解を深める。また、障害に関わるテーマを設定し、ディスカッションを進める中で、自分の中の障害児者像への気づきを促す。保育所等で障害児を含む保育を進める中で支援が必要な場面について、具体的な事例に基づき支援の方法を考える。 授業内の課題提出やスライドの掲示等を行うために classroom を使用することがあるので、スマートフォン等の端末を持参すること。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		◎				
到達目標	1. 障害の概念について理解し、特に ICF(国際機能生活分類)の視点を理解し、障害に関する自分の考えに気づき、多面的な視点から障害を捉えることができるようになる。 2. インクルーシブ教育・保育のとらえ方および実践について学び、特別支援教育の制度について説明できる。 3. 各障害に関する行動上、生活上の困難への理解と支援の方法について具体的に示すことができる。 4. 実習で学んだことを参考に障害等の理解、説明ができる。 5. 特別支援学校幼稚園部教育要領について理解し、自立活動の意義について述べることができる。 6. 母国語や貧困など様々な問題を抱えた子どもや保護者への理解と、支援の必要性を説明できる。 7. 個別の教育支援計画と個別指導(支援・援助)計画の関係を知り、作成の意義と方法を説明できる。 8. 特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性を述べることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキスト(教科書)として、『保育所保育指針(平成 29 年告示)』厚生労働省、フレーベル館、164 円(税込)、978-4577814239 も含む。 上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介をする。
------------------------------	--

成績評価	課題提出状況や課題達成状況・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
筆記試験	50%	授業の内容、知識の理解ができているか。
課題	50%	授業内容、教材等に沿った適切な内容で、指示通りの文章量となっているか。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前にテキスト内の指定された箇所、配布された資料について予習をすること(第 2 ～ 15 回／1 時間程度) 授業や掲示で配布された資料について見直し、疑問点を明らかにすること(第 1 ～ 15 回／30 分程度) テキスト、配布資料、授業内で行った課題・例題について復習すること(第 2 ～ 15 回 /30 分程度) 上記の学びを確認するための授業後課題を行うこと(第 2 ～ 15 回／1 時間程度) 第 16 回は、上記の成果つまり、学んだ知識を確認する定期試験を実施する予定。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義) オリエンテーション・障害の概念とインクルーシブ教育・保育の理解 第 2 回 (講義) 特別支援教育に関する制度と体系・特別支援学校幼稚園部教育要領の内容と自立活動の理解 第 3 回 (講義・演習) 発達障害の理解と支援(1)(自閉スペクトラム症疑似体験) 第 4 回 (講義) 重症心身障害児の理解と支援、医療的ケア児の理解と支援 第 5 回 (講義) 肢体不自由児の理解と支援(担当：葛谷潔昭) 第 6 回 (講義) てんかんの理解と対応方法、施設実習の報告を踏まえた事例検討 第 7 回 (講義) 特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携・ソーシャルワーク 第 8 回 (講義) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術③ 支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割講座用課題有) 第 9 回 (講義・演習) 知的障害の理解と支援(担当：池田信子) 第 10 回 (講義・演習) 発達障害の理解と支援(2)(担当：池田信子) 第 11 回(講義・演習) 視覚・聴覚障害の理解と支援(担当：池田信子) 第 12 回 (講義・演習) 様々な特別ニーズをもつ子ども及び保護者への支援(1)(外国ルーツや貧困など)(担当:池田信子) 第 13 回 (講義・演習) 様々な特別ニーズをもつ子ども及び保護者への支援(2)(愛着(アタッチメント) 障害、家庭支援等)(担当：池田信子) 第 14 回 (講義・演習) 総合的な知識のまとめと個別の教育支援計画および個別指導(支援・援助)計画作成の意義と方法(1) 第 15 回 (講義・演習) 総合的な知識のまとめと個別の教育支援計画および個別指導(支援・援助)計画作成の意義と方法(2) ※提出課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 ※受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※聴覚障害の理解と支援に関しては「手話入門」の受講も奨励する。
--------------	--

ナンバリング	PEBM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34940		
科目	3494 特別支援教育・保育Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	池田 信子			単位数	1 単位		
担当教員	池田 信子、葛谷 潔昭						
授業概要	特別支援教育・保育Ⅰで理解した内容を基に、療育で用いられている技法についてワークを行ったり、視聴覚教材を利用したりしながら理解を深める。保育所等での個別の支援や配慮、子ども同士の関わり合いについて、グループで事例検討しながら学ぶ。家族支援や就学に向けた援助について学ぶ。障害児保育に関わる歴史の変遷について押さえ、インクルーシブ保育の意義や共生社会の構築への理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎			
到達目標	1. 様々な障害やその他の特別な支援を必要とする乳幼児に対する専門的な療育の方法を知り、集団生活の場での集団への支援と個々にあった支援方法を工夫することができる 2. 障害児保育の歴史の変遷について理解し、インクルーシブ保育の概念について説明できる 3. 小学校との連携について、その意義と方法について説明できる。 4. 個別指導（支援・援助）計画の作成方法について知り、立案できる。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配付・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	課題提出・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート（2 回実施）	20%	授業内容が理解できているかどうか
授業への取り組み（リアクションペーパーの記載）	20%	指示された文章量と内容が適切かどうか
課題レポート	40%	授業内容が理解できているかどうか、内容が適切かどうか
口頭発表	20%	内容と発表態度を評価する

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	授業内に配布された資料について確認したり見直すこと（毎回 30 分程度） 疑問点を明らかにすること（毎回 30 分程度） テキスト、配布資料、授業内で行った課題について復習すること（毎回 30 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）ガイダンス / 特別支援教育・保育とは 第 2 回（講義・演習）障害児保育の方法と理論Ⅰ「SST」「感覚統合療法」「TEACCH」「認知行動療法」 第 3 回（講義・演習）障害児支援の方法と理論Ⅱ「音楽療法」「絵画療法」 第 4 回（講義・演習）障害児支援の方法と理論Ⅲ「運動療法」「理学療法」「言語療法」「作業療法」 第 5 回（講義・演習）家族支援「ペアレントトレーニング」 第 6 回（講義） 家族支援「きょうだい児への支援」 第 7 回（講義） 多様な子どもの理解（外国籍の子ども、貧困家庭の子どもなど） 第 8 回（演習）肢体不自由児の療育の実践（担当：葛谷潔昭） 第 9 回（演習） 保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い（1）（障害児と健常児、多様な特性を持つ子どもたち）（担当：葛谷潔昭） 第 10 回（演習）保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い（2）（AI 時代・グローバル化を見据えて）（担当：葛谷潔昭） 第 11 回（演習）総合演習（実習で見られた障害児の行動特徴と支援のまとめ）（担当：葛谷潔昭） 第 12 回（講義・演習）個別指導（支援・援助）計画の作成方法について（担当：葛谷潔昭） 第 13 回（演習）研究発表（グループワーク） 第 14 回（演習）研究発表（グループワーク） 第 15 回（講義・演習）障害児保育の歴史の変遷と現在の課題（ディスカッション） ※提出課題については返却し、個別の添削あるいは授業内で全体に対して内容のフィードバックを行う。 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	34950					
科目	3495 子育て支援	授業種別	週間授業					
科目責任者	鈴木 順子	単位数	1 単位					
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	少子化や核家族に伴い、親の子育て支援の必要性が生じている。こうした状況から保育者による子育て支援が重要な役割を担っている。この授業では、現代においてなぜ子育て支援が必要なのか。その意義について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 子育て支援の歴史、背景、政策の現状と課題を理解できる 2. 現代の子どもを取り巻く生活環境について理解することができる。 3. 地域の子育て支援の現状を調査し、課題を自らの言葉で説明できる 4. 相談支援について理解することができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業内で適宜資料を配布する。
------------------------------	----------------

成績評価	授業内で適宜、課題等の提出を求める。授業内テストを実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
まとめ等を含む課題提出	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
地域の子育て支援パワーポイントの作成及び発表	35%	課題に対する内容の記述及び適切な発表がなされているか
テスト	35%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、子育て支援関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 15 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計 15 時間程度) 3. 授業で提示された課題の作成(自己学習を含む)(合計 15 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計 6 時間程度) 5. 授業内テストに向けて、授業内容を確認する(合計 9 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス、「子育て支援」とは何か 第2回(講義) 子育て支援の必要性 第3回(講義) 家庭の機能と役割 第4回(講義) 現代の子育て家庭の状況について 第5回(講義) 現代の子どもを取り巻く生活環境について 第6回(講義) 保育所、幼稚園が行う子育て支援 第7回(講義) 地域で展開される子育て支援 第8回(演習) 地域の子育て支援の発表① 第9回(演習) 地域の子育て支援の発表② 第10回(演習) 地域の子育て支援の発表③ 第11回(演習) 地域の子育て支援の発表④ 第12回(講義) 日本の子育て支援施策 第13回(講義) 諸外国における子育て支援 第14回(講義) 相談支援 第15回(講義) まとめとテスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 課題については、授業内あるいは classroom を通して返却時にフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	PEBM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	34951			
科目	3495 子育て支援			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 順子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	少子化や核家族に伴い、親の子育て支援の必要性が生じている。こうした状況から保育者による子育て支援が重要な役割を担っている。この授業では、現代においてなぜ子育て支援が必要なのか。その意義について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 子育て支援の歴史、背景、政策の現状と課題を理解できる 2. 現代の子どもを取り巻く生活環境について理解することができる。 3. 地域の子育て支援の現状を調査し、課題を自らの言葉で説明できる 4. 相談支援について理解することができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業内で適宜資料を配布する。
------------------------------	----------------

成績評価	授業内で適宜、課題等の提出を求める。授業内テストを実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
まとめ等を含む課題提出	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
地域の子育て支援パワーポイントの作成及び発表	35%	課題に対する内容の記述及び適切な発表がなされているか
テスト	35%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、子育て支援関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計 15 時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計 15 時間程度) 3. 授業で提示された課題の作成(自己学習を含む)(合計 15 時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計 6 時間程度) 5. 授業内テストに向けて、授業内容を確認する(合計 9 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス、「子育て支援」とは何か 第2回(講義) 子育て支援の必要性 第3回(講義) 家庭の機能と役割 第4回(講義) 現代の子育て家庭の状況について 第5回(講義) 現代の子どもを取り巻く生活環境について 第6回(講義) 保育所、幼稚園が行う子育て支援 第7回(講義) 地域で展開される子育て支援 第8回(演習) 地域の子育て支援の発表① 第9回(演習) 地域の子育て支援の発表② 第10回(演習) 地域の子育て支援の発表③ 第11回(演習) 地域の子育て支援の発表④ 第12回(講義) 日本の子育て支援施策 第13回(講義) 諸外国における子育て支援 第14回(講義) 相談支援 第15回(講義) まとめとテスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 課題については、授業内あるいは classroom を通して返却時にフィードバックを行います。
--------------	---

ナンバリング	PEBM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	35110			
科目	3511 児童文化			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 克俊			単位数	2 単位			
担当教員	加藤 克俊							
授業概要	児童文化は子どもの生活の全てに関わるものであるが、この授業では子どもの生活を豊かにする遊びや行事に着目する。保育者を目指す学生が保育所や幼稚園などで取り入れられている様々な遊びや行事、協同的活動の楽しさや意味を学び、子どもに提供するための創造性や感性を磨く。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	△				
到達目標	1. グループワークを通し社会性を育みながら、協力して表現することを楽しむ。 2. 素材ごとに適した道具を使用することができる。 3. 子どもの視点に立った思考により、子どものための環境づくりができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	協同的な活動への取り組み方を 20%、個人作品の仕上がりを 60%、その他の提出物を 20%で総合的に評価する。制作物など提出物は全て提出することが前提である。	
評価項目	割合	評価基準
協働的な活動	20%	協働的な活動に積極的な参加ができているか。他者への配慮ができているか。造形活動を楽しめているか。
個人作品	60%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しみを感じさせる仕上がりが。
その他の提出物	20%	提出期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回 2 時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりの持ち寄り取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (演習) ガイダンス 発達と児童画 第 2 回 (演習) 子どもの造形実践を計画①(計画) 第 3 回 (演習) オビでつくろう、あそぼう 第 4 回 (演習) 紙トンボをつくろう、ダブルリングヒコークをつくろう 第 5 回 (演習) ブラックライトをつくろう、まっくろくろすけをつくろう 第 6 回 (演習) 子どもの造形実践を計画①(実践) 第 7 回 (演習) 子どもの造形実践を計画②(計画) 第 8 回 (演習) 紙コッコをつくろう、水笛をつくろう 第 9 回 (演習) プラ板であそぼう、アイロントローであそぼう 第 10 回 (演習) すてきなキャンドルをつくろう 第 11 回 (演習) 仮面をつくろう 第 12 回 (演習) 子どもの造形実践を計画②(実践) 第 13 回 (演習) リアルな野菜をつくろう 第 14 回 (演習) リアルな野菜をつくろう 第 15 回 (演習) 郷土玩具を調べよう ※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	35320					
科目	3532 情報教育入門	授業種別	週間授業					
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位					
担当教員	佐野 真一郎							
授業概要	本演習では教育工学の理論的解説はもちろん、実際に専門職に就いた際に行われるであろう業務内容を想定し授業を進める。コンピュータを一つの必要不可欠な道具として使えるようになること、そしてネットワークモラルを常に意識し、保育者として必要な情報発信ができることを目標としている。また、併せて情報探索方法（データベース検索の利用、学修における生成 AI 利用の注意点等）や情報整理・分析、へ言及し、適切な情報アウトプット（報告書、園だより等）ができることも目標とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 情報機器の基本的操作ができる 2. ワープロ系アプリケーションの操作に習熟する 3. 保育者として必要な情報リテラシーを説明できる 4. 情報を探索し、分析・整理を行い簡単な情報発信が行える（レポート、園便りの作成等）							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Word 2021 ドリル Office 2021 / Microsoft 365 対応	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	1100	9784867750322	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度できるかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
課題テスト	40%	課題に対して決められた時間内に、正確に行えるかで評価
課題制作	45%	園だよりを、授業で習得した技術を駆使し、適切に作成できるかで評価
小テスト	15%	情報リテラシーに関する理解の程度で評価

受講条件	（幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 基礎的な Typing 練習を行うこと（第 1 回～ 15 回：1.3 時間相当） 2. 各回の授業で行ったことは、必ず復習しておくこと（第 1 回～ 15 回：1.7 時間相当） 3. 情報関係の記事は、常に関心を持ち、必要な場合にはその記事をフォローすること（第 2 回～ 15 回：0.3 時間相当）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習） ガイダンス（メール設定・転送設定） 第 2 回（講義・演習） コンピュータの基本操作（本学のネットワーク環境について） 第 3 回（講義・演習） ネットワーク上のモラルについて（著作権を含む） 第 4 回（講義・演習） 電子メールの仕組みと利用方法、SNS 等の利用モラルについて 第 5 回（講義・演習） Web の利用（検索エンジンを利用して子ども情報を集める、様々な情報探索について、学修における生成 AI 利用の注意点、等） 第 6 回（講義・演習） ワードの基礎（2021 の基本的操作方法） 第 7 回（講義・演習） ワードの基礎（文章の入力とオブジェクトの挿入） 第 8 回（演習） ワードの応用 1（文章の整形と装飾） 第 9 回（演習） ワードの応用 2（文章に使うオブジェクトの作成） 第 10 回（演習） 園便りの作成 1（情報探索） 第 11 回（演習） 園便りの作成 2（情報の取捨選択、必要な情報は何か？情報分析について） 第 12 回（演習） 園便りの作成 3（図の挿入、オートシェイプの使い方） 第 13 回（演習） 園便りの作成 4（文書の整形等） 第 14 回（演習） 園便りの作成 5（1～4 の応用、情報のアウトプット等） 第 15 回（演習） 課題の発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）については、講義の中で適宜コメントし、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	35321					
科目	3532 情報教育入門	授業種別	週間授業					
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位					
担当教員	佐野 真一郎							
授業概要	本演習では教育工学の理論的解説はもちろん、実際に専門職に就いた際に行われるであろう業務内容を想定し授業を進める。コンピュータを一つの必要不可欠な道具として使えるようになること、そしてネットワークモラルを常に意識し、保育者として必要な情報発信ができることを目標としている。また、併せて情報探索方法（データベース検索の利用、学修における生成 AI 利用の注意点等）や情報整理・分析、へ言及し、適切な情報アウトプット（報告書、園だより等）ができることも目標とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 情報機器の基本的操作ができる 2. ワープロ系アプリケーションの操作に習熟する 3. 保育者として必要な情報リテラシーを説明できる 4. 情報を探索し、分析・整理を行い簡単な情報発信が行える（レポート、園便りの作成等）							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Word 2021 ドリル Office 2021 / Microsoft 365 対応	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	1100	9784867750322	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度できるかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
課題テスト	40%	課題に対して決められた時間内に、正確に行えるかで評価
課題制作	45%	園だよりを、授業で習得した技術を駆使し、適切に作成できるかで評価
小テスト	15%	情報リテラシーに関する理解の程度で評価

受講条件	（幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 基礎的な Typing 練習を行うこと（第 1 回～ 15 回：1.3 時間相当） 2. 各回の授業で行ったことは、必ず復習しておくこと（第 1 回～ 15 回：1.7 時間相当） 3. 情報関係の記事は、常に関心を持ち、必要な場合にはその記事をフォローすること（第 2 回～ 15 回：0.3 時間相当）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）ガイダンス（メール設定・転送設定） 第 2 回（講義・演習）コンピュータの基本操作（本学のネットワーク環境について） 第 3 回（講義・演習） ネットワーク上のモラルについて（著作権を含む） 第 4 回（講義・演習） 電子メールの仕組みと利用方法、SNS 等の利用モラルについて 第 5 回（講義・演習） Web の利用（検索エンジンを利用して子ども情報を集める、様々な情報探索について、学修における生成 AI 利用の注意点、等） 第 6 回（講義・演習） ワードの基礎（2021 の基本的操作方法） 第 7 回（講義・演習） ワードの基礎（文章の入力とオブジェクトの挿入） 第 8 回（演習） ワードの応用 1（文章の整形と装飾） 第 9 回（演習） ワードの応用 2（文章に使うオブジェクトの作成） 第 10 回（演習） 園便りの作成 1（情報探索） 第 11 回（演習） 園便りの作成 2（情報の取捨選択、必要な情報は何か？情報分析について） 第 12 回（演習） 園便りの作成 3（図の挿入、オートシェイプの使い方） 第 13 回（演習） 園便りの作成 4（文書の整形等） 第 14 回（演習） 園便りの作成 5（1～4 の応用、情報のアウトプット等） 第 15 回（演習） 課題の発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）については、講義の中で適宜コメントし、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	35440			
科目	3544 教育工学演習Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	佐野 真一郎			単位数	2 単位			
担当教員	佐野 真一郎							
授業概要	本演習では、1 年春学期に「情報教育入門」で学修（習）したことを礎石にしながら、より一層教育現場で必要とされる業務内容をパソコンで行うこと、さらに簡単な PC を利用して簡単な教材を作成すること目標とする。具体的には、ワードの応用ならびに、表計算ソフト（エクセル）の基礎から応用、パワーポイントを利用した「電子紙芝居」作りを行う。またこれらに加えて、情報発信等する際の保育者のネットリテラシーについて言及する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 表計算系アプリケーションの操作に習熟する。 2. ワープロ系ソフトの応用、表計算系ソフトの利用により、より精緻な情報発信を行える基礎力を身に付ける。（メディアの理解、公衆送信権等を含む） 3. プレゼンテーション系ソフトを用い、簡単な子ども向け教材が作れる。 4. ネットワークを利用し、必要な情報を探索、精査できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Excel 2021 ドリル Office 2021 / Microsoft 365 対応	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	1100	9784867750315	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献については、授業時に適宜指示する
------------------------------	----------------------------

成績評価	課題テスト(3 回) 80%、プレゼンテーション 10%、電子絵本等の著作権関係の理解 10%の割合で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題テスト(3 回)	80%	授業内で習得した知識・技術を短時間で正確に処理できるかで評価する
プレゼンテーション	10%	授業内で習得した技術を用い、プレゼンテーションを行う
電子絵本についての著作権関連の理解	10%	授業内で説明したメディア関連の理解度で評価する

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 基礎的な Typing 練習を行うこと(第 1 回～ 15 回: 1.3 時間相当) 2. 授業時に行った箇所は、必ず復習しておくこと(第 1 回～ 15 回: 1.7 時間相当) 3. 新しい情報機器等が現れた場合には、必ずそのニュースをフォローすること(第 1 回～ 15 回: 0.5 時間相当) 上記以外が必要な場合には、適宜指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義・演習) ガイダンス 第 2 回(演習) グラフィック機能を使い表現力アップを学ぶ(Word) 第 3 回(演習) フォームを使つての効率的な入力方法を学ぶ(Word) 第 4 回(演習) Web 対応機能に習熟する(情報発信に関しての保育者の役割を知る) 第 5 回(演習) エクセルの基礎 第 6 回(演習) エクセルの四則演算(オートフィル利用を含む) 第 7 回(演習) エクセルの関数(最大、最小等の関数を使いこなす) 第 8 回(演習) エクセルの関数(Max、Min、Sum 等の関数を使いこなす) 第 9 回(演習) エクセルの関数(Average、Rank、If 等の関数を使いこなす) 第 10 回(講義・演習) パワーポイントの基礎(各機能を知る) 第 11 回(講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)(認定講座用課題有) 第 12 回(演習)「電子紙芝居」を創る 1(ストーリー作成、ペイントの利用) 第 13 回(演習)「電子紙芝居」を創る 2(素材収集、クリエイティブコモンズを意識する) 第 14 回(演習)「電子紙芝居」を創る 3(メディアミックスを意識した作品発表)(プレゼンテーション) 第 15 回(講義・演習) まとめ(保育者として ICT 利用の留意点【ネットリテラシー】を意識する) ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題(問題演習等)については、講義の中で適宜コメントし、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	35441
科目	3544 教育工学演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位
担当教員	佐野 真一郎		
授業概要	本演習では、1 年春学期に「情報教育入門」で学修(習)したことを礎石にしながら、より一層教育現場で必要とされる業務内容をパソコンで行うこと、さらに簡単な PC を利用して簡単な教材を作成すること目標とする。具体的には、ワードの応用ならびに、表計算ソフト(エクセル)の基礎から応用、パワーポイントを利用した「電子紙芝居」作りを行う。またこれらに加えて、情報発信等する際の保育者のネットリテラシーについて言及する。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○
到達目標	1. 表計算系アプリケーションの操作に習熟する。 2. ワード系ソフトの応用、表計算系ソフトの利用により、より精緻な情報発信を行える基礎力を身に付ける。(メディアの理解、公衆送信権等を含む) 3. プレゼンテーション系ソフトを用い、簡単な子ども向け教材が作れる。 4. ネットワークを利用し、必要な情報を探索、精査できる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Excel 2021 ドリル Office 2021 / Microsoft 365 対応	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	1100	9784867750315	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書および参考文献については、授業時に適宜指示する
------------------------------	----------------------------

成績評価	課題テスト(3 回) 80%、プレゼンテーション 10%、電子絵本等の著作権関係の理解 10%の割合で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題テスト(3 回)	80%	授業内で習得した知識・技術を短時間で正確に処理できるかで評価する
プレゼンテーション	10%	授業内で習得した技術を用い、プレゼンテーションを行う
電子絵本についての著作権関連の理解	10%	授業内で説明したメディア関連の理解度で評価する

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 基礎的な Typing 練習を行うこと(第 1 回～15 回:1.3 時間相当) 2. 授業時に行った箇所は、必ず復習しておくこと(第 1 回～15 回:1.7 時間相当) 3. 新しい情報機器等が現れた場合には、必ずそのニュースをフォローすること(第 1 回～15 回:0.5 時間相当) 上記以外が必要な場合には、適宜指示する。

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(演習) グラフィック機能を使い表現力アップを学ぶ(Word) 第3回(演習) フォームを使つての効率的な入力方法を学ぶ(Word) 第4回(演習) Web 対応機能に習熟する(情報発信に関しての保育者の役割を知る) 第5回(演習) エクセルの基礎 第6回(演習) (エクセルの四則演算(オートフィル利用を含む)) 第7回(演習) エクセルの関数(最大、最小等の関数を使いこなす) 第8回(演習) エクセルの関数(Max、Min、Sum 等の関数を使いこなす) 第9回(演習) エクセルの関数(Average,Rank、If 等の関数を使いこなす) 第10回(講義・演習) パワーポイントの基礎(各機能を知る) 第11回(講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)(認定講座用課題有) 第12回(演習)「電子紙芝居」を創る1(ストーリー作成、ペイントの利用) 第13回(演習)「電子紙芝居」を創る2(素材収集、クリエイティブコモンズを意識する) 第14回(演習)「電子紙芝居」を創る3(メディアミックスを意識した作品発表)(プレゼンテーション) 第15回(講義・演習) まとめ(保育者として ICT 利用の留意点【ネットリテラシー】を意識する) ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題(問題演習等)については、講義の中で適宜コメントし、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	35450					
科目	3545 教育工学演習Ⅱ	授業種別	週間授業					
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位					
担当教員	佐野 真一郎							
授業概要	本演習では、保育者としての情報発信能力の育成を目指す。具体的には、音楽系ソフトで Midi ファイルを作成すること、プレゼン系（子ども向けストーリー作成ソフトの活用、または、ムービー系）のソフトを使い、効果的なプレゼンテーションを作成すること等を行う。また、上述の技術を活かし、子ども向けコンテンツ（絵本系教材）の作成も行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 情報機器操作の簡単な指導ができる。 2. 複数のアプリケーションを使いこなせる。 3. ネットワークを利用して適切に情報を収集・発信することができる。 4. 簡単な子ども向け電子教材が作成できる基礎力を培う。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて、授業時適宜指示する
------------------------------	------------------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
課題・制作発表（3 回）	90%	音楽、映像関係のアプリケーションを用い、作品を制作・発表し、その成果で評価する
情報発信	10%	ネットワークリテラシー全般に関する知識についての理解度で評価する

受講条件	「情報教育入門」、「教育工学演習Ⅰ」の成績が、「良」以上であること
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 各回の授業時に行ったことを必ず復習しておくこと（第 1 回～ 15 回：2 時間相当） 2. ワープロ、表計算、プレゼンテーション関係のアプリケーションを適宜復習しておくこと（第 1 回～ 15 回：0.8 時間相当） 3. 情報関係、保育関係の電子媒体の情報に常に関心を持ち、適切な方法でフォローすること（第 1 回～ 15 回：0.2 時間相当） 上記以外に必要な場合には、適宜指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）ガイダンス 第 2 回（演習）音楽系ソフトウェア Ablity の基礎（制作） 第 3 回（演習）Ability 等での楽譜の打ち込み 第 4 回（演習）Midi ファイル作成（曲選定、打ち込み） 第 5 回（演習）Midi 作成（打ち込み完了、アレンジを付ける）・Web Editor の基礎（階層構造について） 第 6 回（演習）写真の加工（サイズ変更や各種フィルタについて学ぶ） 第 7 回（演習）Movie Maker を使ったスライドショー作成 第 8 回（演習）PowerPoint を使ったスライドショーの作成 第 9 回（演習）さまざまな情報発信について 1（SNS の利用・留意点） 第 10 回（演習）さまざまな情報発信について 2（何を・どのように発信するか） 第 11 回（演習）幼児教育情報の収集（幼稚園・保育所・施設関係） 第 12 回（演習）的確な情報発信の方法（何を閲覧者に届けるのか？） 第 13 回（演習）各種情報発信 or 動画の作成（グループ毎にテーマを決める）（グループワーク） 第 14 回（演習）各種情報発信 or 動画の作成（コンテンツのレイアウトを考える）（グループワーク） 第 15 回（演習）成果発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）については、講義の中で適宜コメントし、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36220			
科目	3622 音楽I			授業種別	週間授業			
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位			
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代							
授業概要	幼児教育者・保育者としての音楽表現技術を身に付ける第一歩として、ピアノ教則本を使用しながらピアノ演奏技術の習得を目的とする。さらに読譜力についての基礎的理論も学修する。各学生のピアノ経験に違いがあるため、それぞれのレベルに沿った演奏の学びを行っていく。さらに子どもの成長に関連する歌（童謡曲）を知り、それぞれの曲に対しての歌唱法・演奏技術を身に付けるため、ピアノでの弾き歌いの学びを行う。特に春と夏の童謡曲を中心に学修し、弾き歌いが人前で表現できる実践力を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○				
到達目標	1. 保育内容の一つとして、歌唱やピアノ演奏が子どもの成長への助力となることを理解する。 2. 子どもの歌の読譜に必要な音楽基礎理論を学修し、それを歌唱・演奏に活用することができる。 3. 保育現場で使用されている童謡曲を数多く知り、歌唱法を理解する。 4. 子どもが親しむ春と夏の童謡曲について、個々の技術的レベルに応じた弾き歌いを行うことができる。 5. ピアノ曲や弾き歌いを、人前で演奏することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100	井戸和秀／編	チャイルド本社	1800 円	ISBNB:978-4-8054-8186-8	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の経験に適したものを別途用意する。(「バイエル」「ブルクミュラー 25 番の練習曲」「ソナチネアルバム 1」 から選択する。)
------------------------------	---

成績評価	課題曲への練習（予習・復習）の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、個々のレベルに合わせた曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論では、その理解度を筆記小テストで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題（ピアノ実技 2 回）テスト	40%	個人のレベルに応じた練習の成果を評価する
基礎音楽理論小テスト	10%	読譜についての理解度を評価する
定期試験（ピアノ実技）	30%	課題曲に対しての完成度を評価する
ピアノ実技の予習復習の練習量（平常点として）	20%	毎回の授業での予習復習についてを各担当教員が評価する

受講条件	（卒・幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 3. ピアノ実技小テスト 2 回と定期試験 1 回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。（各テスト前日 /1.5h 程度） 4. 基礎理論の復習を行う。（第 1 ～ 14 回 /0.25h 程度）

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイス注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3 回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回のテストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能を修得していく。また、各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本（該当する作品番号）を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した春と夏の楽曲を主に学修していく。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論を修得するためクラス全員で学修するものである。 第1回（講義・演習・実技）音楽Ⅰの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回（講義・演習・実技）理論：譜表について（記載方法や読譜） 第3回（講義・演習・実技）理論：音名（音符を読む）、春のうたを歌う「春の歌を知る、歌唱（歌唱方法について）」 第4回（講義・演習・実技）理論：音価（音符と休符）、春のうたを歌う「歌による子どもとのコミュニケーションについて」（ディスカッション・グループワーク） 第5回（講義・演習・実技）理論：リズムの種類について、春のうたを歌う「春のうたでリズム遊び」（グループワーク） 第6回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）①「振り返りシート記入」 第7回（講義・演習・実技）理論：楽語について① 第8回（講義・演習・実技）理論：楽語について② 第9回（講義・演習・実技）夏のうたを歌う「リズムと身体表現」（ディスカッション・グループワーク） 第10回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）②「振り返りシート記入」 第11回（講義・演習・実技）理論：夏のうたを歌う「夏の歌でのリズム表現」（ディスカッション・グループワーク） 第12回（講義・演習・実技）理論：リズムについて的小テスト 第13回（講義・演習・実技）理論：夏のうたを歌う「季節の情景を考える」（ディスカッション・グループワーク） 第14回（講義・演習・実技）理論：拍子の種類について 第15回（演習・実技）理論：基礎理論小テスト 定期試験（ピアノ実技）③「振り返りシート記入」 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更すること（曲目増加・減少等）もある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36221			
科目	3622 音楽I			授業種別	週間授業			
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位			
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代							
授業概要	幼児教育者・保育者としての音楽表現技術を身に付ける第一歩として、ピアノ教則本を使用しながらピアノ演奏技術の習得を目的とする。さらに読譜力についての基礎的理論も学修する。各学生のピアノ経験に違いがあるため、それぞれのレベルに沿った演奏の学びを行っていく。さらに子どもの成長に関連する歌（童謡曲）を知り、それぞれの曲に対しての歌唱法・演奏技術を身に付けるため、ピアノでの弾き歌いの学びを行う。特に春と夏の童謡曲を中心に学修し、弾き歌いが人前で表現できる実践力を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○				
到達目標	1. 保育内容の一つとして、歌唱やピアノ演奏が子どもの成長への助力となることを理解する。 2. 子どもの歌の読譜に必要な音楽基礎理論を学修し、それを歌唱・演奏に活用することができる。 3. 保育現場で使用されている童謡曲を数多く知り、歌唱法を理解する。 4. 子どもが親しむ春と夏の童謡曲について、個々の技術的レベルに応じた弾き歌いを行うことができる。 5. ピアノ曲や弾き歌いを、人前で演奏することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100	井戸和秀／編	チャイルド本社	1800 円	ISBN:978-4-8054-8186-8	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の経験に適したものを別途用意する。(「バイエル」「ブルクミュラー 25 番の練習曲」「ソナチネアルバム 1」 から選択する。)
------------------------------	---

成績評価	課題曲への練習（予習・復習）の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、個々のレベルに合わせた曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論では、その理解度を筆記小テストで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題（ピアノ実技 2 回）テスト	40%	個人のレベルに応じた練習の成果を評価する
基礎音楽理論小テスト	10%	読譜についての理解度を評価する
定期試験（ピアノ実技）	30%	課題曲に対しての完成度を評価する
ピアノ実技の予習復習の練習量（平常点として）	20%	毎回の授業での予習復習についてを各担当教員が評価する

受講条件	（卒・幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 3. ピアノ実技小テスト 2 回と定期試験 1 回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。（各テスト前日 /1.5h 程度） 4. 基礎理論の復習を行う。（第 1 ～ 14 回 /0.25h 程度）

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイスを注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3 回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回のテストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能を修得していく。また、各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本（該当する作品番号）を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した春と夏の楽曲を主に学修していく。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論を修得するためクラス全員で学修するものである。 第1回（講義・演習・実技）音楽Ⅰの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回（講義・演習・実技）理論：譜表について（記載方法や読譜） 第3回（講義・演習・実技）理論：音名（音符を読む）、春のうたを歌う「春の歌を知る、歌唱（歌唱方法について）」 第4回（講義・演習・実技）理論：音価（音符と休符）、春のうたを歌う「歌による子どもとのコミュニケーションについて」（ディスカッション・グループワーク） 第5回（講義・演習・実技）理論：リズムの種類について、春のうたを歌う「春のうたでリズム遊び」（グループワーク） 第6回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）①「振り返りシート記入」 第7回（講義・演習・実技）理論：楽語について① 第8回（講義・演習・実技）理論：楽語について② 第9回（講義・演習・実技）夏のうたを歌う「リズムと身体表現」（ディスカッション・グループワーク） 第10回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）②「振り返りシート記入」 第11回（講義・演習・実技）理論：夏のうたを歌う「夏の歌でのリズム表現」（ディスカッション・グループワーク） 第12回（講義・演習・実技）理論：リズムについて的小テスト 第13回（講義・演習・実技）理論：夏のうたを歌う「季節の情景を考える」（ディスカッション・グループワーク） 第14回（講義・演習・実技）理論：拍子の種類について 第15回（演習・実技）理論：基礎理論小テスト 定期試験（ピアノ実技）③「振り返りシート記入」 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更すること（曲目増加・減少等）もある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	36230		
科目	3623 音楽Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位		
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代						
授業概要	幼児教育者・保育者として、子どもたちの成長のための保育に関する音楽表現技術を身に付ける。「音楽Ⅰ」において学修したピアノ演奏や童謡曲の伴奏・歌唱についての技術を向上させるため、保育環境に適切なピアノ演奏や弾き歌いの学修を行っていく。弾き歌いについては、季節のうた、生活のうた、行事のうた、特にこの授業では、秋と冬の曲を多く知り、子どもの成長に関与する楽曲の特色を活かすことを学ぶ。さらに人前での演奏方法、子どもが興味を深めることのできる表現を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○			
到達目標	1. 童謡曲の弾き歌いに必要な読譜力を身に付ける。 2. 保育活動における子どもたちへの表現の一つとして、保育のピアノ演奏技術を身に付ける。 3. 子どもが親しむことができ、成長にも繋げることのできる童謡曲（秋と冬を中心に）を多く知る。 4. 子どもが興味を持てる音楽表現を探索し、それに因んだ声量、活舌、歌詞の内容に適した表現をすることができる。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100	井戸和秀 / 編	チャイルド社	1800 円	ISBN978-4-8054-8186-8	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の習熟度に適したものを別途用意する。（「バイエル」「ブルクミュラー 25 番の練習曲」「ソナチネアルバム 1」から選択する。）
------------------------------	---

成績評価	課題曲への練習（予習・復習）の成果を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論は、演奏を向上させているかなどの理解度を筆記小テストで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題（ピアノ実技小テスト2回）テスト	40%	練習が十分に成されているかを評価する
定期試験（ピアノ実技）	30%	曲への完成度を評価する
理論小テスト	10%	演奏に対する音楽理論の理解度を評価する
ピアノ実技の予習・復習	20%	日常の練習量についてを各担当教員が評価する

受講条件	（卒・幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。（第 1 ～ 14 回 /0.75h 程度） 3. ピアノ実技小テスト 2 回と定期試験 1 回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。（各テスト前日 /1.5h 程度） 4. 基礎理論の復習を行う。（第 1 ～ 14 回 /0.25h 程度）

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイスを注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3 回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回のテストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能修得を行う。全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本（該当する番号）を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した秋と冬の楽曲を主に学修していく。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論学修と子どもの音楽表現への活動についてグループワークやディスカッションをクラス全員で行うものである。 第1回（講義・実技）ガイダンス 音楽Ⅱの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回（講義・演習・実技）理論：「調性（長調・短調）について」、秋・冬のうたを歌う「秋・冬のうたの特色を知る」（ディスカッション） 第3回（講義・演習・実技）理論：「音階について」、秋のうたを歌う「生物・行事の歌」（季節の特徴を持った曲について） 第4回（講義・演習・実技）理論：「長音階の種類」、秋のうたを歌う「子どもの秋の遊びと歌との関係性について」 第5回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）①「振り返りシート記入」 第6回（講義・演習・実技）理論：「調について（C：F：G：）」、秋のうたを歌う「メロディーと歌詞の関係性についての表現方法」（ディスカッション・グループワーク） 第7回（講義・演習・実技）理論：「調について（B：D：A：）」、秋のうたを歌う「歌詞から考える製作活動を考察・実践」（ディスカッション・グループワーク） 第8回（講義・演習・実技）理論：「楽曲の移調について」、冬のうたを歌う「子どもの発達段階と音域について」 第9回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）②「振り返りシート記入」 第10 回（講義・演習・実技）理論：「移調の楽譜作成」、冬のうたを歌う「日本の行事と歌い継がれてきた伝統曲について」 第11 回（講義・演習・実技）理論：「和音について」、冬のうたを歌う「歌詞やメロディーと子どもの成長」 第12 回（講義・演習・実技）理論：「主要三和音」、冬のうたを歌う「冬の歌に子どもが興味を持つ活動を考察・実践」（ディスカッション・グループワーク） 第13 回（講義・演習・実技）理論：「コードネームと使用方法」、冬のうたを歌う「冬のうたから考える製作物」 第14 回（講義・演習・実技）理論：「コードネームの転回について」、冬のうたを歌う「冬のうたの音楽表現方法」 第15 回（演習・実技）冬のうたを歌う：「簡易楽器による冬の曲演奏」（ディスカッション・グループワーク） 定期試験（ピアノ実技） ③「振り返りシート記入」 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更する（曲目増加・減少）こともある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	36231		
科目	3623 音楽Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位		
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代						
授業概要	幼児教育者・保育者として、子どもたちの成長のための保育に関する音楽表現技術を身に付ける。「音楽Ⅰ」において学修したピアノ演奏や童謡曲の伴奏・歌唱についての技術を向上させるため、保育環境に適切なピアノ演奏や弾き歌いの学修を行っていく。弾き歌いについては、季節のうた、生活のうた、行事のうた、特にこの授業では、秋と冬の曲を多く知り、子どもの成長に関与する楽曲の特色を活かすことを学ぶ。さらに人前での演奏方法、子どもが興味を深めることのできる表現を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○			
到達目標	1. 童謡曲の弾き歌いに必要な読譜力を身に付ける。 2. 保育活動における子どもたちへの表現の一つとして、保育のピアノ演奏技術を身に付ける。 3. 子どもが親しむことができ、成長にも繋げることのできる童謡曲（秋と冬を中心に）を多く知る。 4. 子どもが興味を持てる音楽表現を探索し、それに因んだ声量、活舌、歌詞の内容に適した表現をすることができる。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100	井戸和秀 / 編	チャイルド社	1800 円	ISBN978-4-8054-8186-8	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の習熟度に適したものを別途用意する。（「バイエル」「ブルクミュラー 25 番の練習曲」「ソナチネアルバム 1」から選択する。）
------------------------------	---

成績評価	課題曲への練習（予習・復習）の成果を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論は、演奏を向上させているかなどの理解度を筆記小テストで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題（ピアノ実技小テスト2回）テスト	40%	練習が十分に成されているかを評価する
定期試験（ピアノ実技）	30%	曲への完成度を評価する
理論小テスト	10%	演奏に対する音楽理論の理解度を評価する
ピアノ実技の予習・復習	20%	日常の練習量についてを各担当教員が評価する

受講条件	（卒・幼）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。（第 1～14 回 /0.75h 程度） 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。（第 1～14 回 /0.75h 程度） 3. ピアノ実技小テスト 2 回と定期試験 1 回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。（各テスト前日 /1.5h 程度） 4. 基礎理論の復習を行う。（第 1～14 回 /0.25h 程度）

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイス注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3 回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回テストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能修得を行う。全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本（該当する番号）を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した秋と冬の楽曲を主に学修していく。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論学修と子どもの音楽表現への活動についてグループワークやディスカッションをクラス全員で行うものである。 第1回（講義・実技）ガイダンス 音楽Ⅱの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回（講義・演習・実技）理論：「調性（長調・短調）について」、秋・冬のうたを歌う「秋・冬のうたの特色を知る」（ディスカッション） 第3回（講義・演習・実技）理論：「音階について」、秋のうたを歌う「生物・行事の歌」（季節の特徴を持った曲について） 第4回（講義・演習・実技）理論：「長音階の種類」、秋のうたを歌う「子どもの秋の遊びと歌との関係性について」 第5回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）①「振り返りシート記入」 第6回（講義・演習・実技）理論：「調について（C：F：G：）」、秋のうたを歌う「メロディーと歌詞の関係性についての表現方法」（ディスカッション・グループワーク） 第7回（講義・演習・実技）理論：「調について（B：D：A：）」、秋のうたを歌う「歌詞から考える製作活動を考察・実践」（ディスカッション・グループワーク） 第8回（講義・演習・実技）理論：「楽曲の移調について」、冬のうたを歌う「子どもの発達段階と音域について」 第9回（実技）ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて（鑑賞と反省）②「振り返りシート記入」 第10回（講義・演習・実技）理論：「移調の楽譜作成」、冬のうたを歌う「日本の行事と歌い継がれてきた伝統曲について」 第11回（講義・演習・実技）理論：「和音について」、冬のうたを歌う「歌詞やメロディーと子どもの成長」 第12回（講義・演習・実技）理論：「主要三和音」、冬のうたを歌う「冬の歌に子どもが興味を持つ活動を考察・実践」（ディスカッション・グループワーク） 第13回（講義・演習・実技）理論：「コードネームと使用方法」、冬のうたを歌う「冬のうたから考える製作物」 第14回（講義・演習・実技）理論：「コードネームの転回について」、冬のうたを歌う「冬のうたの音楽表現方法」 第15回（演習・実技）冬のうたを歌う：「簡易楽器による冬の曲演奏」（ディスカッション・グループワーク） 定期試験（ピアノ実技） ③「振り返りシート記入」 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更する（曲目増加・減少）こともある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	36240
科目	3624 音楽Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	井中 あけみ	単位数	1 単位
担当教員	井中 あけみ、藤原 英		

授業概要	この科目は、学生によるオリジナル表現活動を主としていく。保育に活用できる歌唱・身体表現・リズム表現、楽器表現の活動を企画・構成し、ミュージカルコンサートで発表する。斉唱・合唱・演奏などから感性の豊かさが向上していくこと、また協働することから表現の達成感を味わうことを目指す。これらの音を根拠とした創作音楽表現活動により、子どもたちが豊かな感性を得ることのできる多様な表現活動への視野も広げていく。さらに子どもたちの「劇あそび」やその他の音楽活動実践に役立つ情報を得るため、衣装・照明・音響なども含めた総合的な表現活動を目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 子どもが興味を持てる楽曲を、子どもに伝わりやすい表現で演奏することができる。 2. 言葉・身体を伴った音楽による表現活動をオリジナルで考え実践することができる。 3. 合唱（2・3 部合唱）、合奏（楽器・リズム）の美しさ楽しさを集団で共有することから、協調性、表現の相互性を身に付けることができる。 4. BGM 等の役割を通じて、創作作品を豊かな感性で表現 することができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜参考資料を配布する。
------------------------------	--------------

成績評価	表現を向上させていくための内容への予習・復習を確認する。 集団活動としての適切な表現への考察と練習量から、各自が担当する表現への行動力について評価する。 協調性を育み全体の完成度に対しての責任感を評価する。	
評価項目	割合	評価基準
中間発表	25%	役割担当に対する表現への見解（演奏方法、歌唱方法、身体の動きなど）について評価する。
創作表現活動についての協働的活動実践	50%	協調性のある集団活動を行うための行動力を評価する。
発表への完成度	25%	本番への集中力、技術向上力、統合的活動力を評価する。

受講条件	なし。
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業時に指示した内容について、事前に練習をして参加する。（第 3 ～ 12 回／1 時間程度） 2. 総合練習で指導された箇所に注意し、その都度復習する。（第 13 ～ 14 回／1 時間程度） 3. リハーサルや本番の直前は、各自の実技や表現を確認する。（第 15 回／1 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	本授業（音楽Ⅲ）は、「総合表現」と運動してミュージカルの創作を行う科目である。楽曲の選定から身体表現、演出に至るまで、学生同士のディスカッションと実践を通して、総合的な舞台表現を構築する。さらに毎回の授業で、個人の課題としている技術練習に対し、振り返りが行える集団活動で意見を出し合い、教員もチェックを行う。 本授業は以下の教員によるチームティーチングで実施する。 井中：全体構成・音楽指導、藤原：歌唱法・発声法 第 1 回（講義）ガイダンス / 授業体制と受講の仕方についての説明 第 2 回（講義・実技）コンサート発表の表現内容について考える（ディスカッション） 第 3 回（講義・演習）ミュージカル音楽表現活動を考える（概要の決定）（グループワーク・ディスカッション） 第 4 回（講義・演習）演奏表現の種類を提案し、選択する（グループワーク・ディスカッション） 第 5 回（講義・演習）ミュージカル楽曲の選曲・企画・構成を考察（グループワーク・ディスカッション） 第 6 回（講義・演習）楽曲のパート分け「2 部合唱・演奏練習」（グループワーク・ディスカッション） 第 7 回（講義・演習）リズムと身体表現（グループワーク・ディスカッション） 第 8 回（講義・演習）歌詞から考える身体表現「2 部合唱・演奏練習」（グループワーク・ディスカッション） 第 9 回（演習・実技）言葉・身体・音楽の総合表現「2 部合唱・演奏練習」（グループワーク・ディスカッション） 第 10 回（講義・演習・実技）ストーリーや流れに沿った演奏の設定「2 部合唱・演奏練習」（グループワーク・ディスカッション） 第 11 回（講義・演習・実技）演奏時のフォーメーションについて（舞台の動線など）（グループワーク・ディスカッション） 第 12 回（講義・演習・実技）総合練習「歩行・姿勢・弛緩と緊張など人前での行動確認」（ディスカッション） 第 13 回（講義・演習・実技）総合練習（リハーサル）「舞台マナーについて」 第 14 回（演習・実技）総合練習（リハーサル）「照明・音響の効果について」 第 15 回 コンサート・反省（ディスカッション） ※ただし、学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	36250
科目	3625 音楽Ⅳ	授業種別	週間授業
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位
担当教員	朝元 尊		
授業概要	子どもの意欲的な表現活動を引き出すためには、子どもと関わる保育者自身の表現力が大切である。この授業では、「表現学」の授業を受講した学生を主体とし、日本の伝統楽器である和太鼓について保育現場でさらに活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、和太鼓の表現方法の理解を深めながら他者とリズムでつながることの音楽的な意義を学ぶ。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. 日本の和太鼓文化、表現技能を理解し、協働して実践することができる。 2. 日本の伝統文化と保育の繋がりを理解し、活用できる。 3. 保育者としての自覚と、自らの課題に保育の表現技術として実践できる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜プリントを用意する。 必要に応じて参考文献を紹介する。
------------------------------	----------------------------------

成績評価	授業の達成目標をどの程度達成できているかを、課題・発表などで総合的に評価する。また、劣悪な授業態度は減点対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	50%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。
実技課題の達成度、レポート課題	20%	課題に対する達成度を評価する。
発表	30%	授業内容を応用・実践し、技能の習得を発表で確認する。

受講条件	1 年生春学期に実施した「表現学」の授業を受講した学生を対象
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業までに、前授業の復習・確認を行うこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～14回/1時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習の内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス・太鼓の準備・設営についての説明 第2回 (実技) 太鼓の基礎①(所作・構え方・体の使い方・打ち方) 第3回 (実技) 太鼓の基礎②(音の強弱・リズムのテンポ) 第4回 (実技) 曲作りについて(テーマ・リズムアンサンブル・フォーメーション) 第5回 (実技) 曲作り①(前奏・メインリズム) 第6回 (実技) 曲作り②(コール&レスポンス・ソロパート) 第7回 (実技) 曲作り③(パート練習・全体練習) 第8回 (実技) 中間発表(振り返り・課題) 第9回 (実技) 太鼓演奏と表現①(低音、中音、高音のアンサンブル) 第10回 (実技) 太鼓演奏と表現②(音の強弱) 第11回 (実技) 太鼓演奏と表現③(テンポの変化・間) 第12回 (実技) 太鼓演奏と表現④(表情・掛け声) 第13回 (実技) 太鼓演奏と表現⑤(自身の表現力・集団の表現力を高める) 第14回 (実技) 小発表会(リハーサル)と振り返り 第15回 (実技) 発表会・まとめ ※ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※ 各回の最初に前回の内容に関する実技を行い、自己課題に対する反復練習及び解説を行う。 ※ 授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36320			
科目	3632 基礎造形			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位			
担当教員	加藤 克俊							
授業概要	子どもの造形を支援するものとして、造形活動の楽しみを体験する。また、協同的な活動に取り組むことで必要となる様々な気配りや主張、行動力などを身につける。この授業では、保育者自身が獲得しておくべき内容と子どもたちに伝えるべき内容・指導方法の両面について学ぶことを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	○				
到達目標	1. ものの美しさに対する豊かな感性を持つことができ、表現することができる。 2. 協同的な活動から、保育者としての配慮を意識することができ、説明できる。 3. 子どもに伝えるべき技術を身につけ、自身の制作にも活かすことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	協同制作での取り組み方を 30%、個人作品の仕上がりを 70%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。	
評価項目	割合	評価基準
協同制作	30%	協同的な活動に積極的な参加や他者への配慮ができているか。造形活動を楽しめているか。計画性があるか。
個人作品	70%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しみを感じさせる仕上がりが。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回 2 時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (演習) ガイダンス 「2 年後の私へ」 第2回 (演習) こいのぼりをつくろう(計画) 第3回 (演習) こいのぼりをつくろう(制作・協同制作による学び) 第4回 (演習) こいのぼりをつくろう(制作・完成) 第5回 (演習) 景色に溶け込めカメレオン! 第6回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(下絵を練る) 第7回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(制作・切り絵とラミネート) 第8回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(制作・色塗りをして完成) 第9回 (演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作) 第10回 (演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作と発表) 第11回 (演習) パクパクパペットをつくろう(紙工作) 第12回 (演習) パクパクパペットをつくろう(紙工作) 第13回 (演習) クラフトテクニックテスト クジラを描こう!(計画) 第14回 (演習) クジラを描こう!(制作) 第15回 (演習) クジラを描こう!(完成) ※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36321		
科目	3632 基礎造形			授業種別	週間授業		
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位		
担当教員	加藤 克俊						
授業概要	子どもの造形を支援するものとして、造形活動の楽しさを体験する。また、協同的な活動に取り組むことで必要となる様々な気配りや主張、行動力などを身につける。この授業では、保育者自身が獲得しておくべき内容と子どもたちに伝えるべき内容・指導方法の両面について学ぶことを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	○			
到達目標	1. ものの美しさに対する豊かな感性を持つことができ、表現することができる。 2. 協同的な活動から、保育者としての配慮を意識することができ、説明できる。 3. 子どもに伝えるべき技術を身につけ、自身の制作にも活かすことができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	協同制作での取り組み方を 30%、個人作品の仕上がりを 70%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。	
評価項目	割合	評価基準
協同制作	30%	協同的な活動に積極的な参加や他者への配慮ができていないか。造形活動を楽しめているか。計画性があるか。
個人作品	70%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しさを感じさせる仕上がりがいいか。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (演習) ガイダンス 「2年後の私へ」 第2回 (演習) こいのぼりをつくろう(計画) 第3回 (演習) こいのぼりをつくろう(制作・協同制作による学び) 第4回 (演習) こいのぼりをつくろう(制作・完成) 第5回 (演習) 景色に溶け込めカメレオン! 第6回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(下絵を練る) 第7回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(制作・切り絵とラミネート) 第8回 (演習) 季節の装飾ステンドアート(制作・色塗りをして完成) 第9回 (演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作) 第10回 (演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作と発表) 第11回 (演習) パクパクパペットをつくろう(紙工作) 第12回 (演習) パクパクパペットをつくろう(紙工作) 第13回 (演習) クラフトテクニックテスト クジラを描こう!(計画) 第14回 (演習) クジラを描こう!(制作) 第15回 (演習) クジラを描こう!(完成)
	※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。

ナンバリング	PEDM1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	36330
科目	3633 幼児と健康I	授業種別	週間授業
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位
担当教員	朝元 尊		
授業概要	子どもにとって、身体を使って他者と遊ぶことは心身の発達を促し、人間関係や社会性を豊かにするために不可欠である。また、身のこなしよく動くための調整力を育むことは、将来にわたって安全な生活を送る上でも重要である。このことを踏まえ、自らの体育的な基礎技能を養うとともに、子どもの運動発達に対する理解を深める。さらに実践を通して、保育者の視点から、指導上の留意点を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○
到達目標	子どもにとって身体を十分に動かす遊びは心身の健康にとって重要である。特に、子どもの成長を促す保育者としての意欲・責任感・使命感を持ち、体育的な基礎技能や専門的な知識を習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 体育的基礎技能を習得する。 2. 運動あそびの楽しさと重要性、指導上の留意点を理解し実践できる。 3. 子どもの運動発達と現代的課題を理解し説明できる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育と幼児期の運動あそび	岩崎洋子	萌文書林	2,000 円	978 - 4 - 89347 - 130 - 7	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	40%	授業後のレポート課題について適切な内容になっているかを評価する。
課題の達成度	20%	課題に対する達成度を確認する。
実技試験	40%	授業内容の理解度及び技能の習得度を実技試験で確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習して授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義・実技) ガイダンス 第2回 (実技) 身体を使ったあそび 第3回 (実技) 集団遊び①(手つなぎ鬼・色鬼・高鬼) 第4回 (実技) 集団遊び②(ネズミとネコ・ドロケイ・たつのしっぽ取り) 第5回 (実技) 集団遊び③(だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時) 第6回 (実技) リズム遊び①(あんたがったどこさ・かごめかごめ・はないちもんめ) 第7回 (実技) リズム遊び②(バンブー・ジェンカ) 第8回 (実技) ボールで遊ぶ①(ころがしドッチ・はさみドッチ) 第9回 (実技) ボールで遊ぶ②(ドッチボール) 第10回 (実技) ボールで遊ぶ③(王様ドッチボール) 第11回 (実技) 縄跳び①(短縄・縄跳びカード) 第12回 (実技) 縄跳び②(大縄・縄跳びカード) 第13回 (実技) 縄跳び③(歌遊びと縄跳び・縄跳びカード) 第14回 (実技) クラスマッチ(学年合同) 第15回 (講義・実技) まとめ(援助の仕方を考える) ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 ※各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	36331					
科目	3633 幼児と健康 I	授業種別	週間授業					
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位					
担当教員	朝元 尊							
授業概要	子どもにとって、身体を使って他者と遊ぶことは心身の発達を促し、人間関係や社会性を豊かにするために不可欠である。また、身のこなしよく動くための調整力を育むことは、将来にわたって安全な生活を送る上でも重要である。このことを踏まえ、自らの体育的な基礎技能を養うとともに、子どもの運動発達に対する理解を深める。さらに実践を通して、保育者の視点から、指導上の留意点を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	子どもにとって身体を十分に動かす遊びは心身の健康にとって重要である。特に、子どもの成長を促す保育者としての意欲・責任感・使命感を持ち、体育的な基礎技能や専門的な知識を習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 体育的基礎技能を習得する。 2. 運動あそびの楽しさと重要性、指導上の留意点を理解し実践できる。 3. 子どもの運動発達と現代的課題を理解し説明できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育と幼児期の運動あそび	岩崎洋子	萌文書林	2,000 円	978 - 4 - 89347 - 130 - 7	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	40%	授業後のレポート課題について適切な内容になっているかを評価する。
課題の達成度	20%	課題に対する達成度を確認する。
実技試験	40%	授業内容の理解度及び技能の習得度を実技試験で確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習して授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義・実技) ガイダンス 第2回 (実技) 身体を使ったあそび 第3回 (実技) 集団遊び①(手つなぎ鬼・色鬼・高鬼) 第4回 (実技) 集団遊び②(ネズミとネコ・ドロケイ・たつのしっぽ取り) 第5回 (実技) 集団遊び③(だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時) 第6回 (実技) リズム遊び①(あんたがったどこさ・かごめかごめ・はないちもんめ) 第7回 (実技) リズム遊び②(バンブー・ジェンカ) 第8回 (実技) ボールで遊ぶ①(ころがしドッチ・はさみドッチ) 第9回 (実技) ボールで遊ぶ②(ドッチボール) 第10回 (実技) ボールで遊ぶ③(王様ドッチボール) 第11回 (実技) 縄跳び①(短縄・縄跳びカード) 第12回 (実技) 縄跳び②(大縄・縄跳びカード) 第13回 (実技) 縄跳び③(歌遊びと縄跳び・縄跳びカード) 第14回 (実技) クラスマッチ(学年合同) 第15回 (講義・実技) まとめ(援助の仕方を考える) ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 ※各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	36340				
科目	3634 幼児と健康Ⅱ	授業種別	週間授業				
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位				
担当教員	朝元 尊						
授業概要	保育者として、子どもの年齢に応じた関わりや遊びを実践することは大切である。保育者にとって必要な基礎技能の習得に努めながら、運動あそびの指導計画、模擬指導を行う。更に、実践に対する反省と評価を行ない、実践力の向上を目指す。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	1. 子どもにとっての運動あそびの意義を理解し説明できる。 2. 運動あそびの立案・実践・反省と評価ができる。 3. 子どもの安全を考慮した指導・援助を理解し実践できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育と幼児期の運動あそび	岩崎洋子	萌文書林	2,000 円	978-89347-274-8	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実技試験・模擬授業の立案・実践は必須とする。授業の到達目標にどの程度到達しているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	40%	授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。
実技課題の達成度、指導計画立案と活動の展開の仕方、レポート課題	40%	指導計画・実践・反省と評価など、課題に対する達成度を確認する。
実技試験	20%	課題の反復練習に対する達成度を確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2~15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1~15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習をして授業に参加すること(第2~15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義・実技) ガイダンス 第2回 (実技) 身近なものを使った遊び(ペットボトル) 第3回 (実技) 身近なものを使った遊び(段ボール) 第4回 (実技) 偶然性の強いゲーム 第5回 (実技) 平均化できるゲーム 第6回 (演習) 幼児体育の指導案について 第7回 (演習) 体育環境の構成・安全を考える 第8回 (実技) 役割分担できるゲーム 第9回 (実技) ハンディキャップのあるゲーム 第10回 (実技) 鬼遊びの指導実践 第11回 (実技) ボール遊びの指導実践 第12回 (実技) 伝承遊びの指導実践 第13回 (実技) 身近なものを使った遊びの指導実践 第14回 (実技) 体育的行事の企画・運営 第15回 (講義・実技) まとめ(レポートの作成、提出) ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ＊授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 ＊各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	36341					
科目	3634 幼児と健康Ⅱ	授業種別	週間授業					
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位					
担当教員	朝元 尊							
授業概要	保育者として、子どもの年齢に応じた関わりや遊びを実践することは大切である。保育者にとって必要な基礎技能の習得に努めながら、運動あそびの指導計画、模擬指導を行う。更に、実践に対する反省と評価を行ない、実践力の向上を目指す。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	1. 子どもにとっての運動あそびの意義を理解し説明できる。 2. 運動あそびの立案・実践・反省と評価ができる。 3. 子どもの安全を考慮した指導・援助を理解し実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育と幼児期の運動あそび	岩崎洋子	萌文書林	2,000 円	978-89347-274-8	
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実技試験・模擬授業の立案・実践は必須とする。授業の到達目標にどの程度到達しているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	40%	授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。
実技課題の達成度、指導計画立案と活動の展開の仕方、レポート課題	40%	指導計画・実践・反省と評価など、課題に対する達成度を確認する。
実技試験	20%	課題の反復練習に対する達成度を確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2~15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1~15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習をして授業に参加すること(第2~15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義・実技) ガイダンス 第2回 (実技) 身近なものを使った遊び(ペットボトル) 第3回 (実技) 身近なものを使った遊び(段ボール) 第4回 (実技) 偶然性の強いゲーム 第5回 (実技) 平均化できるゲーム 第6回 (演習) 幼児体育の指導案について 第7回 (演習) 体育環境の構成・安全を考える 第8回 (実技) 役割分担できるゲーム 第9回 (実技) ハンディキャップのあるゲーム 第10回 (実技) 鬼遊びの指導実践 第11回 (実技) ボール遊びの指導実践 第12回 (実技) 伝承遊びの指導実践 第13回 (実技) 身近なものを使った遊びの指導実践 第14回 (実技) 体育的行事の企画・運営 第15回 (講義・実技) まとめ(レポートの作成、提出) ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 ※各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36350		
科目	3635 幼児と表現Ⅰ			授業種別	週間授業		
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位		
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代						
授業概要	この科目は、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領の中の領域「表現」を根拠とし、子どもの発達段階に応じた音楽の活用方法、音環境を通した子どもの表現など、様々な音楽表現活動を身に付ける。また、子どもの主体性を育むことに役立つ音楽活動について、自発的表現や創作表現などの保育活動への意識を深めていく。それらは「わらべうた遊び」「リズム遊び」「音楽と身体による動き」「擬音語、擬態語の音表現」「身近な素材を用いた創作楽器」「簡易楽器合奏」など、子どもが興味を持って表現できる活動を探索していくことに務める。また自らが身近な環境にある音の存在に気づき、音楽を活用した保育への関心を高める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子どもの年齢発達段階に応じた、音楽表現活動を探索することができる。 2. 擬音語、擬態語の遊びうたなど、音環境に応じた子どもの表現遊びを実践することができる。 3. 自然や日常生活の中にある音を感じ取り、身近な素材で創作楽器を製作することができる。 4. 簡易楽器などの演奏法を知り、子どもが興味を持てる音表現をすることができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
こどものうた200 続	小林美実／編	チャイルド本社	1800	9784805400029	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の習熟度に適したものを別途用意する。(「バイエル」「ブルクミュラー 25 番の練習曲」「ソナチネアルバム 1」から選択する。)
------------------------------	---

成績評価	授業時の課題曲への練習(予習・復習)による技術(完成への段階)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や表現力を評価する。また、グループでの表現活動の実践やその内容を評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題(ピアノ実技小テスト2回)	40%	個人の实技段階に応じた演奏の評価をする。
定期試験(ピアノ実技)	30%	保育現場での音楽表現の演奏に適しているかを評価する。
子どもの音楽あそび活動実技	10%	子どもの発達段階に応じた音楽活動への取り組み方を評価する。
ピアノ実技の予習・復習の練習量(平常点)	20%	日常における練習量や曲の完成度を評価する(各担当教員によるもの)。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/1時間程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習する。(第1～14回/1時間程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期試験1回の試験曲を完成させるための練習をする。(各テスト前1.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイス注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回のテストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンで保育表現技能修得に努め、全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 「弾き歌い曲」については、課題曲として季節ごとに指定した楽曲を学修していく。(個人のレベルによって楽曲が弾き歌いできるよう、難易度で選曲する場合もある。) <保育の音楽表現法> 以下はクラス全員で学修する。 第1回:(講義・実技)ガイダンス、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所 保育指針の領域「表現」について、音楽を使用することの内容を理解する 第2回:(講義・実技)年齢ごとの音楽を通した成長を知る 第3回:(講義・実技)乳児の音楽との関わりについて(生まれてからの環境音について) 第4回:(講義・演習・実技)乳児の音遊び(グループワーク) 第5回:(講義・演習・実技)幼児の歌遊び(発達段階を踏まえた活動)(グループワーク) 第6回:(実技):ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第7回:(講義・演習・実技)簡易楽器演奏「子どもが簡易楽器を使用する成長について」 第8回:(講義・演習・実技)身近な素材を用いた楽器の製作(グループワーク、ディスカッション) 第9回:(講義・演習・実技)「自然の音」と簡易楽器との関連について 第10回:(講義・演習・実技)鍵盤楽器(木琴・鉄琴・グロッケン等)の構造と演奏法(グループワーク、ディスカッション) 第11回:(実技):ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第12回:(講義・演習・実技)「ハンドベル」演奏方法と合奏(グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション) 第13回:(講義・演習・実技)童謡曲から考える楽器の選択と演奏の取り組み方(グループワーク、ディスカッション) 第14回:(講義・演習・実技)絵本を用いた音表現「効果音の取り入れ方を考える」(グループワーク、ディスカッション) 第15回:(講義・演習・実技)劇遊びの効果音について(グループワーク、ディスカッション) 定期試験(ピアノ実技)③「振り返りシート記入」 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36351			
科目	3635 幼児と表現Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	井中 あけみ			単位数	1 単位			
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏、藤原 英、森下 紗恵、高柳 賀代							
授業概要	この科目は、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領の中の領域「表現」を根拠とし、子どもの発達段階に応じた音楽の活用方法、音環境を通じた子どもの表現など、様々な音楽表現活動を身に付ける。また、子どもの主体性を育むことに役立つ音楽活動について、自発的表現や創作表現などの保育活動への意識を深めていく。それらは「わらべうた遊び」「リズム遊び」「音楽と身体による動き」「擬音語、擬態語の音表現」「身近な素材を用いた創作楽器」「簡易楽器合奏」など、子どもが興味を持って表現できる活動を探索していくことに務める。また自らが身近な環境にある音の存在に気づき、音楽を活用した保育への関心を高める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 子どもの年齢発達段階に応じた、音楽表現活動を探索することができる。 2. 擬音語、擬態語の遊びうたなど、音環境に応じた子どもの表現遊びを実践することができる。 3. 自然や日常生活の中にある音を感じ取り、身近な素材で創作楽器を製作することができる。 4. 簡易楽器などの演奏法を知り、子どもが興味を持てる音表現をすることができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
こどものうた200 続	小林美実／編	チャイルド本社	1800	9784805400029	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜資料を配布する。ピアノ教則本は、各自の習熟度に適したものを別途用意する。([バイエル]「ブルクミュラー 25 番の練習曲」[ソナチネアルバム 1] から選択する。)
------------------------------	--

成績評価	授業時の課題曲への練習(予習・復習)による技術(完成への段階)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や表現力を評価する。また、グループでの表現活動の実践やその内容を評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題(ピアノ実技小テスト2回)	40%	個人の実技段階に応じた演奏の評価をする。
定期試験(ピアノ実技)	30%	保育現場での音楽表現の演奏に適しているかを評価する。
子どもの音楽あそび活動実技	10%	子どもの発達段階に応じた音楽活動への取り組み方を評価する。
ピアノ実技の予習・復習の練習量(平常点)	20%	日常における練習量や曲の完成度を評価する(各担当教員によるもの)。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14 回 /1 時間程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習する。(第1～14 回 /1 時間程度) 3. ピアノ実技小テスト2 回と定期試験 1 回の試験曲を完成させるための練習をする。(各テスト前 1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏するため練習を行う。また、各授業時に担当教員より受けたアドバイス注意点を、各自が「授業記録表」に記述する。 3 回のピアノテスト時毎には、「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次回のテストへの目標についての面談を行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンで保育表現技能修得に努め、全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 「弾き歌い曲」については、課題曲として季節ごとに指定した楽曲を学修していく。(個人のレベルによって楽曲が弾き歌いできるよう、難易度で選曲する場合もある。) <保育の音楽表現法> 以下はクラス全員で学修する。 第1回:(講義・実技)ガイダンス、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所 保育指針の領域「表現」について、音楽を使用することの内容を理解する 第2回:(講義・実技)年齢ごとの音楽を通じた成長を知る 第3回:(講義・実技)乳児の音楽との関わりについて(生まれてからの環境音について) 第4回:(講義・演習・実技)乳児の音遊び(グループワーク) 第5回:(講義・演習・実技)幼児の歌遊び(発達段階を踏まえた活動)(グループワーク) 第6回:(実技):ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第7回:(講義・演習・実技)簡易楽器演奏「子どもが簡易楽器を使用する成長について」 第8回:(講義・演習・実技)身近な素材を用いた楽器の製作(グループワーク、ディスカッション) 第9回:(講義・演習・実技)「自然の音」と簡易楽器との関連について 第10 回:(講義・演習・実技)鍵盤楽器(木琴・鉄琴・グロッケン等)の構造と演奏法(グループワーク、ディスカッション) 第11 回:(実技):ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第12 回:(講義・演習・実技)「ハンドベル」演奏方法と合奏(グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション) 第13 回:(講義・演習・実技)童謡曲から考える楽器の選択と演奏の取り組み方(グループワーク、ディスカッション) 第14 回:(講義・演習・実技)絵本を用いた音表現「効果音の取り入れ方を考える」(グループワーク、ディスカッション) 第15 回:(講義・演習・実技)劇遊びの効果音について(グループワーク、ディスカッション) 定期試験(ピアノ実技) ③「振り返りシート記入」 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36360		
科目	3636 幼児と表現Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子、宮城嶋 遥加						
授業概要	子どもの表現は、主活動の場面のみならず、広く生活全般に息づくものであるとの視点から、子どもがどのような保育者に出会うかが如何に重要であるかを、事例や映像資料を基に理解を深める。また、人・モノ・音楽・絵本などとの様々な関わり方を通して、自ら感じ、考え、工夫することで、保育者としての受容力、表現力を養う。さらに、保育展開に必要な実践力を習得するために、模擬指導を通して、教材の活用、保育環境の構成について学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子どもの表現を理解、受容し、表現で応答できる。 2. 他者と身体に関わることの重要性を理解し、説明、実践できる。 3. 領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、実践できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
からだからはじまる保育のアートー創造と表	西 洋子 他 編著	市村出版	2000	9784902109481	1年次に購入済。

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、レポート等で総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	20%	ポイントを理解し、努力ができたか。実際に自分の体で課題を達成できたか。
テキストレポート	25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。
模擬指導と振り返りシート	30%	内容の理解、教材、指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。
課題レポート	25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。

受講条件	(幼・保) 必修 免許・資格取得希望者で「保育内容・表現」の受講経験があること。
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第2回～9回／1時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回～14回／0.5時間程度) 3. レポート作成に取り組む(第7回～13回／1時間程度) 4. 模擬指導の準備・計画、振り返りをする。(第8回～15回／1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) リズムと表現(フォークダンス)(グループワーク) 第2回(講義・実技) リズムと表現(わらべうた遊び)(グループワーク) 第3回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(新聞)(グループワーク) 第4回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(布)(グループワーク) 第5回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(段ボール)(グループワーク) 第6回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(ペットボトル)(グループワーク) 第7回(講義・演習) 子どもの身体表現(実践映像と事例検討) 第8回(講義・演習) イメージと身体表現(絵本)(グループワーク) 第9回(講義・演習) イメージと身体表現(音楽)(グループワーク) 第10回(演習) 模擬指導(からだを意識した遊び) 第11回(演習) 模擬指導(いろいろな動きの組み合わせ) 第12回(演習) 模擬指導(身近なモノを使った遊び) 第13回(演習) 模擬指導(音をテーマとした遊び) 第14回(演習) 模擬指導(イメージの広がりがある遊び) 第15回(講義・演習) まとめ(振り返りと自己課題の確認) ※ Classroom に提出された課題は、Classroom でコメントすることでフィードバックする。模擬指導については、都度コメントをすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36361		
科目	3636 幼児と表現Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子、宮城嶋 遥加						
授業概要	子どもの表現は、主活動の場面のみならず、広く生活全般に息づくものであるとの視点から、子どもがどのような保育者に出会うかが如何に重要であるかを、事例や映像資料を基に理解を深める。また、人・モノ・音楽・絵本などとの様々な関わり方を通して、自ら感じ、考え、工夫することで、保育者としての受容力、表現力を養う。さらに、保育展開に必要な実践力を習得するために、模擬指導を通して、教材の活用、保育環境の構成について学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子どもの表現を理解、受容し、表現で応答できる。 2. 他者と身体に関わることの重要性を理解し、説明、実践できる。 3. 領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、実践できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
からだからはじまる保育のアートー創造と表	西 洋子 他 編著	市村出版	2000	9784902109481	1年次に購入済。

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、レポート等で総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	20%	ポイントを理解し、努力ができたか。実際に自分の体で課題を達成できたか。
テキストレポート	25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。
模擬指導と振り返りシート	30%	内容の理解、教材、指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。
課題レポート	25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。

受講条件	(幼・保) 必修 免許・資格取得希望者で「保育内容・表現」の受講経験があること。
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第2回～9回／1時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回～14回／0.5時間程度) 3. レポート作成に取り組む(第7回～13回／1時間程度) 4. 模擬指導の準備・計画、振り返りをする。(第8回～15回／1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) リズムと表現(フォークダンス)(グループワーク) 第2回(講義・実技) リズムと表現(わらべうた遊び)(グループワーク) 第3回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(新聞)(グループワーク) 第4回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(布)(グループワーク) 第5回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(段ボール)(グループワーク) 第6回(講義・演習) 身近なモノを使った表現(ペットボトル)(グループワーク) 第7回(講義・演習) 子どもの身体表現(実践映像と事例検討) 第8回(講義・演習) イメージと身体表現(絵本)(グループワーク) 第9回(講義・演習) イメージと身体表現(音楽)(グループワーク) 第10回(演習) 模擬指導(からだを意識した遊び) 第11回(演習) 模擬指導(いろいろな動きの組み合わせ) 第12回(演習) 模擬指導(身近なモノを使った遊び) 第13回(演習) 模擬指導(音をテーマとした遊び) 第14回(演習) 模擬指導(イメージの広がりがある遊び) 第15回(講義・演習) まとめ(振り返りと自己課題の確認) ※ Classroom に提出された課題は、Classroom でコメントすることでフィードバックする。模擬指導については、都度コメントをすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36370			
科目	3637 幼児と言葉			授業種別	週間授業			
科目責任者	青嶋 由美子			単位数	1 単位			
担当教員	青嶋 由美子							
授業概要	この科目は子どもの発達に応じた言語表現技術の習得を目的とする。保育者として、子どもの言葉の発達を多様な方面から支えるためには、言葉を用いた表現力が欠かせない。様々な児童文化財を効果的に用いながら、子どもの言語能力を刺激し発達させる関わり方を体得し、また、自らの言語を用いた発信力を充実させていくことが、本講の主眼となっている。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知ること、その発達過程に応じた児童文化財を選択出来ること、子どもの環境に応じた言葉掛けが出来ることは、保育者に欠かせない技能である。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの年齢に応じた言葉の発達過程を学び応用出来る。 2. 子どもの発達に応じた児童文化財（絵本・ストーリーテリングなど）を選択出来、読み聞かせたり語ったりすることが出来る。 3. 子どもが自ら児童文化財に接することが出来るような環境構成を考えられる。 4. 子どもの様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びが展開出来る。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『保育・教育ネオシリーズ [20] 保育内容・言葉 第三版 』（1 年次に使用したもの）	太田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久・白澤早苗・片山順子・齋藤二三子・岸美桜・中山美知子 著	同文書院	2,310 円	ISBN978-4-8103-1471-7	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たかを 10%、発表担当の際の出来具合を 40%、定期試験で測る理解度を 50%として総合評価とする。	
評価項目	割合	評価基準
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価できたか	10%	評価表の配点により理解度を確認する。
発表担当の際の出来具合	40%	題材の選択状況・発表の際の発声・対象年齢の設定・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	「保育内容・言葉」を履修済であること。（幼・保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	担当日時を決めスピーチと部分指導案の実施（児童文化財のを含む）を行うため、十分な時間をかけて準備をして欲しい。 1. スピーチ及び部分指導案実施（資料等の制作を含む）の準備（4 時間程度） 2. 児童文化財の実演の準備（4 時間程度） 3. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 15 回 /0.7 時間程度） 4. クラスメートが選択した児童文化財についてまとめておくこと（第 2 回～ 15 回 /0.5 時間程度） 5. 必要に応じて Classroom 上に確認テストの問題を事前にアップするので、解答を準備しておく（1 回 0.5 時間程度 × 6回） 6. 第 15 回のグループワークに向けて、実習での言葉がけの体験を振り返りまとめておく（2 時間） 7. 第 16 回定期試験のために、授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと（6 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回 （講義）ガイダンス 第2回 （講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（0ヶ月～6ヶ月頃） 第3回 （講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（6ヶ月頃～12ヶ月頃） 第4回 （講義、実技）1歳児の言葉の発達と保育教材 4月にふさわしいスピーチと部分指導案の実施（児童文化財の使用）（プレゼンテーション・グループワーク） 第5回 （講義、実技）2歳児の言葉の発達と保育教材 5月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第6回 （講義、実技）3歳児の言葉の発達と保育教材 6月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第7回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論③ （子供の知的・社会的発達と絵本との関わり） 第8回 （講義、実技）4歳児の言葉の発達と保育教材 7・8月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第9回 （講義、実技）5歳児の言葉の発達と保育教材 9月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第10回 （講義、実技）就学前期の言葉の発達と保育教材 10月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第11回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本） 第12回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び①（しりとりの遊びが出来るまで） 11月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第13回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び②（言葉を分類する遊び） 12月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第14回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び③（言葉遊びの伝え方） 1月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第15回 （講義、実技）保育活動の際の言葉掛け（グループワーク・プレゼンテーション） 2・3月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第16回 定期試験 第4～6・8～10・12 ～ 15 回については、スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）を行う。 ※スピーチと児童文化財の実演については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにルーブリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM2020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36371			
科目	3637 幼児と言葉			授業種別	週間授業			
科目責任者	青嶋 由美子			単位数	1 単位			
担当教員	青嶋 由美子							
授業概要	この科目は子どもの発達に応じた言語表現技術の習得を目的とする。保育者として、子どもの言葉の発達を多様な方面から支えるためには、言葉を用いた表現力が欠かせない。様々な児童文化財を効果的に用いながら、子どもの言語能力を刺激し発達させる関わり方を体得し、また、自らの言語を用いた発信力を充実させていくことが、本講の主眼となっている。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知ること、その発達過程に応じた児童文化財を選択出来ること、子どもの環境に応じた言葉掛けが出来ることは、保育者に欠かせない技能である。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの年齢に応じた言葉の発達過程を学び応用出来る。 2. 子どもの発達に応じた児童文化財（絵本・ストーリーテリングなど）を選択出来、読み聞かせたり語ったりすることが出来る。 3. 子どもが自ら児童文化財に接することが出来るような環境構成を考えられる。 4. 子どもの様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びが展開出来る。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『保育・教育ネオシリーズ [20] 保育内容・言葉 第三版 』（1 年次に使用したもの）	太田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久・白澤早苗・片山順子・齋藤二三子・岸美桜・中山美知子 著	同文書院	2,310 円	ISBN978-4-8103-1471-7	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たかを 10%、発表担当の際の出来具合を 40%、定期試験で測る理解度を 50%として総合評価とする。	
評価項目	割合	評価基準
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価できたか	10%	評価表の配点により理解度を確認する。
発表担当の際の出来具合	40%	題材の選択状況・発表の際の発声・対象年齢の設定・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	「保育内容・言葉」を履修済であること。（幼・保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	担当日時を決めスピーチと部分指導案の実施（児童文化財のを含む）を行うため、十分な時間をかけて準備をして欲しい。 1. スピーチ及び部分指導案実施（資料等の制作を含む）の準備（4 時間程度） 2. 児童文化財の実演の準備（4 時間程度） 3. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 15 回 /0.7 時間程度） 4. クラスメートが選択した児童文化財についてまとめておくこと（第 2 回～ 15 回 /0.5 時間程度） 5. 必要に応じて Classroom 上に確認テストの問題を事前にアップするので、解答を準備しておく（1 回 0.5 時間程度 ×6 回） 6. 第 15 回のグループワークに向けて、実習での言葉がけの体験を振り返りまとめておく（2 時間） 7. 第 16 回定期試験のために、授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと（6 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回 （講義）ガイダンス 第2回 （講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（0ヶ月～6ヶ月頃） 第3回 （講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（6ヶ月頃～12ヶ月頃） 第4回 （講義、実技）1歳児の言葉の発達と保育教材 4月にふさわしいスピーチと部分指導案の実施（児童文化財の使用）（プレゼンテーション・グループワーク） 第5回 （講義、実技）2歳児の言葉の発達と保育教材 5月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第6回 （講義、実技）3歳児の言葉の発達と保育教材 6月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第7回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論③ （子供の知的・社会的発達と絵本との関わり） 第8回 （講義、実技）4歳児の言葉の発達と保育教材 7・8月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第9回 （講義、実技）5歳児の言葉の発達と保育教材 9月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第10回 （講義、実技）就学前期の言葉の発達と保育教材 10月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第11回 （講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本） 第12回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び①（しりとり遊びが出来るまで） 11月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第13回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び②（言葉を分類する遊び） 12月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第14回 （講義、実技）言葉を伸ばすための遊び③（言葉遊びの伝え方） 1月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第15回 （講義、実技）保育活動の際の言葉掛け（グループワーク・プレゼンテーション） 2・3月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第16回 定期試験 第4～6・8～10・12～15 回については、スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）を行う。 ※スピーチと児童文化財の実演については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにルーブリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM2020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	36380		
科目	3638 幼児と環境			授業種別	週間授業		
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位		
担当教員	加藤 克俊						
授業概要	子どもたちを取り巻く環境には、描画材料として活用できるものがたくさんある。また、そうした環境と自身に関わることは、興味・関心を外に向ける事につながる。この授業では、表現することを通じて自身の学びと育ちを体験し、領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点について学習することを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し説明できる。 2 生活環境の中から工夫し、自分なりの表現を楽しみながら実践できる。 3 保育者として配慮すべき内容を意識し、ともに教え合いながら修得することができる。 4 身近な素材を使って、子どもに伝えるべき技術を身につける。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	各技法カードの制作におけるポイントの気付きや、まとめ方を70%、技法を活かした作品の仕上がりを20%、技法集としての統一感を10%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。	
評価項目	割合	評価基準
制作におけるポイントの気付きやまとめ方	70%	技法ごとに保育者として展開や配慮など、考えたことがまとめられているか。
技法を活かした作品	20%	それぞれの技法について説明をよく理解し、それを活かした制作を楽しみながら取り組むことができたか。
技法集としての仕上がり	10%	技法集を作るにあたり、どのようにしたら見やすくまとまるか、工夫ができているか。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作は、完成するまでこだわって取り組むこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (演習) ガイダンス ヨハネス・イッテンの色相環 第2回 (演習) 吹きながし たらし絵 合わせ絵 第3回 (演習) にじみ絵 スポンジ画 霧ふりかけ 第4回 (演習) サインペンの水描き 指絵 手形足形とり 第5回 (演習) ウクライナの子どもたちへのクリスマスカード 第6回 (演習) ステンシル ひっかき絵 はじき絵 第7回 (演習) フォトモンタージュ スチロールモノプリント 第8回 (演習) ダンボールの型押し 孔版 第9回 (演習) 重ね色スタンピング ビー玉ころがし 第10回 (演習) ウォッシング 墨ながし こすり出し 第11回 (演習) 墨つけデザイン 糸ころがし 糸ひき絵 第12回 (演習) アワうつし 紙の折り染め 第13回 (演習) 砂絵 切り紙 スキージー 第14回 (演習) これまでの技法を使った表紙の制作 第15回 (演習) 目次の制作 提出 ※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	36381			
科目	3638 幼児と環境			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位			
担当教員	加藤 克俊							
授業概要	子どもたちを取り巻く環境には、描画材料として活用できるものがたくさんある。また、そうした環境と自身に関わることは、興味・関心を外に向ける事につながる。この授業では、表現することを通じて自身の学びと育ちを体験し、領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点について学習することを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し説明できる。 2 生活環境の中から工夫し、自分なりの表現を楽しみながら実践できる。 3 保育者として配慮すべき内容を意識し、ともに教え合いながら修得することができる。 4 身近な素材を使って、子どもに伝えるべき技術を身につける。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	各技法カードの制作におけるポイントの気付きや、まとめ方を70%、技法を活かした作品の仕上がりを20%、技法集としての統一感を10%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。	
評価項目	割合	評価基準
制作におけるポイントの気付きや、まとめ方	70%	技法ごとに保育者として展開や配慮など、考えたことがまとめられているか。
技法を活かした作品	20%	それぞれの技法について説明をよく理解し、それを活かした制作を楽しみながら取り組むことができたか。
技法集としての仕上がり	10%	技法集を作るにあたり、どのようにしたら見やすくまとまるか、工夫ができているか。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作は、完成するまでこだわりの持ちて取り組むこと。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (演習) ガイダンス ヨハネス・イッテンの色相環 第2回 (演習) 吹きながし たらし絵 合わせ絵 第3回 (演習) にじみ絵 スポンジ画 霧ふりかけ 第4回 (演習) サインペンの水描き 指絵 手形足形とり 第5回 (演習) ウクライナの子どもたちへのクリスマスカード 第6回 (演習) ステンシル ひっかき絵 はじき絵 第7回 (演習) フォトモンタージュ スチロールモノプリント 第8回 (演習) ダンボールの型押し 孔版 第9回 (演習) 重ね色スタンピング ビー玉ころがし 第10回 (演習) ウォッシング 墨ながし こすり出し 第11回 (演習) 墨つけデザイン 糸ころがし 糸ひき絵 第12回 (演習) アワうつし 紙の折り染め 第13回 (演習) 砂絵 切り紙 スキージー 第14回 (演習) これまでの技法を使った表紙の制作 第15回 (演習) 目次の制作 提出 ※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。
--------------	---

ナンバリング	PEDM1009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36510			
科目	3651 言葉と表現			授業種別	週間授業			
科目責任者	井原 淑雅			単位数	2 単位			
担当教員	井原 淑雅							
授業概要	子どもと生活することを生業とする保育者は、豊かな教養と広い視野を持つ必要がある。また、現代のグローバル化する国際社会の中では、個人の資質向上は必要不可欠である。そこでこの授業では、「考える」力を身につけることを目的とした。そのためには、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の内容を踏まえて、人間にとって言葉とは何かを考える。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○					
到達目標	保育者として「言葉」を用いて子どもや保護者と関わっていくためには、言葉の四技能は可能な限りレベルを高めておく必要がある。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「保育に関する専門的な知識や技能を習得する」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」の土台を形成するものとして、以下を到達目標とする。 1. はっきりとした十分な声量で正しく文章を読む。 2. 日本語の基礎的な言語知識を運用できる。 3. 文章や資料の読解や情報処理ができる。 4. 読み手に伝わる文章を書くことができる 5. 話し手が伝えたい内容を要約し、論点をつかむことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
キャリアアップ 国語表現法 二十五訂版	丸山権徳 編著	嵯峨野書院	1700	9784782306284	
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	授業時間内でのプリント・課題提出 (20%)、中間試験 (40%)、定期試験 (40%) として評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、定期試験を受験できない。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出・確認テスト	20%	講義内容の習熟度を確認する。
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する。
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業前に「保育用語漢字練習シート」の練習問題に取り組み解答しておくこと。(第 2~14 回 /0.75 時間程度) 2. 毎授業後に前回分の練習問題を復習し、確認テストの準備をすること。(第 2~14 回 /0.75 時間程度) 3. 毎授業前に朗読の準備として黙読を通して内容把握を行い、実際に音読すること。(第 2~14 回 /0.75 時間程度) 4. 毎授業後に「保育の基本用語の意味」を再確認すること。(第 2 ～ 15 回 /0.75 時間程度) 5. 第 16 回定期試験のために、確認テスト・授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと。(4 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス 漢字習得の近道 実習日誌の漢字 4 月 第2回 (講義・演習) 同音異義語 同訓異義語 実習日誌の漢字 5 月 第3回 (講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本総論(絵本とは何か)(認定講座用課題有) 実習日誌の漢字 6 月 第4回 (講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本②(昔話、童話を基にした絵本)『子どもと言葉』実践編 5 章児童文化―神話・おとぎ話・童話 - 実習日誌の漢字 7 月 第5回 (講義・演習) 音訓と熟語 実習日誌の漢字 8 月 第6回 (講義・演習) 熟語の構造 実習日誌の漢字 9 月 第7回 (講義・演習) 四字熟語 実習日誌の漢字 10 月 第8回 (講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術②(書評・紹介文の書き方) ――絵本ノートから発展させる――文の要約 第9回 (講義・演習) 仮名遣いと送り仮名 実習日誌の漢字 11 月 第10 回 (講義・演習) 文章要約① 実習日誌の漢字 12 月 第11 回 (講義・演習) 文章要約② 実習日誌の漢字 1 月 第12 回 (講義・演習) 分のしくみ① 実習日誌の漢字 2 月 第13 回 (講義・演習) 文のしくみ② 実習日誌の漢字 3 月 第14 回 (講義・演習) 文章構成 第15 回 (講義・演習) まとめ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	36511			
科目	3651 言葉と表現			授業種別	週間授業			
科目責任者	井原 淑雅			単位数	2 単位			
担当教員	井原 淑雅							
授業概要	子どもと生活することを生業とする保育者は、豊かな教養と広い視野を持つ必要がある。また、現代のグローバル化する国際社会の中では、個人の資質向上は必要不可欠である。そこでこの授業では、「考える」力を身につけることを目的とした。そのためには、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の内容を踏まえて、人間にとって言葉とは何かを考える。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○					
到達目標	保育者として「言葉」を用いて子どもや保護者と関わっていくためには、言葉の四技能は可能な限りレベルを高めておく必要がある。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「保育に関する専門的な知識や技能を習得する」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」の土台を形成するものとして、以下を到達目標とする。 1. はっきりとした十分な声量で正しく文章を読む。 2. 日本語の基礎的な言語知識を運用できる。 3. 文章や資料の読解や情報処理ができる。 4. 読み手に伝わる文章を書くことができる 5. 話し手が伝えたい内容を要約し、論点をつかむことができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
キャリアアップ 国語表現法 二十五訂版	丸山権徳 編著	嵯峨野書院	1700	9784782306284	
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	授業時間内でのプリント・課題提出(20%)、中間試験(40%)、定期試験(40%)として評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、定期試験を受験できない。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出・確認テスト	20%	講義内容の習熟度を確認する。
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する。
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	(卒・幼) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に「保育用語漢字練習シート」の練習問題に取り組み解答しておくこと。(第2~14回 /0.75時間程度) 2. 毎授業後に前回分の練習問題を復習し、確認テストの準備をすること。(第2~14回 /0.75時間程度) 3. 毎授業前に朗読の準備として黙読を通して内容把握を行い、実際に音読すること。(第2~14回 /0.75時間程度) 4. 毎授業後に「保育の基本用語の意味」を再確認すること。(第2～15回 /0.75時間程度) 5. 第16回定期試験のために、確認テスト・授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと。(4時間程度)

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点后速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス 漢字習得の近道 実習日誌の漢字 4月 第2回(講義・演習) 同音異義語 同訓異義語 実習日誌の漢字 5月 第3回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本総論(絵本とは何か)(認定講座用課題有) 実習日誌の漢字 6月 第4回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本②(昔話、童話を基にした絵本)『子どもと言葉』実践編 5章児童文化―神話・おとぎ話・童話- 実習日誌の漢字 7月 第5回(講義・演習) 音訓と熟語 実習日誌の漢字 8月 第6回(講義・演習) 熟語の構造 実習日誌の漢字 9月 第7回(講義・演習) 四字熟語 実習日誌の漢字 10月 第8回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術②(書評・紹介文の書き方) ――絵本ノートから発展させる――文の要約 第9回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名 実習日誌の漢字 11月 第10回(講義・演習) 文章要約① 実習日誌の漢字 12月 第11回(講義・演習) 文章要約② 実習日誌の漢字 1月 第12回(講義・演習) 分のしくみ① 実習日誌の漢字 2月 第13回(講義・演習) 文のしくみ② 実習日誌の漢字 3月 第14回(講義・演習) 文章構成 第15回(講義・演習) まとめ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEDM1010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期		授業コード	37112				
科目	3711 実習指導		授業種別	週間授業				
科目責任者	大矢 龍弥		単位数	2 単位				
担当教員	大矢 龍弥、山内 博子							
授業概要	教育実習に向けて、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識や技能を習得しようとする意識を高め、目的を持って実習に取り組む意欲的な態度を養う。子どもの発達、遊び、教材、記録、指導案などについて学び、実習に生かすことのできる実践力を身に付ける。							
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性								
到達目標	幼稚園の機能、保育者の職務、幼児期の子どもの特徴について理解し、保育職に関する基本的な知識を実践に生かすことができる。保育者に求められる専門的知識や技能・態度を理解し、その習得に主体的に取り組む。実習に必要な手続き、教材や記録、指導案について学び、実習に向けての具体的な準備を行う。実習における自分自身の目標と課題を明らかにするとともに、実習後の振り返りを通して自らの改善点を把握し、それを次に実習に生かすことができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【改訂新版】記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案 0～5歳児年齢別・実習完全サポート 部分実習指導案と連動した遊びつき	田中亨胤／監修 山本淳子／編著	ひかりのくに	1400	9784564609107	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
授業中の課題	70%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
レポート課題	30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	授業で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する (第 1 ～ 15 回／2.5 時間程度) 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる (第 10, 14 回／1.5 時間程度) 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う (第 6～8, 11～13, 15 回／2.5 時間程度) 実習園から指示された課題も含め実習に向けた準備学習に積極的に取り組む (第 6～8, 11～13, 15 回／2.5 時間程度) 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習への課題を明らかにする (第 9 回／1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	〈教育実習について—2026 年度秋学期開講—〉 第 1 回 (講義) ガイダンス 教育実習の意義と目的 第 2 回 (講義・演習) 保育における計画 第 3 回 (講義・演習) 長期の指導計画・短期の指導計画 第 4 回 (演習) 子どもの発達過程—運動機能 第 5 回 (演習) 子どもの発達過程—生活習慣 第 6 回 (講義・演習) 実習記録について 第 7 回 (講義・演習) 指導案について 第 8 回 (講義) 実習前の準備・心構えについて (実習ガイダンス) 〈教育実習について—2027 年度春学期開講—〉 第 9 回 (演習) 教育実習の振り返り (グループワーク、ディスカッション) 第 10 回 (講義・演習・実技) 教材研究 (グループワーク) 第 11 回 (演習) 子どもの発達と遊び 第 12 回 (演習) 実習記録について 第 13 回 (演習) 指導案について 第 14 回 (演習) 教材研究の成果発表 (プレゼンテーション) 第 15 回 (講義) 実習前の準備・心構えについて (実習ガイダンス) ※授業内で実施した課題やレポートについては、授業内あるいは Classroom を通してコメントし、その後の学習に活用できるようフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期		授業コード	37113				
科目	3711 実習指導		授業種別	週間授業				
科目責任者	大矢 龍弥		単位数	2 単位				
担当教員	大矢 龍弥、山内 博子							
授業概要	教育実習に向けて、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識や技能を習得しようとする意識を高め、目的を持って実習に取り組む意欲的な態度を養う。子どもの発達、遊び、教材、記録、指導案などについて学び、実習に生かすことのできる実践力を身に付ける。							
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性								
到達目標	幼稚園の機能、保育者の職務、幼児期の子どもの特徴について理解し、保育職に関する基本的な知識を実践に生かすことができる。保育者に求められる専門的知識や技能・態度を理解し、その習得に主体的に取り組む。実習に必要な手続き、教材や記録、指導案について学び、実習に向けての具体的な準備を行う。実習における自分自身の目標と課題を明らかにするとともに、実習後の振り返りを通して自らの改善点を把握し、それを次に実習に生かすことができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【改訂新版】記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案 0～5歳児年齢別・実習完全サポート 部分実習指導案と連動した遊びつき	田中亨胤／監修 山本淳子／編著	ひかりのくに	1400	9784564609107	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
授業中の課題	70%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する
レポート課題	30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	授業で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する (第 1 ～ 15 回／2.5 時間程度) 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる (第 10, 14 回／1.5 時間程度) 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う (第 6～8, 11～13, 15 回／2.5 時間程度) 実習園から指示された課題も含め実習に向けた準備学習に積極的に取り組む (第 6～8, 11～13, 15 回／2.5 時間程度) 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習への課題を明らかにする (第 9 回／1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	〈教育実習について—2026 年度秋学期開講—〉 第 1 回 (講義) ガイダンス 教育実習の意義と目的 第 2 回 (講義・演習) 保育における計画 第 3 回 (講義・演習) 長期の指導計画・短期の指導計画 第 4 回 (演習) 子どもの発達過程—運動機能 第 5 回 (演習) 子どもの発達過程—生活習慣 第 6 回 (講義・演習) 実習記録について 第 7 回 (講義・演習) 指導案について 第 8 回 (講義) 実習前の準備・心構えについて (実習ガイダンス) 〈教育実習について—2027 年度春学期開講—〉 第 9 回 (演習) 教育実習の振り返り (グループワーク、ディスカッション) 第 10 回 (講義・演習・実技) 教材研究 (グループワーク) 第 11 回 (演習) 子どもの発達と遊び 第 12 回 (演習) 実習記録について 第 13 回 (演習) 指導案について 第 14 回 (演習) 教材研究の成果発表 (プレゼンテーション) 第 15 回 (講義) 実習前の準備・心構えについて (実習ガイダンス) ※授業内で実施した課題やレポートについては、授業内あるいは Classroom を通してコメントし、その後の学習に活用できるようフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期、2027 年度秋学期	授業コード	37210
科目	3721 教育実習	授業種別	実習
科目責任者	大矢 龍弥	単位数	4 単位
担当教員	大矢 龍弥		

授業概要	幼稚園教諭二種免許状を取得する者は、幼稚園における教育実習4単位を履修する必要がある。教育実習は法律で定められた教員免許状取得のための一要件であり、大学において学んだ基礎的科目及び専門的科目の知識・技能を幼稚園という具体的な場において統合・応用・拡大・深化させるものである。						
ディプロマポリシー							
ディプロマポリシーとの関連性							
到達目標	1. 幼稚園の機能や保育者の職務について、保育現場における観察や参加を通して実践的に学び、保育者としての資質を形成する。 2. 子どもの観察及び子どもとの実際の関わりから子ども理解への意欲を高め、さらに記録の記述を通して子どもの内面について考察を深めることができる。 3. 保育者の職務を体験することを通して、基本的な保育技術や援助方法を体得し、自ら保育を展開することができる。 4. 保育の計画、実践、反省のプロセスを経験し、保育の実践力を高めるための自らの課題を説明できる。						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【改訂新版】記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案 0～5歳児年齢別・実習完全サポート 部分実習指導案と連動した遊びつき	田中亨胤／監修 山本淳子／編著	ひかりのくに	1400	9784564609107	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	二回の実習園からの実習評価及び実習記録等から評価する。実習における劣悪な実習態度は、減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
実習園による実習評価	80%	実習の達成度を4段階で評価する
実習記録	20%	実習記録の内容を評価する

受講条件	(幼) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 実習指導で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する。 2. 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる。 3. 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う。 4. 実習園から指示された準備学習に積極的に取り組む。 5. 実習中は、毎日の課題 (実習記録や指導案の作成、教材の準備等) に着実に取り組む。 6. 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習あるいは保育職に向けての自分自身の課題を明らかにする。

授業の実施方法と授業計画	以下の予定で実習を行う。 〈2025 年度入学生〉 2026 年 1 月 30 日～2 月 13 日、2026 年 9 月 28 日～10 月 9 日 〈2026 年度入学生〉 2027 年 1 月 29 日～2 月 12 日 ※2 年次日程は未定 学生の習熟度に合わせ、観察・参加・責任実習と段階を追って経験する。 ※実習記録については、返却時にコメントを付け、フィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	PEEM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期	授業コード	37231
科目	3723 保育実習Ⅰ（保育所）	授業種別	実習
科目責任者	鈴木 順子	単位数	2 単位
担当教員	鈴木 順子		
授業概要	学内での学びをもとに、実践の場における子どもの生活や遊びを通して、保育所の役割、機能に対する理解を深める。子どもや保育の観察、参加をすることで子どもについて深く理解し、保育士の関わりについて学ぶ。全体的な計画に沿った指導計画の作成や計画に基づく実践の在り方について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. 保育実習の意義、目的を理解し、学内で習得した知識、技能を実践の場で応用できる。 2. 子どもとの直接的な関わりを通して子どもへの理解を深め、保育の計画、実践、評価について実践できる。 3. 実習生自身が実習を通して、新たな課題を持ち、改善に取り組める。 4. 保育士の業務内容や職業倫理、職員の連携について理解し、実践することができる。		

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実習記録、実習園からの評価を基に総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習園による実習評価	80%	実習の達成度を A ～ D の 4 段階で評価する。
実習記録	20%	実習記録の内容が丁寧に記されているかを基準として評価する。

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 子どもの発達や保育内容について復習しておく。 2. 事前訪問で指導された保育内容（絵本の読み聞かせ、ピアノの弾き歌い、部分指導案の作成等）を準備する。 3. 実習期間中は毎日、記録や指導案作成等の課題に取り組む。 4. 実習後は自身を振り返り、課題克服につとめる。

授業の実施方法と授業計画	1. 保育所の機能と役割 2. 子ども理解 3. 保育内容・保育環境 4. 保育の計画、観察、記録 5. 保育所の保育士としての役割と職業倫理 ※実習園からの評価については、内容に配慮しながら個別に学生にコメントや、指導し、気づきを促す。
--------------	---

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期、2027 年度秋学期	授業コード	37241
科目	3724 保育実習Ⅰ（施設）	授業種別	実習
科目責任者	葛谷 潔昭	単位数	2 単位
担当教員	葛谷 潔昭		

授業概要	保育士が社会福祉施設で求められる専門性を現場で体験的に学習する事を目的とした科目である。子ども（利用者）との関わりと現場の業務や援助の経験を通して、子ども（利用者）の理解と、理論と実践の理解を深めることを目指す。そして、就職後に援助を実践できる力を身に着けることを目標とする。						
ディプロマポリシー							
ディプロマポリシーとの関連性							
到達目標	1. 実習施設の業務に主体的に参加することで、実習施設が持つ機能や社会的役割について理解し、説明できる。 2. 実習施設における保育士等の子どもや利用者への援助内容を観察し、参加することで、施設の一日の生活の流れや援助・業務の基本的な内容の理解し、説明できる。 3. 主体的に子ども（利用者）とかわり、援助に携わることにより、子ども（利用者）の生活に対する理解を深め、適切な援助を考え実行することができる。 4. 実習施設を利用している子ども（利用者）や家族が抱える問題やニーズについて理解し、適切な援助を考え実行することができる。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	現場配属実習先からの評価を得て、実習そのものに合格することは言うまでもないが、下記内容を総合的に評価し認定する。 ①実習中の状況（巡回指導時の状況、教員等への連絡も含む） ②実習先からの実習評価 ③実習の記録の提出、事前事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況（施設に提出する書類） ④実習の記録の記述内容	
評価項目	割合	評価基準
実習中の状況	10%	責任感、社会人としてのマナー、ルール順守、記録等提出状況
実習先からの実習評価	70%	実習先から見た、参加度、服務規程等順守度、実習内容（援助やかかわり等）
実習の記録の提出等	10%	事前・事後提出物、実習記録等
実習の記録の記述内容	10%	実習記録の具体性、内容の適切性等

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	自宅や施設の実習時間外等での学習は次の通りである。 ・実習日誌などの記録の作成、振り返り、目標の設定。 ・実習終了時の学び得たことのまとめの作成。

授業の実施方法と授業計画	実習は、概ね 10 日間を基本として実施する。 現場配属実習の概ねの学習時間は下記の通りである。 ・実習先の理解は、2 日間以上 ・実習先の業務と利用者理解は、2 日間以上 ・実習先の利用者への援助の実践と振り返り・改善は、6 日間以上 巡回指導の内容や施設からの報告・連絡、学生からの疑問・意見、学生の経験・実習記録に対するフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、学生個別に解説・説明、コメント・指導等を行うとともに、受講者全体や下級生に対しては、今後の実習教育・現場での実践の向上のために実習指導等の授業内容に活用するとともに、実習の手引きの内容や標準プログラムの改善等に活用する。
--------------	---

ナンバリング	PEEM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期	授業コード	37252
科目	3725 保育実習指導Ⅰ（保育所）	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木 順子	単位数	1 単位
担当教員	鈴木 順子		
授業概要	保育士資格取得のための必修科目である。保育実習における目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な心構え、知識・技術を身につけ、実習に対する意欲を高める。実践的な力をつけるために指導案作成等を行う。また実習中に見るべき視点を修得し、ねらいをもって実習に取り組めるようにする。学んだ内容を記録にまとめ、自己を振り返る力をつける。 実習後は、実習のまとめや自己評価をもとに、他教科における学びとの統合を図った上で、新たな課題や目標を明確にする。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. 保育実習の基本的な意義や目的を述べることができる。 2. 実習に際しての留意事項を理解し、目標や心構えを文章化することができる。 3. 環境構成や保育者の援助・配慮についてそのねらいを述べるすることができる。 4. 指導計画を立案し、実践することができる。 5. 実習内容を理解し、事前事後の自らの課題を述べることができ、改善に向けて工夫することができる。		

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド	小櫃智子・守巧・佐藤 恵・小山朝子	わかば社		978-4-907270-41-4	
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド	小櫃智子 編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子	わかば社		978-4-907270-43-8	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	課題提出、指導案作成、実習後の振り返りを基に評価する。 実習に直接かかわる内容のため、特に授業中の劣悪な態度や課題提出状況について減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	35%	提出状況、提出期限の厳守、課題に基づく内容や丁寧に記述されているか。
指導案作成	30%	ねらいに沿った内容、援助方法が指導案に示されているか。
実習後の振り返り	35%	実習の振り返りが記録に基づいて記されているか。

受講条件	（保） 必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎時間授業の復習をし、内容や日程等の確認を怠らないこと（第1～15 回／1 時間程度） 2. 指導案作成と教員の添削返却後の見直し、確認を行う（8 時間程度） 3. 保育実習Ⅰに向けての教材作成を行う（10 時間程度） 4. オリエンテーション後の事前準備を行う（10 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習の方法と目的 第2回（講義）実習のねらいや心構え 第3回（実習）保育所見学実習① 保育のねらいを知る 第4回（実習）保育所見学実習② 保育実践を試みる 第5回（演習）見学実習の振り返り（グループワーク） 第6回（講義）記録の書き方について 第7回（演習）記録の書き方の実践 第8回（講義）実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス） 第9回（講義）指導計画の書き方について 第10 回（演習）指導計画の書き方の実践 第11 回（講義）実習前の持ち物等を含む直前指導 第12 回（講義・演習）実習に際しての留意事項及び現職の保育士による保育実践の体験（グループワーク） 第13 回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（個々での振り返り） 第14 回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（ディスカッション） 第15 回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（グループワークで発表） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※提出課題については返却し、随時コメントし、フィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期	授業コード	37253
科目	3725 保育実習指導Ⅰ（保育所）	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木 順子	単位数	1 単位
担当教員	鈴木 順子		
授業概要	保育士資格取得のための必修科目である。保育実習における目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な心構え、知識・技術を身につけ、実習に対する意欲を高める。実践的な力をつけるために指導案作成等を行う。また実習中に見るべき視点を修得し、ねらいをもって実習に取り組めるようにする。学んだ内容を記録にまとめ、自己を振り返る力をつける。 実習後は、実習のまとめや自己評価をもとに、他教科における学びとの統合を図った上で、新たな課題や目標を明確にする。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. 保育実習の基本的な意義や目的を述べることができる。 2. 実習に際しての留意事項を理解し、目標や心構えを文章化することができる。 3. 環境構成や保育者の援助・配慮についてそのねらいを述べるができる。 4. 指導計画を立案し、実践することができる。 5. 実習内容を理解し、事前事後の自らの課題を述べることができ、改善に向けて工夫することができる。		

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド	小櫃智子・守巧・佐藤 恵・小山朝子	わかば社		978-4-907270-41-4	
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド	小櫃智子 編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子	わかば社		978-4-907270-43-8	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	課題提出、指導案作成、実習後の振り返りを基に評価する。 実習に直接かかわる内容のため、特に授業中の劣悪な態度や課題提出状況について減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	35%	提出状況、提出期限の厳守、課題に基づく内容や丁寧に記述されているか。
指導案作成	30%	ねらいに沿った内容、援助方法が指導案に示されているか。
実習後の振り返り	35%	実習の振り返りが記録に基づいて記されているか。

受講条件	（保）必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎時間授業の復習をし、内容や日程等の確認を怠らないこと（第1～15回／1時間程度） 2. 指導案作成と教員の添削返却後の見直し、確認を行う（8時間程度） 3. 保育実習Ⅰに向けての教材作成を行う（10時間程度） 4. オリエンテーション後の事前準備を行う（10時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習の方法と目的 第2回（講義）実習のねらいや心構え 第3回（実習）保育所見学実習① 保育のねらいを知る 第4回（実習）保育所見学実習② 保育実践を試みる 第5回（演習）見学実習の振り返り（グループワーク） 第6回（講義）記録の書き方について 第7回（演習）記録の書き方の実践 第8回（講義）実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス） 第9回（講義）指導計画の書き方について 第10回（演習）指導計画の書き方の実践 第11回（講義）実習前の持ち物等を含む直前指導 第12回（講義・演習）実習に際しての留意事項及び現職の保育士による保育実践の体験（グループワーク） 第13回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（個々での振り返り） 第14回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（ディスカッション） 第15回（演習）保育実習Ⅰの振り返り（グループワークで発表） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※提出課題については返却し、随時コメントし、フィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期、2027 年度秋学期			授業コード	37260		
科目	3726 保育実習指導Ⅰ（施設）			授業種別	週間授業		
科目責任者	葛谷 潔昭			単位数	1 単位		
担当教員	葛谷 潔昭						
授業概要	保育実習Ⅰ（施設）に向け、実習の意義や目的の理解、実習先の施設種別の理解など、知識・技術の確認等を行う。また、実習における記録の取り方、実習日誌の作成、事前オリエンテーションの受け方などを学び、社会人として実習生としてのマナーや作法、姿勢といった基本的な心得を学ぶ。実習後の振り返りでは、実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育士としての価値観、倫理観の醸成ための足掛かりとする。						
ディプロマポリシー							
ディプロマポリシーとの関連性							
到達目標	下記ができるよう努力し、その内容・状況を報告し、必要に応じて改善し、達成することができる。 ＜実習事前＞ 1. 実習の目的や内容、心得を理解し、説明できる。 2. 実習記録等の書き方を習得できる。 3. 実習課題・目標を設定できる。 4. 実習施設の概要を理解し、説明できる。 ＜実習事後＞ 5. 実習施設の具体的な業務および社会的役割を理解し、説明できる。 6. 実習総括、自己評価を行い、今後の課題を示すことができる。 7. 実習を振り返り自己覚知を高め、援助技術の向上につなげることができる。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育士をめざす人の福祉施設実習〔第 2 版〕	愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会	みらい	未定	未定	
広報誌・実習支援誌『つむぎ』	愛知県児童福祉施設長会	愛知県児童福祉施設会	500 円（予定：送料込）	コードなし	上記の他に「社会福祉」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」のテキストも使用する。

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府／文部科学省／厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814246	
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814222	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	授業内で適宜レポート・感想文などの提出を求める。 演習や課題内容、提出物の状況・内容、指導内容の反映、指示への対応状況などを総合的に評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題・提出物	60%	演習や課題の内容、レポート感想文等提出物の提出状況・内容等
授業外課題・提出物	40%	実習目標・事前訪問記録・実習報告書・自己評価票等提出物の提出状況・内容等、個別指導の対応内容等

受講条件	必修（保）
事前・事後学修（内容・時間）	1. 施設の種類・保育士の役割についての事前学習（グループ発表要旨作成および授業後レポートの作成含む）（合計 9 時間程度） 2. 実習先調べとオリエンテーション内容の確認、実習準備、実習目標の設定と課題作成（合計 6 時間程度） 3. 日誌等の書式の書き方の学習と練習（合計 4 時間程度） 4. 実習事後学習（事後考察・自己評価票作成・お礼状作成・報告書作成・報告会原稿作成）（合計 11 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習Ⅰ（施設）について（オリエンテーション） 第2回（講義・演習）施設の種類・保育士の役割について 第3回（講義・演習）児童福祉施設の説明（乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設） 第4回（講義・演習）児童福祉施設の説明（障害児施設） 第5回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者就労支援事業所、障害者支援施設、生活介護事業所、その他） 第6回（講義・演習）日誌等の書式、その他提出書類等の書き方 第7回（講義・演習）施設実習ガイダンス（春）／実習先提示と実習目標の設定（春）（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習・事前訪問）／直前指導（春）（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第8回（演習）事後指導（春）（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第9回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第10回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第11回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第12回（講義・演習）まとめ（春）、実習先提示と実習目標の設定（夏）（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習・事前訪問）／直前指導（夏）（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第13回（演習）事後指導（夏）（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第14回（演習）施設実習報告会・事例検討会（夏） 第15回（演習・講義）施設実習報告会・事例検討会（夏）、まとめ 第11回と12回の間に「施設実習ガイダンス（夏）」1コマを挟む。 上記の授業とガイダンスは、春・夏問わず全受講者に出席義務がある。 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。 受講状況に応じて、追加で個別指導を行う場合がある。 他の科目（社会福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、特別支援教育・保育Ⅰ・Ⅱ）とも連携して実施しているので、それらの科目の授業内容、課題にも気を配ること。
--------------	--

ナンバリング	PEEM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期、2027 年度春学期、2027 年度秋学期				授業コード	37261		
科目	3726 保育実習指導Ⅰ（施設）				授業種別	週間授業		
科目責任者	葛谷 潔昭				単位数	1 単位		
担当教員	葛谷 潔昭							
授業概要	保育実習Ⅰ（施設）に向け、実習の意義や目的の理解、実習先の施設種別の理解など、知識・技術の確認等を行う。また、実習における記録の取り方、実習日誌の作成、事前オリエンテーションの受け方などを学び、社会人として実習生としてのマナーや作法、姿勢といった基本的な心得を学ぶ。実習後の振り返りでは、実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育士としての価値観、倫理観の醸成ための足掛かりとする。							
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性								
到達目標	下記ができるよう努力し、その内容・状況を報告し、必要に応じて改善し、達成することができる。 ＜実習事前＞ 1. 実習の目的や内容、心得を理解し、説明できる。 2. 実習記録等の書き方を習得できる。 3. 実習課題・目標を設定できる。 4. 実習施設の概要を理解し、説明できる。 ＜実習事後＞ 5. 実習施設の具体的な業務および社会的役割を理解し、説明できる。 6. 実習総括、自己評価を行い、今後の課題を示すことができる。 7. 実習を振り返り自己覚知を高め、援助技術の向上につなげることができる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育士をめざす人の福祉施設実習〔第 2 版〕	愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会	みらい	未定	未定	
広報誌・実習援誌『つむぎ』	愛知県児童福祉施設会	愛知県児童福祉施設会	500 円（予定：送料込）	コードなし	上記の他に「社会福祉」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」のテキストも使用する。

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針：平成 29 年告示	厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉	内閣府／文部科学省／厚生労働省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814246	
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館	164 円（税込）	978-4577814222	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	上記以外は、適宜、授業内で配布・紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	授業内で適宜レポート・感想文などの提出を求める。 演習や課題内容、提出物の状況・内容、指導内容の反映、指示への対応状況などを総合的に評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題・提出物	60%	演習や課題の内容、レポート感想文等提出物の提出状況・内容等
授業外課題・提出物	40%	実習目標・事前訪問記録・実習報告書・自己評価票等提出物の提出状況・内容等、個別指導の対応内容等

受講条件	必修（保）
事前・事後学修（内容・時間）	1. 施設の種類・保育士の役割についての事前学習（グループ発表要旨作成および授業後レポートの作成含む）（合計 9 時間程度） 2. 実習先調べとオリエンテーション内容の確認、実習準備、実習目標の設定と課題作成（合計 6 時間程度） 3. 日誌等の書式の書き方の学習と練習（合計 4 時間程度） 4. 実習事後学習（事後考察・自己評価票作成・お礼状作成・報告書作成・報告会原稿作成）（合計 11 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習Ⅰ（施設）について（オリエンテーション） 第2回（講義・演習）施設の種類・保育士の役割について 第3回（講義・演習）児童福祉施設の説明（乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設） 第4回（講義・演習）児童福祉施設の説明（障害児施設） 第5回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者就労支援事業所、障害者支援施設、生活介護事業所、その他） 第6回（講義・演習）日誌等の書式、その他提出書類等の書き方 第7回（講義・演習）施設実習ガイダンス（春）／実習先提示と実習目標の設定（春）（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習・事前訪問）／直前指導（春）（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第8回（演習）事後指導（春）（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第9回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第10回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第11回（演習）施設実習報告会・事例検討会（春） 第12回（講義・演習）まとめ（春）、実習先提示と実習目標の設定（夏）（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習・事前訪問）／直前指導（夏）（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第13回（演習）事後指導（夏）（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第14回（演習）施設実習報告会・事例検討会（夏） 第15回（演習・講義）施設実習報告会・事例検討会（夏）、まとめ 第11回と12回の間に「施設実習ガイダンス（夏）」1コマを挟む。 上記の授業とガイダンスは、春・夏問わず全受講者に出席義務がある。 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。 受講状況に応じて、追加で個別指導を行う場合がある。 他の科目（社会福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、特別支援教育・保育Ⅰ・Ⅱ）とも連携して実施しているので、それらの科目の授業内容、課題にも気を配ること。
--------------	--

ナンバリング	PEEM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期		授業コード	37410				
科目	3741 保育実習Ⅱ		授業種別	実習				
科目責任者	鈴木 順子		単位数	2 単位				
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	1年生の実習で明確化した課題を基に、さらに保育士としての知識や指導技術を高める。子どもの実態把握、保育の計画、実践、記録、評価について実際に取り組み、実践する。実習を通して、子ども観や保育観の確立など保育士としての資質の習得、保育士の業務や職業倫理について具体的に理解する。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	1. 保育所の役割や機能を体験的に理解し、主体的に実践できる。 2. 明確な視点や課題をもって子どもを観察し、必要な関わりを行うことができる。 3. 保育士の業務内容と職業倫理を理解し、指導計画を作成、実践、振り返りを行い、自己課題の克服に努められる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	実習記録、実習園からの評価を基に総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習園からの評価	80%	実習の達成度を A ～ D 評価の 4 段階で評価する
実習記録	20%	実習記録が丁寧に記述されているか、その内容を評価する

受講条件	「保育実習Ⅰ」(保育所)履修者であること。(保)必修	
事前・事後学修(内容・時間)	1. 子どもの発達について復習する。 2. 現地オリエンテーションで指導を受けた部分実習、指導実習等の準備。 3. 実習期間中は毎日記録や指導案作成等の課題に取り組む。 4. 実習後は自身を振り返り、課題克服につとめる。	

授業の実施方法と授業計画	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 2. 観察に基づく子ども理解、保育実践の観察 3. 保育内容の理解(環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育) 4. 保護者支援及び地域の子育て家庭への支援への理解 5. 指導計画の作成、実践、記録、評価反省 6. 保育士の業務と倫理 7. 自己課題の明確化 ※実習園からの評価については、内容に配慮しながら個別にフィードバックを行い、学生の気づきを促す。 実習記録については、返却時にコメントを付し、フィードバックを行う。	
--------------	---	--

ナンバリング	PEEM2007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	37420			
科目	3742 保育実習指導Ⅱ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 順子			単位数	1 単位			
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	これまでの実習における学びをふまえ、実習の内容を理解するとともに、自身の実習課題を明確にして実習に臨めるよう準備する。子どもの成長発達を援助する保育について考え、指導計画を作成するための技術について学ぶ。模擬保育とその振り返りを通して保育士としての実践力や協働力を高める。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○				
到達目標	1. 保育実習の意義や留意事項について述べることができる 2. 実習内容を理解し、表現技術を活かして実践することができる 3. 実習を総括し、自己評価をもとに課題を明確にし、改善するよう努めることができる							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド	小櫃智子・守巧・佐藤 恵・小山朝子	わかば社		978-4-907270-41-4	
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド	小櫃智子 編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子	わかば社		978-4-907270-43-8	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
平成 29 年告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)	田島美穂	チャイルド本社		4-8054-0258-0	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	課題の提出状況や内容による到達度を確認し、模擬保育での実践力について評価します。尚、劣悪な授業態度(模擬保育の子ども役を真面目に行わない、ディスカッションに参加しない等)は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	35%	指導案を含む課題の提出状況、提出期限の厳守、及び課題に基づいた内容が示されているかを評価する。
模擬部分実習	35%	指導案作成に基づいて模擬保育がされているか、グループの中で積極的に参加をしているかを評価する。
実習報告会	30%	実習後の実習報告資料作成の内容が実習後の発表に反映されているかについて評価する。

受講条件	「保育実習指導Ⅰ」を履修していること。(保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 今までの実習をふり返り、保育実習Ⅱに向けての準備(制作やピアノの練習等)を行う(合計 15 時間程度) 2. 模擬保育の計画(指導案作成と教員の添削返却後の見直し)を行う(10 時間程度) 3. 模擬保育の準備を行う(9 時間程度) 4. 模擬保育実施後の振り返り課題を行う(9 時間程度) 5. オリエンテーション後の事前準備を行う(9 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義・演習) ガイダンス・保育実習Ⅱの方法と目的・模擬保育の内容決め(グループワーク) 第 2 回(演習) 指導案の書き方と作成 第 3 回(演習) 指導案の再構成と準備 第 4 回(講義) 実習に関する諸手続きの把握(ガイダンス) 第 5 回(演習) 模擬保育① 制作 第 6 回(演習) 模擬保育② ゲーム 第 7 回(演習) 模擬保育③ 集団遊び 第 8 回(演習) 模擬保育④ 制作 第 9 回(演習) 直前指導&実習後の報告会の内容について 第 10 回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】心に寄り添う絵本(心のケアと絵本の可能性) 第 11 回(講義・演習) 実習の振り返り&報告会の資料作り 第 12 回(演習) 実習報告会① グループ発表 0,1,2 歳児 第 13 回(演習) 実習報告会② グループ発表 3 歳児 第 14 回(演習) 実習報告会③ グループ発表 4 歳児 第 15 回(演習) 実習報告会④ グループ発表 5 歳児 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。 ※提出課題は返却し、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
--------------	---

ナンバリング	PEEM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	37421		
科目	3742 保育実習指導Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	鈴木 順子			単位数	1 単位		
担当教員	鈴木 順子						
授業概要	これまでの実習における学びをふまえ、実習の内容を理解するとともに、自身の実習課題を明確にして実習に臨めるよう準備する。子どもの成長発達を援助する保育について考え、指導計画を作成するための技術について学ぶ。模擬保育とその振り返りを通して保育士としての実践力や協働力を高める。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○			
到達目標	1. 保育実習の意義や留意事項について述べることができる 2. 実習内容を理解し、表現技術を活かして実践することができる 3. 実習を総括し、自己評価をもとに課題を明確にし、改善するよう努めることができる						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド	小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子	わかば社		978-4-907270-41-4	
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド	小櫃智子 編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子	わかば社		978-4-907270-43-8	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	課題の提出状況や内容による到達度を確認し、模擬保育での実践力について評価します。尚、劣悪な授業態度(模擬保育の子ども役を真面目に行わない、ディスカッションに参加しない等)は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	35%	指導案を含む課題の提出状況、提出期限の厳守、及び課題に基づいた内容が示されているかを評価する。
模擬部分実習	35%	指導案作成に基づいて模擬保育がされているか、グループの中で積極的に参加をしているかを評価する。
実習報告会	30%	実習後の実習報告資料と発表の評価。

受講条件	「保育実習指導Ⅰ」を履修していること。(保)必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 今までの実習をふり返り、保育実習Ⅱに向けての準備(制作やピアノの練習等)を行う(合計15時間程度) 2. 模擬保育の計画(指導案作成と教員の添削返却後の見直し)を行う(10時間程度) 3. 模擬保育の準備を行う(9時間程度) 4. 模擬保育実施後の振り返り課題を行う(9時間程度) 5. オリエンテーション後の事前準備を行う(9時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス・保育実習Ⅱの方法と目的・模擬保育の内容決め(グループワーク) 第2回(演習) 指導案の書き方と作成 第3回(演習) 指導案の再構成と準備 第4回(講義) 実習に関する諸手続きの把握(ガイダンス) 第5回(演習) 模擬保育① 制作 第6回(演習) 模擬保育② ゲーム 第7回(演習) 模擬保育③ 集団遊び 第8回(演習) 模擬保育④ 制作 第9回(演習) 直前指導・実習後の報告会の内容について 第10回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】心に寄り添う絵本(心のケアと絵本の可能性) 第11回(講義・演習) 実習の振り返り&報告会の資料作り 第12回(演習) 実習報告会① グループ発表 0,1,2歳児 第13回(演習) 実習報告会② グループ発表 3歳児 第14回(演習) 実習報告会③ グループ発表 4歳児 第15回(演習) 実習報告会④ グループ発表 5歳児 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。 ※提出課題は返却し、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
--------------	--

ナンバリング	PEEM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	37600			
科目	3760 保育・教職実践演習（幼稚園）			授業種別	週間授業			
科目責任者	朝元 尊			単位数	2 単位			
担当教員	朝元 尊、岡本 雅子、加藤 克俊、大矢 龍弥							
授業概要	これまでに行った実習体験をもとに、実習内容の振り返りを行う。その中で自らの保育者としての資質の習得、また、保育者としての資質の向上を目指す。さらに保育現場や保育者の役割、子どもに対する責任について理解を深める。 ★この科目は、主に該当授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・演習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	保育を科目横断的な視点で持って子どもの成長を見つめることができ、保育者としての使命感・責任感を持ち、さらに専門的な知識や技能を意欲的に習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 保育に関する現代的課題について現状分析考察・検討し、説明できる。 2. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、自己課題を解決できる。 3. 2 年間の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技術を統合できる。							

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを、レポートや課題、発表などで総合的に評価する。劣悪な授業態度は減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	30%	授業への参加度や、課題への取り組み方や内容が適切かを評価する。
発表内容、学生自身の自己理解、レポート提出	30%	課題に対する達成度・理解度及び、適切な記述になっているかを確認する。
ポートフォリオファイルの作成・提出	40%	保育を科目横断的な視点で捉え、知識・技能を習得したかを確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業前までに前授業の復習・確認を行う（第 2～15 回／1 時間程度） 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成する（第 1～15 回／1 時間程度） 3. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加する（第 2～15 回／1 時間程度） 4. ポートフォリオファイルの作成（第 1～15 回／1 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）ガイダンス・幼稚園実習に向けての自己課題の確認・指導案の作成 第 2 回（演習）子ども姿をとって幼児理解を深める 第 3 回（演習）実習の振り返りおよび自己評価と今後の課題 第 4 回（演習）自己課題の把握と克服のために（自己分析とディスカッション） 第 5 回（講義・演習）領域「環境」の事例検討 第 6 回（講義・演習）領域「表現」「健康」の事例検討（運動会での身体表現） 第 7 回（講義・演習）領域「表現」の事例検討（劇あそびの制作過程） 第 8 回（講義・演習）行事の計画 第 9 回（講義・演習）行事の運営・実践 第 10 回（演習）保育における教材研究について①（お手玉の実例） 第 11 回（演習）保育における教材研究について②（幼稚園・保育園における実例） 第 12 回（講義）保護者との連携（保護者対応・事例から学ぶ） 第 13 回（演習）幼稚園・保育園・認定こども園における小学校との連携 第 14 回（演習）幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園こども要録について 第 15 回（演習）保育者の社会的責任と使命 ―危機管理を通して― ※各回の最初に前回の内容に関する確認・解説を行うことでフィードバックする。また、講義内で授業内容の学びについてレポートし提出する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEEM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	37601			
科目	3760 保育・教職実践演習（幼稚園）			授業種別	週間授業			
科目責任者	朝元 尊			単位数	2 単位			
担当教員	朝元 尊、岡本 雅子、加藤 克俊、大矢 龍弥							
授業概要	これまでに行った実習体験をもとに、実習内容の振り返りを行う。その中で自らの保育者としての資質の習得、また、保育者としての資質の向上を目指す。さらに保育現場や保育者の役割、子どもに対する責任について理解を深める。 ★この科目は、主に該当授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・演習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	保育を科目横断的な視点で持って子どもの成長を見つめることができ、保育者としての使命感・責任感を持ち、さらに専門的な知識や技能を意欲的に習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 保育に関する現代的課題について現状分析考察・検討し、説明できる。 2. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、自己課題を解決できる。 3. 2 年間の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技術を統合できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814222	
保育所保育指針 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814239	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示		フレーベル館	149	9784577814246	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを、レポートや課題、発表などで総合的に評価する。劣悪な授業態度は減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
授業・課題への取り組み	30%	授業への参加度や、課題への取り組み方や内容が適切かを評価する。
発表内容、学生自身の自己理解、レポート提出	30%	課題に対する達成度・理解度及び、適切な記述になっているかを確認する。
ポートフォリオファイルの作成・提出	40%	保育を科目横断的な視点で捉え、知識・技能を習得したかを確認する。

受講条件	(幼・保) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに前授業の復習・確認を行う(第 2~15 回／1 時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成する(第 1~15 回／1 時間程度) 3. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加する(第 2~15 回／1 時間程度) 4. ポートフォリオファイルの作成(第 1~15 回／1 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義・演習) ガイダンス・幼稚園実習に向けての自己課題の確認・指導案の作成 第 2 回(演習) 子ども姿をとおして幼児理解を深める 第 3 回(演習) 実習の振り返りおよび自己評価と今後の課題 第 4 回(演習) 自己課題の把握と克服のために(自己分析とディスカッション) 第 5 回(講義・演習) 領域「環境」の事例検討 第 6 回(講義・演習) 領域「表現」「健康」の事例検討(運動会での身体表現) 第 7 回(講義・演習) 領域「表現」の事例検討(劇あそびの制作過程) 第 8 回(講義・演習) 行事の計画 第 9 回(講義・演習) 行事の運営・実践 第 10 回(演習) 保育における教材研究について①(お手玉の実例) 第 11 回(演習) 保育における教材研究について②(幼稚園・保育園における実例) 第 12 回(講義) 保護者との連携(保護者対応・事例から学ぶ) 第 13 回(演習) 幼稚園・保育園・認定こども園における小学校との連携 第 14 回(演習) 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園こども要録について 第 15 回(演習) 保育者の社会的責任と使命 一危機管理を通してー ※各回の最初に前回の内容に関する確認・解説を行うことでフィードバックする。また、講義内で授業内容の学びについてレポートし提出する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEEM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	37650			
科目	3765 総合表現			授業種別	週間授業			
科目責任者	井中 あけみ			単位数	2 単位			
担当教員	井中 あけみ、宮城嶋 遥加、山上 京夏							
授業概要	本講は、ミュージカル創作活動を学生たちが企画・構成し、様々な角度から表現活動を考察し創り上げていくものである。領域「表現」を根底に、言語表現だけでなく、身体表現・造形表現・音楽表現を融合した表現発表を目指していく。集団活動であることから、各自が得意分野を活かし、身体、言語、造形、音楽の表現活動を総合的に展開する。また、アクティブラーニング(ディスカッション等)を適宜活用し、相互性や信頼関係の構築、チームの一員としての適切な行動力を身に付けることを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	◎				
到達目標	1. 子どもの様々な表現を模索し、企画、構成を考察することができる。 2. 身体・言葉・音楽・造形分野を融合活用し、子どもに対し印象的な表現を実践することができる。 3. 舞台環境（照明・音響）の効果を知り、より質の高い表現を追求し高めていくことができる。 4. 集団行動におけるルールやマナーを学び、状況に応じた協調性とコミュニケーション能力を身に付ける。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針 平成29年告示					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜参考となる資料を配布する。
------------------------------	-----------------

成績評価	集団での目標達成を目指す表現活動であることから、個々の役割に責任を持ち、コミュニケーションを円滑に取り、協働による表現力を評価する。また、適宜指示される課題について、積極的に取り組み学修できるかを評価する。なお、グループ活動への無責任な態度は減点の対象となることもある。	
評価項目	割合	評価基準
役割への責任感	50%	分担された役割を、責任を持って遂行しているかを評価する。
協調性とコミュニケーション	25%	他者の意見を尊重し、協調性を持って円滑にコミュニケーションを図れているかを評価する。
総合的な表現力	25%	作品全体の構成やテーマを把握し、調和のとれた統一感のある表現ができているかを評価する。

受講条件	履修希望者数が多い場合は、GPA 等を参考に選抜することがある。
事前・事後学修 (内容・時間)	毎回の授業内容についての復習、確認を行うこと (第 2~30 回 /0.5 時間程度) 授業内で指示する内容について、各自で調べたり、製作して授業に参加すること (第 2~30 回 /1 時間)

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時には、滑舌や発声練習、身体の動きについてのウォーミングアップを行う。また、進捗状況や今後の計画を全員で共有、確認する。 本授業は以下の教員によるチームティーチングで実施する。 井中：全体統括（総合指導） 宮城嶋：演技指導・身体表現・衣装製作指導 山上：音楽・発声・造形指導 第1回 ガイダンス / 「創作ミュージカル発表」の概要説明 第2回（講義・演習）表現プログラムの考案と目標設定（ディスカッション） 第3回（講義・演習）テーマおよび構成概要設定（ディスカッション・グループワーク） 第4回（講義・実技）各担当分野の役割分担とプロジェクト計画の策定（ディスカッション） 各係（脚本・衣裳・大道具・小道具・製作物・身体活動振付）（ディスカッション、グループワーク） 第5回（演習・実技）テーマに基づく意見交換（ディスカッション）、舞台美術（衣裳・大道具・小道具・背景画）のプランニング（ディスカッション、グループワーク） 第6回（演習・実技）使用楽曲の選定・構成案、身体表現の構成（ディスカッション、グループワーク） 第7回（講義・実技）オリジナル台本の確認（ディスカッション、グループワーク） 第8回（講義・演習・実技）キャスティング決定と役柄の理解（ディスカッション、グループワーク） 第9回（講義・演習・実技）幕毎による製作物（道具、背景、衣装）のデザイン考案と試作（ディスカッション、グループワーク） 第10回（演習・実技）衣裳・大道具・小道具の製作、身体活動振付の創作（ディスカッション、グループワーク） 第11回（演習・実技）演技練習（役柄の性格分析）、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第12回（講義・演習）演技練習（表情・表現）、製作物と脚本の調整（ディスカッション、グループワーク） 第13回（演習・実技）演技練習（動作・視線）、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第14回（演習・実技）演技練習（動きと音楽の連動）、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第15回（演習・実技）演技練習（音楽と言葉と動きの統合）、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第16回（演習・実技）場面別稽古①、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第17回（演習・実技）場面別稽古②、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第18回（演習・実技）場面別稽古③、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第19回（演習・実技）全体練習（構成の概観・通し）、大道具・小道具・衣装製作（ディスカッション、グループワーク） 第20回（演習・実技）総合練習（立ち位置・表情・声量確認）（ディスカッション、グループワーク） 第21回（演習・実技）総合練習（セリフの抑揚・滑舌の指導）（ディスカッション、グループワーク） 第22回（演習・実技）総合練習（幕間転換・出ハケの確認）（ディスカッション、グループワーク） 第23回（講義・演習・実技）総合練習（効果音・音響との合わせ）（ディスカッション、グループワーク） 第24回（講義・演習・実技）総合練習（身体表現の振り付け確認）（ディスカッション、グループワーク） 第25回（演習・実技）総合練習（役柄ごとのフォーメーション確認）（ディスカッション、グループワーク） 第26回（演習・実技）総合練習（道具の搬入出・動線確認）（ディスカッション、グループワーク） 第27回（演習・実技）総合練習（照明・音響を踏まえた総合リハーサル）（ディスカッション、グループワーク） 第28回（演習・実技）総合練習、最終リハーサル 第29回 本番「コンサート」 第30回 事後学習（撤収・片付け・レポート作成・振り返り） ※但し、受講学生の習熟度、また社会環境の変化などにより授業計画を変更することもある。 コンサートの会場について、学内あるいは学外での施設で実施することもある。 ※ミュージカルコンサートでは、本学の「幼児教育・保育科」「経営学科」「理学療法学科」との三学科連携活動を行う可能性がある。 ※課題については、授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対しコメントし、フィードバックを行う。
ナンバリング	PEDM2019

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期、2027 年度春学期				授業コード	37661		
科目	3766 子どもと絵本				授業種別	週間授業		
科目責任者	井原 淑雅				単位数	2 単位		
担当教員	井原 淑雅							
授業概要	この科目は、認定絵本士の資格を取得するために設置されている。全ての科目が、将来認定絵本士として、子どもの読書活動を地域で支えるための素地を作るものである。授業には能動的に参加し、ゲストスピーカーの方々との交流も積極的に行ってもらいたい。ゲストスピーカーには、絵本作家・絵本の編集者・児童文化財のスペシャリストをはじめ、地域で子どもの読書活動を長年支えてきた方々をお招きしている。全ての方のお話からより多くを自ら学び取ろうとする姿勢が望まれる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○				
到達目標	この科目は、認定絵本士養成を目的とした科目であり、絵本についての深い知識と確かな実践力を身に付けることを目標としている。様々な絵本作品に触れることは勿論、絵本の周辺に在る児童文化財についても習熟していく。この科目を中心に、認定絵本士養成カリキュラムの全ての課題を実践し、子ども達の豊かな読書活動を企画・指導していける保育者を目指すものである。 1. さまざまな絵本作品に触れ、保育の中での絵本の取り扱い方を身に付ける。 2. 絵本やその他の児童文化財をめぐる環境を理解し、絵本を含む児童文化財の意義が分かる。 3. 童話や文学作品へと子ども達を導く架け橋として、絵本を用いることが出来る。 4. 認定絵本士の役割と意義を理解し、実践出来る。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部 会認定絵本士養成講座テキスト 作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	授業内外で行っている課題の達成度 30%、意見発表 10%、ゲストスピーカーによる講義・実習への理解と 応答・振り返りを 60%として評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題の達成度	30%	ゲストスピーカーの講義への理解度を確認する。
授業理解と応答、振り返り	60%	ゲストスピーカーの講義で知見を深めたか、学んだことを作品として残すことができたかを評 価する。
意見発表	10%	講師からの問いかけに対して、意見を述べることができたかを判断する。

受講条件	認定絵本士養成講座科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前にテーマについて下調べをしておく。(第2回～14回・1時間×13回) 2. 毎授業後にゲストスピーカーから得た知見をまとめて振り返りを行う。(第2～14回/1時間×13回) 3. 課題が提出された際には丁寧な仕上げを心がけて課題を行う。(1時間×4回) 4. ゲストスピーカーから紹介された絵本を各回に少なくとも2冊読み、記録をとる。(1時間×13回)

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】オリエンテーション 第2回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う①(はじめての絵本との出会 い) 第3回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う③(図書館等での出会い) 第4回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う④(書店での出会い) 第5回 (講義、実技)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術③ (絵本コンシェルジュ術) 第6回 (講義、実技)【認定絵本士養成講座該当科目】おはなし会の手法①(おはなし会を 開こう)(認定講座用課題有) 第7回 (講義、実技)【認定絵本士養成講座該当科目】おはなし会の手法②(おはなし会の テクニック)(認定講座用課題有) 第8回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の持つ力(さまざまな角度から絵本を 見る) 第9回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本のある空間(絵本のある望ましい空間 とは) 第10回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】ホスピタリティに学ぶ (人を楽しませる為の手法を学ぼう) 第11回 (講義、演習)【認定絵本士養成講座該当科目】大人の心を豊かにする絵本 (人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を)(認定講座用課題有) 第12回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】子供の心をとらえるもの (子供の心をとらえて離さないもの) 第13回 (講義、実技)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本が生まれる現場①(作家の感性 に触れる)(認定講座用課題有) 第14回 (講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本が生まれる現場②(絵本の編集) 第15回 (講義、演習)【認定絵本士養成講座該当科目】ディスカッション (認定絵本士としての今後の活動)(グループワークとディスカッション) ※全ての回が、認定絵本士養成講座科目であるため、出欠の基準は通常の講義よりも厳しい。 ※ゲストスピーカーの都合により実施回が前後することがある。 ※課題については、提出後にコメントし、助言する。 ※受講生の人数によっては、第1・15回目はクラスを分割して実施することがある。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	38081
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 克俊	単位数	1 単位
担当教員	加藤 克俊、宮城嶋 遥加		
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力（レポートの書き方、プレゼンテーション技能など）の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○
到達目標	1. 学習に必要な基礎力を形成する。 2. 社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3. 保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集	中央法規出版	1800	9784805882252	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解したうえで、課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。
プレゼンテーション	20%	期日を守り、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。
セミナーノート	40%	期日を守り、適切な内容・記述で、わかりやすく丁寧にまとめられたか。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回／0.5時間程度) 2. 『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回／0.5時間程度) 3. プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回／0.5時間程度) 4. 新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回／0.5時間程度) 5. セミナーノートを作成する。(第2～15回／0.5時間程度) 6. ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス(幼児教育・保育科の方針、短大生活の目標、学生生活における時間管理) 第2回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術) 第3回(講義・演習・実技) マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装) 第4回(講義・演習) 建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム) 第5回(講義・演習) 新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培) 第6回(講義・演習・実技) マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」 第8回(演習) 子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定) 第9回(演習) 子どもの遊びを学ぶ①(sozo わいワクひろばに向けた活動) 第10回(演習) 子どもの遊びを学ぶ②(sozo わいワクひろばクラス企画) 第11回(演習) 学力チェックテスト(数) 第12回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編 第13回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編 第14回(講義・演習) 身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク) 第15回(講義・演習) まとめと自己評価、セミナーノートの提出 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※基礎学力の確認・自主学習は、スタサブを利用する。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	--

ナンバリング	PEFM1018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	38085
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
科目責任者	朝元 尊	単位数	1 単位
担当教員	朝元 尊		
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力（レポートの書き方、プレゼンテーション技能など）の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○
到達目標	1. 学習に必要な基礎力を形成する。 2. 社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3. 保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。		

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集	中央法規出版	1800	9784805882252	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解したうえで、課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。
プレゼンテーション	20%	期日を守り、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。
セミナーノート	40%	期日を守り、適切な内容・記述で、わかりやすく丁寧にまとめられたか。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回／0.5時間程度) 2. 『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回／0.5時間程度) 3. プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回／0.5時間程度) 4. 新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回／0.5時間程度) 5. セミナーノートを作成する。(第2～15回／0.5時間程度) 6. ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス（幼児教育・保育科の方針、短大生活の目標、学生生活における時間管理） 第2回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術） 第3回（講義・演習）マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装） 第4回（講義・演習）建学の精神（学長の講話）（学部学科横断1年次教育プログラム） 第5回（講義・演習）新聞を読む（新聞記事レポートの作成方法）、栽培活動（朝顔の栽培） 第6回（講義・演習・実技）マナー②（雑巾、箸の使い方）（グループワーク） 第7回（講義・演習・実技）マナー③（食事の作法・箸使い・弁当箱を包む）「お弁当の日」 第8回（演習）子どもの環境を学ぶ（豊橋市視聴覚教育センター予定） 第9回（演習）子どもの遊びを学ぶ①（sozo わいワクひろばに向けた活動） 第10回（演習）子どもの遊びを学ぶ②（sozo わいワクひろばクラス企画） 第11回（演習）学力チェックテスト（数） 第12回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）準備編 第13回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）実践編 第14回（講義・演習）身近な危険について考える（危険予知トレーニング）（グループワーク） 第15回（講義・演習）まとめと自己評価、セミナーノートの提出 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	38086		
科目	3808 保育者のライフデザイン			授業種別	週間授業		
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位		
担当教員	岡本 雅子、山上 京夏						
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力（レポートの書き方、プレゼンテーション技能など）の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1. 学習に必要な基礎力を形成する。 2. 社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3. 保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ 編集	中央法規出版	1800	9784805882252	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解したうえで、課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。
プレゼンテーション	20%	期日を守り、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。
セミナーノート	40%	期日を守り、適切な内容・記述で、わかりやすく丁寧にまとめられたか。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修（内容・時間）	1.『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回／0.5時間程度) 2.『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回／0.5時間程度) 3.プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回／0.5時間程度) 4.新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回／0.5時間程度) 5.セミナーノートを作成する。(第2～15回／0.5時間程度) 6.ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス(幼児教育・保育科の方針、短大生活の目標、学生生活における時間管理) 第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術) 第3回(講義・演習) マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装) 第4回(講義・演習) 建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム) 第5回(講義・演習) 新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培) 第6回(講義・演習・実技) マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」 第8回(演習) 子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定) 第9回(演習) 子どもの遊びを学ぶ①(sozo わいわくひろばに向けた活動) 第10回(演習) 子どもの遊びを学ぶ②(sozo わいわくひろばクラス企画) 第11回(演習) 学力チェックテスト(数) 第12回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編 第13回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編 第14回(講義・演習)身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク) 第15回(講義・演習)まとめと自己評価、セミナーノートの提出 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	38089
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
科目責任者	大矢 龍弥	単位数	1 単位
担当教員	大矢 龍弥		
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力（レポートの書き方、プレゼンテーション技能など）の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. 学習に必要な基礎力を形成する。 2. 社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3. 保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。		

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
認定絵本士養成講座テキスト	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集	中央法規出版	1800	9784805882252	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解したうえで、課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。
プレゼンテーション	20%	期日を守り、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。
セミナーノート	40%	期日を守り、適切な内容・記述で、わかりやすく丁寧にまとめられたか。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修（内容・時間）	1. 『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回／0.5時間程度) 2. 『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回／0.5時間程度) 3. プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回／0.5時間程度) 4. 新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回／0.5時間程度) 5. セミナーノートを作成する。(第2～15回／0.5時間程度) 6. ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス（幼児教育・保育科の方針、短大生活の目標、学生生活における時間管理） 第2回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術） 第3回（講義・演習）マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装） 第4回（講義・演習）建学の精神（学長の講話）（学部学科横断1年次教育プログラム） 第5回（講義・演習）新聞を読む（新聞記事レポートの作成方法）、栽培活動（朝顔の栽培） 第6回（講義・演習・実技）マナー②（雑巾、箸の使い方）（グループワーク） 第7回（講義・演習・実技）マナー③（食事の作法・箸使い・弁当箱を包む）「お弁当の日」 第8回（演習）子どもの環境を学ぶ（豊橋市視聴覚教育センター予定） 第9回（演習）子どもの遊びを学ぶ①（sozo わいワクひろばに向けた活動） 第10回（演習）子どもの遊びを学ぶ②（sozo わいワクひろばクラス企画） 第11回（演習）学力チェックテスト（数） 第12回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）準備編 第13回（講義・演習）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）実践編 第14回（講義・演習）身近な危険について考える（危険予知トレーニング）（グループワーク） 第15回（講義・演習）まとめと自己評価、セミナーノートの提出 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	38091			
科目	3809 保育者のキャリアデザインI			授業種別	週間授業			
科目責任者	加藤 克俊			単位数	1 単位			
担当教員	加藤 克俊、宮城嶋 遥加							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2. 人としてどのように他者とかかわるべきかを身に付ける。 3. 社会人としての素養を身に付ける。 4. 地域貢献の意義を知り、活動する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	
認定絵本士養成講座テキスト	子どもの生活 科学研究会／ 編	合同出版	1942	9784772601900	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を 50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を 50%として、総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
授業や実習への参加度、取り組み方	30%	授業で実施する協働作業への参加度、作品等の課題の提出状況。
キャリアデザインノートを含む課題の達成度	40%	期日を守り、指定された課題を理解し、適切な内容・方法で取り組めたか。
確認テスト	30%	指定された課題に対する理解度を確認する。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 新聞記事(5大紙)を読んだレポート課題(第2回～11回／1時間程度) 2. 課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回／0.5時間程度) 3. 課題テストの復習(第1回～14回／0.5時間程度) 4. 「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回／0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野①) 第2回(講義・演習・実技) 手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習) sozo わいワクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習) sozo わいワクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野②) 第5回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備①)(グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技) sozo わいワクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習、実技) 手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野②) 第9回(演習、実技) 手のしごと③ sozo 展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習、実技) 冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義、演習) 人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習) 本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習、実技) 手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義、演習) 地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義、演習) まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	38095			
科目	3809 保育者のキャリアデザインI			授業種別	週間授業			
科目責任者	朝元 尊			単位数	1 単位			
担当教員	朝元 尊							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2. 人としてどのように他者とかかわるべきかを身に付ける。 3. 社会人としての素養を身に付ける。 4. 地域貢献の意義を知り、活動する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を 50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を 50%として、総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
実習や課題への参加度、取り組み方	30%	授業で実施する協働作業への参加度、作品等の課題の提出状況。
キャリアデザイン・ノートを含む課題の達成度	40%	期日を守り、指定された課題を理解し、適切な内容・方法で取り組めたか。
確認テスト	30%	指定された課題に対する理解度を確認する。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 新聞記事(5大紙)を読んだレポート課題(第2回～11回／1時間程度) 2. 課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回／0.5時間程度) 3. 課題テストの復習(第1回～14回／0.5時間程度) 4. 「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回／0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野①) 第2回(講義・演習・実技) 手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習) sozo わいワクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習) sozo わいワクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野②) 第5回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備①)(グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技) sozo わいワクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技) 手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野②) 第9回(演習・実技) 手のしごと③ sozo 展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習・実技) 冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習) 人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習) 本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技) 手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習) 地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習) まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	38096			
科目	3809 保育者のキャリアデザインI			授業種別	週間授業			
科目責任者	岡本 雅子			単位数	1 単位			
担当教員	岡本 雅子、山上 京夏							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2. 人としてどのように他者とかかわるべきかを身に付ける。 3. 社会人としての素養を身に付ける。 4. 地域貢献の意義を知り、実践する。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度、確認テストを総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
授業や実習への参加度、取り組み方	30%	授業で実施する協働作業への参加度、作品等の課題の提出状況。
キャリアデザインノートを含む課題の達成度	40%	期日を守り、指定された課題を理解し、適切な内容・方法で取り組めたか。
確認テスト	30%	指定された課題に対する理解度を確認する。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修(内容・時間)	1. 新聞記事(5大紙)を読むでのレポート課題(第2回～11回／1時間程度) 2. 課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回／0.5時間程度) 3. 課題テストの復習(第1回～14回／0.5時間程度) 4. 「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回／0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野①) 第2回(講義・演習・実技) 手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習) sozo わいワクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習) sozo わいワクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野②) 第5回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備①)(グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技) sozo わいワクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(演習・実技) sozo わいワクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技) 手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野②) 第9回(講義・演習・実技) 手のしごと③ sozo 展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習) 冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習) 人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習) 本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技) 手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習) 地域を学ぶ(豊橋市との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習) まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	38099
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	大矢 龍弥	単位数	1 単位
担当教員	大矢 龍弥		
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2. 人としてどのように他者とかかわるべきかを身に付ける。 3. 社会人としての素養を身に付ける。 4. 地域貢献の意義を知り、実践する。		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新訂版これだけは身につけたい新・保育者の常識 67	谷田貝公昭	一藝社	1900	9784863592728	
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと	子どもの生活 科学研究会／編	合同出版	1942	9784772601900	
わかる・書ける・使える保育の基本用語 これだけは知っておきたい	長島和代／編 石丸るみ／〔著〕 亀崎美沙子／〔著〕 木内英実／〔著〕	中央社	1000	9784907270049	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度、確認テストを総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
授業や実習への参加度、取り組み方	30%	授業で実施する協働作業への参加度、作品等の課題の提出状況。
キャリアデザインノートを含む課題の達成度	40%	期日を守り、指定された課題を理解し、適切な内容・方法で取り組めたか。
確認テスト	30%	指定された課題に対する理解度を確認する。

受講条件	(卒) 必修
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 新聞記事 (5大紙) を読んでのレポート課題 (第 2 回～ 11 回／1 時間程度) 2. 課題テスト (漢字・一般教養) の準備学習 (第 2 回～ 12 回／ 0.5 時間程度) 3. 課題テストの復習 (第 1 回～ 14 回／ 0.5 時間程度) 4. 「キャリアデザインノート」の作成 (第 1 回～ 15 回／ 0.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力 (地理分野①) 第2回(講義・演習・実技) 手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力 (生物分野) 第3回(講義・演習) sozo わいワクひろば (企画)、社会人基礎力 (生活分野①) 第4回(講義・演習) sozo わいワクひろば (立案) (グループワーク)、社会人基礎力 (生活分野②) 第5回(講義・実技) sozo わいワクひろば (準備①) (グループワーク)、社会人基礎力 (数学分野) 第6回 (講義・実技) sozo わいワクひろば (準備②) (グループワーク) 第7回 (演習・実技) sozo わいワクひろば (地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技) 手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力 (地理分野②) 第9回(講義・演習・実技) 手のしごと③ sozo 展「花火」の制作 (グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習) 冠婚葬祭のマナー (キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習) 人権について学ぶ、実習報告会 (1・2年交流・グループワーク) 第12回 (演習) 本学の伝統行事を学ぶ (青い空フェスティバルの見学) (1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技) 手のしごと③「様々な道具を使う」 (グループワーク) 第14回(講義・演習) 地域を学ぶ (豊橋市との連携) (グループワーク) 第15回(講義・演習) まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFM1019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期		授業コード		38121		
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ		授業種別		週間授業		
科目責任者	宮城嶋 遥加		単位数		2 単位		
担当教員	宮城嶋 遥加						
授業概要			この科目は、春学期においては演技・パフォーマンスに関する基礎的な知識や技術の獲得を目指し、秋学期はそれを基に未就学児向けの表現ワークショップを構築し実践することを目的とする。知覚した情報を言語化しそれを行動や身体的な表現につなげる即興的演技の手法を体得することで、保育者に必要な即興力・対応力を身につけることを目指す。				
ディプロマポリシー							
ディプロマポリシーとの関連性							
到達目標			1. 演技・パフォーマンスに関する基礎的な知識と技術を獲得する 2. 日常における様々な事象に対する感性をひらく 3. 知覚した情報をもとに行動しパフォーマンスへとつなげる 4. 獲得した自己の感性を他者と共有し、他者を尊重しながらコミュニケーションがとれるようになる。				

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	・適宜、必要な資料を配布する ・Classroom などオンラインのミーティングツールの使用ができる ICT 機器（PC、タブレット、スマートホンなど）を用意すること
------------------------------	--

成績評価	コメントペーパー、各授業への取り組み方、実技への取り組み方をみて総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題提出（コメントペーパー）	60%	記述内容から学びを自身の中で定着化できたか、次への課題を明確にできたか確認する。
各授業への取り組み方	20%	各授業で行うワークに対して主体的な取り組みができたかを評価する
実技への取り組み方	20%	主体的な取り組みができたか、演技に関する技術を獲得できたかを評価する

受講条件	（卒）必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（毎回 2 時間程度） 毎回の授業計画にそって復習をすること。各授業で学んだ内容が実社会にどのように生かせるか日頃から考え、行動すること。 ICT を活用した授業実施の場合も、予習・復習は対面での実施時と可能な限り同内容とする。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 （講義）ガイダンス 第 2 回 （演習）自己紹介 第 3 回 （講義）就職試験対策①（常識模擬試験） 第 4 回 （実習）劇場見学 第 5 回 （演習）劇場見学振り返り 第 6 回 （実技）舞台での演技① 第 7 回 （演習）豊橋の景観に関するワークショップ（豊橋市との連携） 第 8 回 （講義）就職試験対策②（保育専門模擬試験） 第 9 回 （講義）舞台での演技② 第 10 回 （実習）学外研修（豊橋まち歩き） 第 11 回 （講義）演劇の歴史 第 12 回 （実技・演習）ミニパフォーマンスの創作① 第 13 回 （実技・演習）ミニパフォーマンスの創作② 第 14 回 （実技・演習）ミニパフォーマンスの創作③ 第 15 回 （実技）ミニパフォーマンスの発表会 第 16 回 （実習）防災教育（バッククッキング） 第 17 回 （講義）後期の授業方針についてのガイダンス 第 18 回 （演習）身近なものからオノマトベを集める 第 19 回 （実技・演習）オノマトベを用いた身体表現のワークショップ 第 20 回 （実技）オノマトベを用いた表現の探究① 第 21 回 （実技）オノマトベを用いた表現の探究② 第 22 回 （演習）オノマトベを用いたストーリーを考える① 第 23 回 （演習）オノマトベを用いたストーリーを考える② 第 24 回 （演習）1, 2 年交流活動 第 25 回 （実技）表現ワークショップの構築① 第 26 回 （実技）表現ワークショップの構築② 第 27 回 （実技）表現ワークショップの実践 第 28 回 （演習）表現ワークショップの振り返り 第 29 回 （講義）消費者教育（マネープラン） 第 30 回 （講義）就職直前指導講座 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※対面での実施を原則とするが、講師及び受講生の状況に応じて ICT（Classroom などオンラインのミーティングツール）を活用した同時双方向型の授業に変更する可能性がある。その場合は講師から事前に告知をする。 ※第 4 回劇場見学、第 1 0 回学外研修については、受講生でスケジュールを合わせ、授業時間外での実施とする。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	38125			
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	井中 あけみ			単位数	2 単位			
担当教員	井中 あけみ							
授業概要	この科目は、現代社会のニーズに対応した「養護・教育」を担う保育者としての資質能力の形成を目指すものである。子どもたちの発達段階に広い視野を持って対応できる保育士・幼稚園教諭・保育教諭を育成していくために、個々の表現力や集団での協調性を必要とする表現活動を実践する。 本講では、学生同士のアクティブラーニングを主とした「子どもの音楽表現活動」の考察・実践・活動に取り組む。さらに地域の子育て支援施設等と連携し、子どもや保護者との関りを現場で体験するフィードバックを行う。地域社会での協同的活動を実践することから、人との関りについての向上心も身に付けていくことを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○				
到達目標	1. 保育に使用する教材について考察し、目的に応じた作品を製作する。 2. 自作保育教材について、子どもへの表現方法を創意工夫し、実践することができる。 3. 自然音や環境音への気づきを促し、音や音楽をきっかけとした保育表現活動を展開できる。 4. アクティブラーニングやグループワークなどを実践することで互いの表現を高め合い、他者と協働する力を身に付ける。 5. 音楽表現を通した主体的活動への視野を広げ、多様性を持って活動することができる。							

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜参考資料を配布する。
-------------------------------	--------------

成績評価	子どもとの関りに対しての表現活動方法、実技表現及び創作表現活動など、自発性を持って考察・実践しているかを評価する。さらに表現方法に対する集団での行動力、協調性を活かした学生同士での子どもとの関わり方の評価を行う。	
評価項目	割合	評価基準
課題 (エプロンシアター等の保育教材) 製作と発表	30%	製作方法や製作物への表現方法などに対して評価する。
音を使用するあそびについての提案や行動力	40%	音を活用した表現への考察力や表現力を評価する。
グループ活動に対する責任感	30%	自分の役割担当に対応しているか、周りへの気遣いができているかを評価する。

受講条件	(卒) 必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること
事前・事後学修 (内容・時間)	1. エプロンシアターに必要な材料、部分的な製作を事前に準備し、授業で完成を行う。また適切な表現発表ができるように各自で練習を行う。(第 1 回～ 6 回 /1.5h 程度) 2. 子どもたちへの表現活動について、各自が担当する活動を授業外で確認練習する。(第 8 ～ 11 回、13 回～ 14 回、22 回、23 回 / 0.5h 程度) 3. 現場経験についての内容を振り返り、レポート作成し提出する。(第 27 回、28 回 / 1h 程度)

授業の実施方法と授業計画	毎回の授業で課題としている実技表現を確認し練習を行う (3 回の授業につき 2 回程度)。さらにそこで発表された創作表現内容・活動について、全員でのディスカッションを行う。これらの内容について、レポートを提出することを課題とする。その後担当教員が講評を行い、総合的表現活動への完成を目指す。 第 1 回 (講義・演習・実技) ガイダンス (ゼミの活動内容の説明等)、エプロンシアター製作 第 2 回 (演習・実技) エプロンシアター製作の確認と表現内容のプレゼンテーション 第 3 回 地域貢献活動①子育て支援施設でボランティア活動「親子との関りについて」の経験 (地域連携活動) 第 4 回 (演習・実技) エプロンシアターの発表① (反省・意見交換) (ディス カッション、グループワーク) 第 5 回 (演習・実技) エプロンシアターの発表② (反省・意見交換) (ディス カッション、グループワーク) 第 6 回 (演習・実技) エプロンシアターの発表③ (反省・意見交換) (ディス カッション、グループワーク) 第 7 回 豊橋の景観に関するワークショップ (豊橋市都市計画課との連携) 第 8 回 (演習・実技) 乳児の音遊び活動について「音楽的表現を考える」(ディスカッション) 第 9 回 (演習・実技) 乳児の音遊び活動について「子どもへの表現活動内容」(ディス カッション、グループワーク) 第 10 回 (演習・実技) 乳児の音遊び活動について「子どもと親しむ製作物作成」(ディス カッション、グループワーク) 第 11 回 (演習・実技) 乳児の音遊び活動について「子育て支援施設での表現発表リハーサル」 第 12 回 (実技) 地域貢献活動②「手遊び、身体の動きを使用した音楽表現活動発表」(地域支援施設) 第 13 回 (実技・演習) 音遊びや身体表現発表について「保育者の表現活動を考える」(プレゼンテーション) 第 14 回 (実技・演習) 音遊びや身体表現発表について「テーマに沿った創作活動」(ディス カッション、グループワーク) 第 15 回 (演習) 地域貢献活動②「キッズドリーム (保育仕事紹介イベント)」(地域連携活動) 第 16 回 (実技・演習) 防災教育 (バッククッキング) 第 17 回 (実技)「創作楽器」についてのグループでの製作考察 (ディス カッション、グループワーク) 第 18 回 (実技・演習)「音遊びと創作楽器製作との関連性」について (グループワーク) 第 19 回 (実技・演習)「創作楽器」製作① 第 20 回 (実技・演習)「創作楽器」製作② 第 21 回 (実技・演習)「創作楽器」製作③ 第 22 回 (実技・演習)「創作楽器」についてのレポート作成 第 23 回 (実技・演習)「創作楽器」についてのレポート作成・提出 第 24 回 (演習) 1・2 年生交流活動 第 25 回 (実技・演習) 地域貢献活動「景観マップ表現遊び活動について考察」(グループワーク) 第 26 回 (実技・演習) 地域貢献活動「景観マップ表現遊び活動について製作」(グループワーク) 第 27 回 (実技・演習) 地域貢献活動③「景観マップ表現遊び」子どもと活動実践 (地域との連携) 第 28 回 (実技・演習) 地域貢献活動④「景観マップ表現遊び」子どもと活動実践 (地域との連携) 第 29 回 (講義) 消費者教育 (マネープラン講座) 第 30 回 (演習・講義) 就職直前対応講座 ※ただし、受講学生の習熟度によることや、地域連携施設の日程変更などで、授業計画を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	PEFM2020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期		授業コード	38128				
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ		授業種別	週間授業				
科目責任者	加藤 克俊		単位数	2 単位				
担当教員	加藤 克俊							
授業概要		この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つために必要な資質を形成する。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭、保育教諭となるための実践の場と捉え、学ぶ。また、地域との関わりや実践の中で、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。自分の考察を論理立て、思考の手順を理解し、テーマについて深めていく。さらに、就職試験対策の指導が適宜実施され、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なう。						
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	○	○			
到達目標		1. 子どもの理解を大切にし、子どもの姿に即した活動を考えることができる。 2. さまざまな環境から保育に必要な技術を活かし、実践することができる。 3. 活動を通して何を学んだのか、自身の中で振り返ることができる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜資料を用いる。
------------------------------	-----------

成績評価	ゼミでの研究活動 60%、課題提出 40% で評価を行う。	
評価項目	割合	評価基準
ゼミでの研究活動	60%	地域での活動に向け、協働的な取り組みができたか。より良い実践となるよう個々が努力や工夫ができたか。
課題提出	40%	活動ごとに振り返りをし、提出物の記述内容から学びを定着できたか、次への課題を明確にできたか確認する。

受講条件	(卒) 必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回 2 時間程度) この授業では児童画展開催が大きな軸となって進む。 「児童画展開催に向けて」：ワークショップの実施に向けて、見通しを立てて準備する。 「地域貢献活動」：実践の前に自身に何に目して参加するのか確認すること。 就職試験対策や、外部標準化テストには自身の苦手とする部分を確認と予習をして臨むこと。 その他、さまざまな活動に参加することになるが、振り返りを必ず行い、自身が活動を通して何を学び、何を課題として見つけたのかはっきりとさせること。そして、関連することに興味を持って調べること。

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス 児童画展開催に向けて 企画概要(新城市) 第2回 (演習) 児童画展開催に向けて テーマ決め(新城市) 第3回 (演習) 地域貢献活動①ワークショップの準備(まちなか図書館) 第4回 (演習) 地域貢献活動①ワークショップの準備(まちなか図書館) 第5回 (実習) 地域貢献活動①ワークショップの実施(まちなか図書館) 第6回 (実習) 学外活動 第7回 (演習) 豊橋の景観に関するワークショップ(豊橋市との連携) 第8回 (演習) 地域貢献活動②ワークショップの準備(ここにこ) 第9回 (実習) 地域貢献活動②ワークショップの実施(ここにこ) 第10回 (演習) 地域貢献活動③ワークショップの準備(ことことキャラバン) 第11回 (演習) 地域貢献活動③ワークショップの準備(ことことキャラバン) 第12回 (実習) 地域貢献活動③ワークショップの実施(ことことキャラバン) 第13回 (演習) 地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの準備(新城市) 第14回 (演習) 地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの準備(新城市) 第15回 (実習) 地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの実施(新城市) 第16回 (実習) 防災教育(バッククッキング) 第17回 (演習) 創造祭への参加 企画準備 第18回 (演習) 創造祭への参加 準備 第19回 (演習) 地域貢献活動⑤ワークショップの準備(豊橋市美術館) 第20回 (演習) 地域貢献活動⑤ワークショップの準備(豊橋市美術館) 第21回 (演習) 地域貢献活動⑤ワークショップの準備(豊橋市美術館) 第22回 (実習) 地域貢献活動⑤ワークショップの実施(豊橋市美術館) 第23回 (演習) 地域貢献活動⑥ワークショップの準備(まちなか図書館) 第24回 (演習) 1・2年生交流活動 第25回 (演習) 地域貢献活動⑥ワークショップの準備(まちなか図書館) 第26回 (実習) 地域貢献活動⑥ワークショップの実施(まちなか図書館) 第27回 (演習) 季節の行事(焼き芋など) 第28回 (演習) 環境を活かした活動(嗅覚、味覚) 第29回 (講義) 消費者教育(マネープラン講座) 第30回 (講義) 就職直前指導講座 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	PEFM2020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	38129			
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ			授業種別	週間授業			
科目責任者	鈴木 順子			単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 順子							
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つために必要な資質形成を目指す。多様な社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭、保育教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 近年、様々な配慮が必要となる子どもが増え、保育者には個々に対する対応力や子ども同士の育ち合いを支える力が求められている。多様性を認め合えるような保育を実践できる力を身につける必要がある。そのような力を身に付けるために、本セミナーでは、与えられた課題をただこなすだけでなく、自ら問題意識を持ち、その問題への対処方法を考え、実践できるよう取り組むことが求められる。 就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行っていく。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○				
到達目標	1. 保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を身に付け、積極的に行動することができる。 2. 保育者として演じる力を身に付け、実践できる。 3. 子どもたちに対して多様性の理解を促す教材を考案し、作成、実践することができる。 4. 子育て支援の場での地域貢献活動について立案、実践することができる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の取り組みと課題提出、及び地域貢献活動の実践から評価を行う。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業の取り組みと課題提出	65%	課題の取り組み方(丁寧に制作されたか、レポートは適切な内容、記述がされているか)と課題提出の回数。
地域貢献活動の実践	35%	計画に即した地域活動に向けて協同的な取り組みができたか。そのための準備と実践ができたか。

受講条件	(卒) 必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること
事前・事後学修(内容・時間)	1. 課題への取り組み(10～14回／2時間程度) 2. 学園祭の計画や準備(第18～19回／2時間程度) 3. 地域貢献活動の準備&就職で活用できる教材の作成(第6～10、11～14、22～28回／2.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(演習) 地域貢献活動(1)(地域活動の計画・グループ決め) 第3回(演習) 就職試験対策(1)(常識模擬試験) 第4回(演習) 実践力を高める(1)(絵本の読み聞かせの実践) 第5回(演習) 実践力を高める(2)(絵本の読み聞かせの実践) 第6回(演習) 地域貢献活動(2)(地域活動の計画立案) 第7回(演習) 豊橋市の景観に関するワークショップ(豊橋市との連携) 第8回(演習) 就職試験対策(2)(保育士専門模擬試験) 第9回(演習) 地域貢献活動(3)(教材作成) 第10回(演習) 地域貢献活動(4)(教材作成) 第11回(演習) 地域貢献活動(5)(模擬実践) 第12回(演習) 地域貢献活動(6)(模擬実践) 第13回(実技) 地域貢献活動(7)(実践:つどいの広場) 第14回(実技) 地域貢献活動(8)(実践:つどいの広場) 第15回(講義) 春学期のまとめと振り返り 第16回(演習) 防災教育(バッククッキング) 第17回(演習) 地域貢献活動(1)(地域活動の計画・グループ決め) 第18回(演習) 地域貢献活動(2)(地域活動の計画立案) 第19回(演習) 創造祭の準備(1) 立案 第20回(演習) 創造祭の準備(2) 準備 第21回(演習) 外部標準化テスト 第22回(演習) 地域貢献活動(3)(教材作成) 第23回(演習) 地域貢献活動(4)(教材作成) 第24回(演習) 1, 2年生交流活動 第25回(演習) 地域貢献活動(5)(模擬実践) 第26回(実技) 地域貢献活動(6)(実践:つどいの広場) 第27回(実技) 地域貢献活動(7)(実践:つどいの広場) 第28回(講義) 秋学期のまとめと振り返り 第29回(講義) 消費者教育(マネープラン講座) 第30回(講義) 就職直前指導講座 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。
--------------	---

ナンバリング	PEFM2013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	39080			
科目	3908 キャリアベーシック・言語Ⅰ			授業種別	週間授業			
科目責任者	井原 淑雅			単位数	0 単位			
担当教員	井原 淑雅、岡田 安代							
授業概要	国語力というのは、全ての科目の礎となるものである。また、人として暮らしていくためにも不可欠な力である。これが不足していると、短期大学の講義・演習の履修に際して支障が出る場合もある。さらに社会人として巣立つ際にも、不便さや不都合が生じることもある。この科目では、課題を通して基本的な国語力を習得し、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○		○					
到達目標	1. 各々の言語表現レベルを確認した上で、社会人としてふさわしい国語力を身につける。 2. 基本的文法を理解し、自己表現、情報伝達できる文書力を身につける。 3. 表現したいことをまとめ、分かりやすく伝えるための表現方法を理解し、実践できる。							

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育の基本用語 改訂2版	長島和代編	わかば社	1000	9784907270346	
	出口汪／著	小学館	1000	9784098377022	
出口汪の新日本語トレーニング すべての学習に必要な力を、自分で身につける! 2 基礎国語力編 下	出口汪／著	小学館	1000	9784098377039	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	平常点を 50%、提出物・課題の達成度を 50%として評価を行う。 筆記試験は行わず、課題提出・小テストによって課題の達成度を判断する。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト・提出物	50%	講義内容の習熟度を確認する。
課題レポート	50%	課題に対する理解度を確認する。

受講条件	プレイズメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。
事前・事後学修(内容・時間)	プリントの予習(1時間)・復習(1時間程度) 予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。 進捗状況によっては個別に宿題を課す。

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する内容の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。 第1回(講義・演習) 実習日誌の漢字を書いてみよう 4月、5月、6月 第2回(講義・演習) 実習日誌の漢字を書いてみよう 7月、8月、9月 第3回(講義・演習) 実習日誌の漢字を書いてみよう 10月、11月、12月 第4回(講義・演習) 実習日誌の漢字を書いてみよう 1月、2月、3月 第5回(講義・演習) 保育の基本用語の確意味の確認 第6回(講義・演習) 基礎国語力編(上) ステップ1(主語と述語) 第7回(講義・演習) 基礎国語力編(上) ステップ2(言葉のつながり) 第8回(講義・演習) 基礎国語力編(上) ステップ3(文の構造) 第9回(講義・演習) 基礎国語力編(上) ステップ4(文の要点) 第10回(講義・演習) 基礎国語力編(上) ステップ5(助詞と助動詞) 第11回(講義・演習) 基礎国語力編(下) ステップ6(文章の要点) 第12回(講義・演習) 基礎国語力編(下) ステップ7(長い文の要点) 第13回(講義・演習) 基礎国語力編(下) ステップ8(正確な文を書く) 第14回(講義・演習) 基礎国語力編(下) ステップ9(接続詞と指示語) 第15回(講義・演習) 基礎国語力編(下) ステップ10(総合演習) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。
--------------	--

ナンバリング	PEFM0016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	39090		
科目	3909 キャリアベーシック・言語Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	井原 淑雅			単位数	0 単位		
担当教員	井原 淑雅						
授業概要		この科目では、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標とし、語彙の運用能力を高める。					
ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4		
ディプロマポリシーとの関連性		○		○			
到達目標		1. 社会人としてふさわしい一定の国語力を身につける。 2. 自己表現、情報伝達のために、他者が理解できる文章を書くことができる。 3. 多角的な視野をもち、語彙力を向上させ、適切な文章表現ができる。					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
キャリアアップ 国語表現法 二十五訂版	丸山顯徳 編著	嵯峨野書院	1700 円 + 税		
出口汪の新日本語トレーニング すべての学習に必要な力を、自分で身につける! 1 基礎国語力編 上				9784782306284	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	小テスト・提出物を 50%、課題の達成度を 50%として評価を行う。 筆記試験は行わず、課題提出・小テストによって課題の達成度を判断する。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト・提出物	50%	講義内容の理解度を確認する。
課題達成度テスト	50%	講義内容の達成度を確認する。

受講条件	プレイスメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。
事前・事後学修(内容・時間)	プリントの予習(1時間)・復習(1時間程度) 予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。 進捗状況によっては個別に宿題を課す。

授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点后速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス 漢字習得の近道 第2回(講義・演習) 同音異義語 第3回(講義・演習) 同訓異義語 第4回(講義・演習) 音訓と熟語 第5回(講義・演習) 熟語の構造 第6回(講義・演習) 四字熟語① 第7回(講義・演習) 四字熟語② 第8回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名 第9回(講義・演習) 漢字検定3級 過去問題① 第10回(講義・演習) 漢字検定3級 分野別問題① 第11回(講義・演習) 漢字検定3級 分野別問題② 第12回(講義・演習) 漢字検定3級 過去問題② 第13回(講義・演習) 漢字検定3級 分野別問題③ 第14回(講義・演習) 漢字検定3級 過去問題③ 第15回(講義・演習) まとめ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	PEFM0017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	39100
科目	3910 キャリアベーシック・音楽	授業種別	週間授業
科目責任者	井中 あけみ	単位数	0 単位
担当教員	井中 あけみ、山上 京夏		
授業概要	幼児教育・保育科に入学する学生のピアノ経験値には大きな個人差が存在する。特に、必修科目「音楽I」で求める実践的な技能を、未経験者が初期段階から習得するには多くの時間を要する。そのことから、本科目では、「音楽I」の円滑な修得に向け、「読譜」「両手奏」「弾き歌い」等に必要な基礎的技能の土台を固めていく。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	1. ピアノ演奏における姿勢や運指を習得する。 2. 音符の読み方（ト音記号・ヘ音記号）を身に付ける。 3. 大譜表（両手の読譜）を理解し、両手での演奏を実践することができる。 4. 両手演奏に合わせて、弾き歌いの基礎技能を習得することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準バイエルピアノ教則本	フェルディナント・バイエル（原典）	全音楽譜出版社	1100 円	ISBN:978-4-11-101010-3	
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100	井戸和秀 / 編	チャイルド社	1800 円	ISBN:978-4-8054-8186-8	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業時に適宜参考資料などを配布する。
------------------------------	--------------------

成績評価	各曲目に対する読譜や演奏技能への取り組みを評価する（練習量）。そこから向上し演奏できる曲数についてを評価する。	
評価項目	割合	評価基準
読譜理解と演奏実践	60%	曲ごとの読譜を理解し、その練習へのできているかを評価する。
練習量と習得曲数	40%	弾けるようになった曲数を評価する。

受講条件	必修科目「音楽I」の履修において、ピアノ演奏及び読譜が全く未経験である学生を対象とする。
事前・事後学修（内容・時間）	練習時間については、必修科目「音楽I」の演奏を理解させる内容であるため、「音楽I」の学修に追加する時間数である。 各自の演奏曲への予習・復習（第1回～15回 / 0.5 時間程度） 音楽Iのピアノテスト3回の課題曲についてを完成させる。（各テスト前日 / 0.5 時間）

授業の実施方法と授業計画	以下は、必修科目「音楽I」の学修支援として個別指導形式で行う。曲について必要な解説や実技指導を個別で行う。 第一回（講義・演習・実技） ピアノ奏法の基礎（姿勢・フォーム）、運指（指番号）の理解 第二回（講義・演習・実技） ト音記号の読譜法と鍵盤の位置関係 第三回（講義・演習・実技） ト音記号の右手の運指と演奏 第四回（講義・演習・実技） ト音記号で演奏する両手の弾き方 第五回（講義・演習・実技） 「音楽I」のピアノ小テストに向けた課題曲リハーサル① 第六回（講義・演習・実技） ヘ音記号の読譜法と左手の運指 第七回（講義・演習・実技） ト音記号とヘ音記号による読譜と演奏 第八回（講義・演習・実技） 弾き歌いの導入（右手演奏と童謡曲歌唱） 第九回（講義・演習・実技） 童謡曲の両手伴奏（読譜、歌唱について） 第十回（講義・演習・実技） 「音楽I」のピアノ小テストに向けた課題曲リハーサル② 第十一回（講義・演習・実技） 両手が対応する音価（音符の長さ）とタイミングの整合 第十二回（講義・演習・実技） 楽曲についての特徴的なリズム演奏法 第十三回（講義・演習・実技） 弾き歌いにおける滑舌と声量のコントロール 第十四回（講義・演習・実技） 定期試験に向けた課題曲の確認と練習 第十五回（講義・演習・実技） 定期試験に向けたリハーサル ※ただし、履修学生の個別の経験値や進度により、授業計画を変更することがある。
--------------	--

ナンバリング	
--------	--